

## III 研究事業

### 基本目的

東洋文庫は1924年に岩崎久彌氏により、モリソン（G. E. Morrison）コレクションならびに日本古典貴重資料を含む岩崎コレクションを中核とするアジアの貴重図書・資料に関する民間の研究図書館として創設された。その後90年間余にわたり、一貫してこれらの貴重図書資料を中核とする100万冊に及ぶアジア諸地域の現地語資料を継続的に収集・管理し、それらのすべてを散逸させることなく保存・管理し、同時に広く世界の研究者並びに市民に公開することを目的とした事業を進めてきた。研究事業の長期的な目的は、これらのアジア研究に関する貴重図書資料の保存・管理・公開ならびにアジア現地語資料を収集・整理して、内外の研究者の利用に供するとともに、これらの資料にもとづく広範なアジア研究を推進して、世界のアジア研究の進展に大きく貢献することに置かれている。このような事業を250名に及ぶ研究員を擁して推進する類似の民間の研究図書館は国内には存在せず、世界的に見ても稀な例であり、アジア研究の長い伝統を有する東洋文庫が世界的に重要視される理由である。

### 2012-2014年度の重点事業目標

東洋文庫は、この基本目的をさらに効果的に実現するために、2012年度からは、これらの基本的な課題を推進する中で、以下の点に一層重点を置いた事業を推進してきた。

- (1) 2011年3月11日の東日本大震災の教訓を踏まえ、貴重資料に関する書誌的資料研究をより一層強化し、併せて貴重資料の修復・保管・複製化・電子化という連続した資料保存とその公開をより系統的かつ持続的に推進する。
- (2) 大きく変動するアジア＝世界情勢に対応する研究として、東洋文庫のすべての研究班の連携によって構成される「総合アジア圏域研究班」を設置し、主題研究、地域研究、資料研究を連結した「総合アジア圏域研究」を全アジア的視野から推進する研究体制を構築する。
- (3) 「総合アジア圏域研究」に伴う資料交流・人的交流・国際交流を一層推進し、研究成果を電子化などにより広く発信し、国際交流ならびに国際的な発進力を強化する。

- (4) 東洋文庫における資料研究・総合アジア圏域研究・国際交流・国際発信などの基本事業に不可欠な若手人材を育成する。

## 2015-2017 年度の重点事業目標

東洋文庫の基本的な事業を継続的に推進するなかで、特に 2015-17 年度においては、アジア資料研究データベース構築をより効果的に進めると共に、各研究班によるアジア現地研究・資料調査と収集を行い、東洋文庫の刊行物ならびに各種講演・講習会ならびにミュージアムによる経常的な公開展示などの取り組みを通して、広く内外にその研究成果を発信する計画である。以下に今期の主要な事業項目を掲げる。

- (1) アジア資料研究データベースの構築
- (2) 資料調査・研究の推進と、それによる現地研究機関との共同研究の推進
- (3) 国際シンポジウム・ワークショップの開催による国際発信と国際交流の推進
- (4) 研究成果の刊行・発信の強化
- (5) 若手研究者の育成

これらを基本とし、以下の事業を具体的に行う。(1) 東洋学講座、(2) アジア言語資料ならびにアジア関連洋書資料に関するコーディコロジー（文理融合型資料学）講習会、(3) すべての研究班による総合アジア圏域研究国際シンポジウムを各年に開催する。(4) 研究成果のデータベース化による国際発信を強め、(5) ハーバード・エンチン研究所ならびに ECAF（European Consortium for Asian Field Study）を始め協定機関との国際連携を強める。とりわけデジタル図書館としての機能を高めるため、横断的資料検索データベース作成に取り組み、アジア各地域を地域横断的に、また歴史＝現代的に比較検討し、アジア研究の総合的研究水準を高めることを目指す。

## 1. 調査研究

2016 年度は、アジア研究の長い学問的伝統と国内外の研究ネットワークを有する東洋文庫の特徴を生かし、全 6 研究部門 13 研究班が 20 の資料研究テーマを設定して、東洋文庫が収集・所蔵する一次資料の文献学的分析（解

題・目録・訳註等の作成)と、それにもとづく基礎研究を持続的に進めていくと同時に、その研究成果を「総合アジア圏域研究」のもとに連結して、アジア諸地域の歴史と文化の地域連関と相互影響について、アジア全体を視野に入れた学際的共同研究を推進し、現代アジアの複合的・動態的な把握につとめる。さらに、長期的には、そこから導き出された問題から新たな研究課題を創出するために、歴史・社会・文化等、多角的な視野から解き明かすことを試みる。また、最新の研究成果を国際的に広く発信することで、世界のアジア研究の進展に大きく貢献することを目指す。その一方で、アジア諸地域の現地研究機関・図書館との学術交流を積極的に推進することで、新たな分野の資料群を探索・収集し、研究図書館としての東洋文庫の一層の充実を目指す。

東洋文庫では、西は北アフリカから東は日本に至るまで現地使用言語に基づき11の地域区分と20余の言語文化区分を設定し、研究班の形をとってアジア諸地域の現地語資料に対する研究を分担してきた(「2016年度のアジア資料調査地域分担一覧」p.38)。たとえば、現地語資料の開拓と発見、さらにそれらの収集にかかわる現地での交渉、および現地との共同作業で行う資料の整理・編集や目録の作成など、現地調査にはじまる連続したアジア現地語資料の収集と調査研究に取り組み、絶えず先端的な研究領域を開拓してきた。2016年度においても、下記のごとく、地域区分・言語区分による研究グループと資料研究テーマを設定して、アジア諸地域の現地語資料の調査研究に携わっていく。

また、調査研究の活動は、研究部執行部が策定した原案にもとづき、各研究班の総括研究員から構成される研究部運営委員会にて検討し具体化された重点活動方針を基軸に推進する。具体的には、従来から取り組んできた下記の5つの重点事業目標をより一層明確に打ち出して、それぞれに研究部の常勤研究員・嘱託職員を配置して、各重点事業の実施・運営において責任を持つ体制を構築した。

- (1) アジア資料研究データベースの構築(担当者: 會谷佳光・山村義照)
- (2) 資料調査・研究の推進と、それによる現地研究機関との共同研究の推進(担当者: 會谷佳光・徐小潔・太田啓子)
- (3) 国際シンポジウム・ワークショップの開催による国際発信と国際交流の推進(担当者: 山村義照・徐小潔・太田啓子)
- (4) 研究成果の刊行・発信の強化(担当者: 中村威也・小澤一郎)
- (5) 若手研究者の育成(担当者: 山村義照)

## A. 研究体制と資料調査・研究テーマ

### ○超域アジア研究

#### 〈超域アジア研究部門〉

総合アジア圏域研究班「総合アジア圏域研究(2)」(【超域-1】と略記す)

「コディコロジー・紙料調査による蔵書調査研究」

「歴史地図研究—『大明地理之図』調査研究」

「モリソン家の人々—モリソンコレクション将来100周年記念事業」

総括	斯波義信◎
副総括	濱下武志◎、田仲一成◎、平野健一郎◎
現代中国	毛里和子、中兼和津次、村田雄二郎、斯波義信◎*
現代イスラーム	三浦 徹、池田美佐子、粕谷 元、湯浅 剛
前近代中国	太田幸男、斯波義信◎*、山本英史、清水信行
近代中国	内山雅生
東北アジア	六反田豊、松村 潤、石橋崇雄、細谷良夫、 加藤直人、小沼孝博
日 本	今西祐一郎
中央アジア	梅村 坦、小松久男、土肥義和
チベット	吉水千鶴子
インド	小名康之
東南アジア	弘末雅士
西アジア	三浦 徹*、高橋英海
東アジア資料 (研究補助者)	斯波義信◎*、塚原東吾、江南和幸 徐 小潔、太田啓子

(◎は専従者、\*は重複を示す。以下同じ)

現代中国研究班「現代中国の総合的研究(3)」(【超域-2】と略記す)

総括	村田雄二郎*
副総括	毛里和子*
政 治	毛里和子*、天児 慧、青山瑠妙、興梠一郎、唐 亮、

	平野 聡
経 済	中兼和津次*、巖 善平、丸川知雄、梶谷 懐、 寶劔久俊、唐 成
国際関係・文化	村田雄二郎*、平野健一郎◎*、濱下武志◎*、 田中明彦、川島 真、貴志俊彦、黄 東蘭、 砂山幸雄、高田幸男、古田和子、土田哲夫、 尾形洋一、大澤 肇、中村元哉、加藤恵美
資 料	斯波義信◎*、貴志俊彦*、新村容子、城山智子、 村上 衛、岡本隆司

現代イスラーム研究班「新中東・イスラーム圏における議会主義の展開と立憲体制を軸とする政治文化に関する総合的比較研究」(【超域-3】と略記す)

総 括	三浦 徹*
副総括	小松久男*
アラブ	池田美佐子*、長沢栄治、小杉 泰、関本照夫、 松本 弘、鈴木恵美、堀井聡江
イラン	吉村慎太郎、松永泰行、黒田 卓、鈴木 均
トルコ	粕谷 元*、小松久男*、設楽國廣、江川ひかり、 大河原知樹、秋葉 淳、澤江史子、佐々木紳
中央アジア	湯浅 剛*、小松久男*、宇山智彦

○歴史文化研究

〈東アジア研究部門〉

前近代中国研究班

「中国古代地域史研究－『水経注』の分析から－(2)」(【東ア-1】と略記す)

総 括	太田幸男*
副総括	多田狷介
	松丸道雄、藤田 忠、飯尾秀幸、靱山 明、塩沢裕仁、 窪添慶文、池田雄一、金子修一、川合 安

「東アジア都城の考古学的調査・研究（4）」（【東ア -2】と略記す）

総括 清水信行\*

副総括 妹尾達彦

早乙女雅博、飯島武次、井上和人、小嶋芳孝、金沢 陽

「中国社会経済史用語のデータベース化」（【東ア -3】と略記す）

総括 斯波義信◎\*

副総括 渡辺紘良

梅原 郁、大澤正昭、徳永洋介、青木 敦、廣瀬紳一、  
石川重雄、土肥祐子

「前近代中国民事法令の変遷（2）」（【東ア -4】と略記す）

総括 山本英史\*

副総括 鶴見尚弘

南宋 大澤正昭\*、青木 敦\*、小川快之

元代 鈴木立子

明代 鶴見尚弘\*

明清代 岸本美緒、濱島敦俊、寺田浩明、西 英昭、高遠拓児

近代中国研究班「戦前・戦中期日本の華中・華南調査の研究」（【東ア -5】  
と略記す）

総括 内山雅生\*

副総括 久保 亨

経済 久保 亨\*、金丸裕一、弁納才一、富澤芳亜、吉澤誠一郎

政治 本庄比佐子、松重充浩、田中比呂志

文化・社会 内山雅生\*、高田幸男\*、佐藤仁史、浅田進史、山本 真、  
瀧下彩子◎

東北アジア研究班

「近世朝鮮記録類の総合的研究」（【東ア -6】と略記す）

総括 六反田豊\*

副総括 吉田光男

糟谷憲一、井上和枝、須川英徳、武田幸男、森平雅彦、  
山内弘一、山内民博

「満族関係資料の研究」（【東ア -7】と略記す）

総括 松村 潤\*

副総括 中見立夫

満洲語档案 加藤直人\*

楠木賢道、細谷良夫\*、柳澤 明、杉山清彦

「清代東アジア・北アジア諸領域の歴史的構造分析：政治・社会・経済・民族・文化の展開」（【東ア-8】と略記す）

総括 石橋崇雄\*

副総括 C. A. ダニエルス

岸本美緒\*、柳澤 明\*、武内房司

日本研究班「岩崎文庫貴重書の書誌的研究（3）」（【東ア-9】と略記す）

総括 今西祐一郎\*

副総括 深沢真二

語学 柳田征司、石塚晴通

文学 深沢真二\*、上野英二、大谷俊太、辻本裕成、朽尾 武、  
宮崎修多

思想・文化 齋藤真麻理、和田恭幸

#### 〈内陸アジア研究部門〉

中央アジア研究班

「古ウイグル語および関連諸語文献に関する研究」（【内陸-1】と略記す）

総括 梅村 坦\*

副総括 林 俊雄

古ウイグル語 P. ツィーメ、小田壽典、松井 太、橘堂晃一、  
森安孝夫

ソグド語・イラン語 吉田 豊

コータン語ほか 熊本 裕

「近現代中央ユーラシアにおけるイスラームと民族」（【内陸-2】と略記す）

総括 小松久男\*

副総括 新免 康

濱田正美、長縄宣博、堀川 徹

「敦煌・吐魯番資料に見る多元的宗教社会の研究」（【内陸-3】と略記す）

総括 土肥義和\*

副総括 氣賀澤保規

石塚晴通\*、片山章雄、妹尾達彦\*、荒川正晴、關尾史郎、  
池田 温、岡野 誠

チベット研究班「チベット語文献資料の基礎研究」(【内陸-4】と略記す)

総括	吉水千鶴子*
副総括	星 泉
仏教思想	川崎信定
敦煌文献	武内紹人
ボン教	御牧克己
歴史	山口瑞鳳
密教図像	立川武蔵
言語	星 泉*

〈インド・東南アジア研究部門〉

インド研究班「インド刻文史料の蒐集と研究(2)」(【南ア】と略記す)

総括	小名康之*
副総括	太田信宏
ウルドゥー	萩田 博
ドラヴィダ	太田信宏*、水野善文、石川 寛
アーリヤ	三田昌彦
古代サンスクリット文献	吉水清孝

東南アジア研究班「近現代東南アジア史料研究」(【東南】と略記す)

総括	弘末雅士*
副総括	嶋尾 稔
	青山 亨、北川香子、坪井祐司、島田竜登、東條哲郎、 牧野元紀◎

〈西アジア研究部門〉

西アジア研究班「イスラーム地域の比較制度研究」(【西ア】と略記す)

総括	三浦 徹*
----	-------



副総括	近藤信彰
アラブ	大河原知樹*、佐藤健太郎、高野太輔、原山隆広◎、 吉村武典、亀谷 学
トルコ	永田雄三、林佳世子、高松洋一、秋葉 淳*
イラン	清水宏祐、近藤信彰*、守川知子
中央アジア	堀川 徹*、磯貝健一、矢島洋一

○資料研究

〈資料研究部門〉

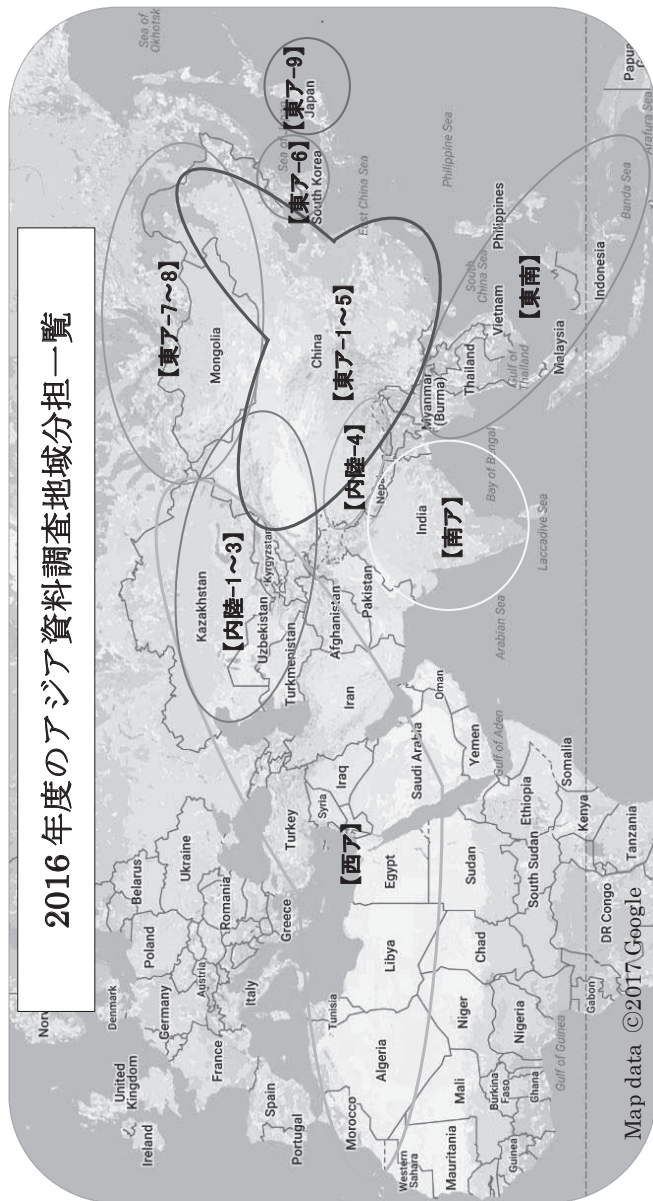
東アジア資料研究班「東アジア資料の研究（2）」（【資料】と略記す）

総 括	斯波義信◎*
副総括	上田 望、田仲一成◎*
日 本	浅野秀剛、片桐一男、吉田伸之
中 国	丘山 新、尾崎文昭、片山 剛、佐藤慎一、戸倉英美、 濱下武志◎*、馬場英子、末成道男
朝 鮮	藤本幸夫
内陸アジア	森安孝夫
情 報	廣瀬紳一

上記の研究テーマによる調査研究活動は、アジア各地の異なる言語や伝統的慣行に基づいて歴史的に形成された地域社会の構成分類と密接に関連するものであり、便宜上、研究班の形を取ってはいるものの、東洋文庫におけるアジア全域を視野に入れた全体の研究事業と不可分の関係にあり、アジア地域研究の基礎的な構成要素を成している。これは、創設以来90年間余の学問的伝統、資料の収集蓄積、および国内外の研究ネットワークを有する研究図書館として、東洋文庫が実施するのにふさわしい事業である。

なお、各研究テーマに基づく資料の調査研究は多種多様であり、対象地域によっては困難性を伴うものもある。これらの隘路を打開するため、すべての研究班と経験豊富なシステムエンジニアからなる「研究情報発信検討委員会」を設置し、すべての計画の実施状況を初期段階から継続的に掌握・評価し、必要に応じて、予算的なまた人的な研究資源を配分することが検討可能な体制を取っている。この統括体制を敷くことにより、予算の適正配分と重点化措置を行うことが可能となり、より効率的な予算の活用を図ることが可

## 2016年度のアジア資料調査地域分担一覧



※東洋文庫の「歴史文化研究」部門の各グループ (p.33～37) の資料調査地域を枠と略称によって示したものの

能となる。

この体制のもと、東洋文庫の班研究の伝統と特色を生かして、アジア資料の調査・研究と研究データベースの作成を両輪として、資料の調査・研究を推進する。

## B. 調査研究における重点活動事業

### (1) アジア資料研究データベースの構築

担当者： 研究部 會谷 佳光、山村 義照

アジア資料研究データベースは、東洋文庫がこれまで一貫して進めてきたアジア諸地域の現地語資料研究の蓄積を踏まえ、研究班ならびに研究員個人が1～3年間の計画を立てて参加する形で構築していく。

計画の実施にあたっては、資料の性格、収集のための現地調査並びに現地研究機関との交渉、収集方法の困難性の程度、収集後の整理・編集、目録の作成、資料のデジタル化など、きわめて多様な課題がある。たとえば、現地語資料の収集にはしばしば多大な困難が伴うものであるが、東洋文庫のアジア資料研究の取り組みは、現地研究者との共同研究や共同編集活動を通じた学問的信頼関係に基づいて行われており、少なからぬアドバンテージを有しているといえる。

これらの資料収集の成果に基づいて取り組まれるアジア資料研究データベースの構築では、東洋文庫の研究員・研究班の長年に渡る資料調査・研究活動の成果を史資料・写真・地図・パンフレット・論文・解題・索引（語彙・用語・固有名詞等）・研究ノートなど複層的かつ横断的に検索可能なデータベースを構築することを目指し、その対象となる書籍・論文・その他資料等へのリンクや、他機関との連携も視野に入れている。また、2015年度に設置した全研究班が参加する「研究データベース共同研究グループ」が中心となって、年2回、研究情報発信検討委員会を開催し、研究対象地域別に選出された委員により、研究データベースの企画立案を行い、かつ進捗・公開状況について報告・協議を行っている。また、東洋文庫の研究成果の発信強化のため、東洋文庫リポジトリ「ERNEST」の登録論文を一層充実させ ([http://www.i-repository.net/il/meta\\_pub/G0000171kenkyu](http://www.i-repository.net/il/meta_pub/G0000171kenkyu))、東洋学講座等の講演会の情報や動画を登録した講演会データベースの作成を行う

(<http://124.33.215.234/lecture/>)。研究データベースの開発に当たっては、言語・地域・時代・データ形式に関係なく登録可能な汎用性のあるデータベースを構築することにより、研究・利用上の便宜を図るとともに、経費の効率化をはかる。

#### [研究実施概要]

- a) コディコロジー（文理融合型資料学）研究【超域 -1】  
東洋文庫等が所蔵するアジア・ヨーロッパ各地の書物に用いられた紙を対象に、光学顕微鏡による紙の分析調査結果を取り込み、紙質・時代・産地等をリンクさせたデータベースの作成を検討した。
- b) 古地図研究（中国明代・日本・朝鮮・琉球）【超域 -1】  
細谷良夫研究員より寄贈された江戸時代に書写された『大明地理之図』4軸を素材として、地図と地名等の地図上の情報をリンクさせたデータベースの作成に着手すべく検討を開始した。
- c) 研究データベース共同研究（中国唐代）【超域 -1】  
2015年度に作成した「新版唐代墓誌所在総合目録（増補版）データベース」の一般公開に向けた検討とデータのチェック作業を進めた。
- d) 中国・東アジア（19世紀後半～20世紀初頭 資料）【超域 -2】  
清仏・日清・日露戦争から北洋軍閥期にいたる中国の政治過程および国際政治・経済・社会動態の詳細記録「モリソンパンフレット」（東洋文庫所蔵）約6,000冊の各冊の解題を「英文サマリー」として作成し、DB公開して内外の利用者に供する作業に当たった。これは平成28年度科学研究費・基盤研究（B）「『モリソン文庫』時事資料群の国際的な公開と活用による東アジア近現代史像の刷新」（研究代表者：岡本隆司（京都府立大学教授））との共同の下に推進され、同上資料のうち、〈歴史〉部門全912件中370件の解題作成を終えた。
- e) イスラーム諸地域（現代）【超域 -3】  
「日本における中東・イスラーム研究文献目録データベース」のアップデートを日本中東学会と連携して継続し、1,040件の新文献を「イスラーム地域研究資料室サイト」に掲載し、目録文献総数は計54,540件（2月末）となった。  
オスマン帝国期およびトルコ共和国期の重要法令を翻訳して順次データベース化していく作業の一環として、八尾師誠・池田美佐子・粕谷元編『全訳 イラン・エジプト・トルコ議会内規』（公益財団法人東洋文庫、2014

年)所収のトルコ大国民議会内規(1927年)を必要に応じて改訳するとともに、同内規に注釈を付す作業を進めた。また、トルコ共和国初期の重要な法令とトルコ大国民議会本会議決議の翻訳作業を進めた。これまでに収集した史料(とくに議会関係史料)のデータベース化の作業を進めるための打ち合わせを行った。

f) 中国(前近代 渤海)【東ア-2】

渤海関係の研究に関するデータベースの充実について検討した。また、平成25～27年度科学研究費・基盤研究(B)「クラスキノ土城を中心とする沿海州渤海土城の考古学的研究」(研究代表者:清水信行(青山学院大学教授))研究成果報告書『ロシア沿海地方古代・中世城跡の門構造と鍵・錠前』掲載のロシア研究者による研究論文中に、沿海地方の古代・中世の城跡に関する報告書が多数挙げられている点に着目し、これらを利用した沿海地方の資料データベースの作成について検討を開始した。

g) 中国(前近代 社会経済史)【東ア-3】

東洋文庫で開設当初から行われてきた《歴代正史食貨志訳註》の研究成果を基礎としながら、これに関連して制作した語彙索引、用語集成等を整理増補して、中国社会経済史の用語集成として編集し、データベースとして公開利用に供することを目的に、2016年度は『中国社会経済史用語解』(2012年刊、2014年DB公開)、『宋会要食貨篇社会経済用語集成』(2007年刊、2015年DB公開)に引き続き、2015年度に唐宋の用語約34,000件を収めた『唐宋編年史料語彙索引(Ⅰ)』の編集を完了して、2016年度にデータベースとして公開した([http://124.33.215.236/tosohennen/tosohen\\_query\\_input.php](http://124.33.215.236/tosohennen/tosohen_query_input.php))。

平成28年度科学研究費・基盤研究(C)「宋～明代日用類書の研究」(研究代表者:大澤正昭)に協力し、『新刻天下四民便覧三台万用正宗』巻八(下層)律例門訳注稿(試行本)、『新刻天下四民便覧三台万用正宗』巻八下層所収『鳴情均化録』未収録条文訳注(試行本)を作成して、ホームページにて試験公開した(<http://www.toyo-bunko.or.jp/research/nichiyoruisyoyakuchu/sominnichiyoruisyoyakuchu.html>)。

『中国社会経済史用語解』の増補作業の一環として、《法制》の用語解データベースを準備・編集した。中国法制史にかかわる訳注書(『唐律疏議』、『名公書判清明集』、歴代正史の『刑法志』、『明律国字解』等)、辞典・事典(東川徳治『中国法制大辞典』等)、研究書(滋賀秀三『中国家族法の原理』等)の語彙を抽出し、《法制》の用語解を分担執筆する準備作業を

行った。2017年度は上記の『中国社会経済史用語解』（刊行本、DB）と同様に、各語彙の用例上の広狭、一般語義と特殊語義の区別に即して検索できるよう、《法制》の範疇下に第1レイヤーから第3レイヤーまでの分類を施して整理したDB版下を作成して公開する予定である。

本計画は中国前近代における基層社会の重要語彙に対する調査研究の蓄積をベースとし、さらに発展させることを主眼とする。加えて、語彙検索の工具としての在来の中国製、日本製の辞書が集録する用語は、伝統漢学を解説する工具にとどまるものが大半を占め、社会経済の日常生活の史料である俗語・俗文、ないし雅俗を混用した語彙ないし文章を読み解くための工具の提供が著しく不足してきたことの反省から、本計画は、中国基層社会の実態を究明するための工具を作成し、これを《電子辞書》として公開することを目指すものである。

h) 中国（前近代 民事法令）【東ア-4】

小川快之編「宋—清代法秩序民事法関係文献目録」（大島立子編『前近代中国の法と社会—成果と課題』財団法人東洋文庫、2009年所収）の増補が必要な時期に来ており、そのためのデータベース化の準備を進めた。

i) 中国（近代 日本の華中・華南調査）【東ア-5】

2015年度と同様に、地域研究として発表された「華中」「華南」に関する諸研究に関する研究史整理を踏まえて、膨大な数に上る戦前・戦中期の日本による調査報告類を整理分類する作業を進めてきた。特に東洋文庫所蔵の資料を中心に、中国大陸に限らず、台湾及び香港での研究も視野に入れて、「華中棉産改進黨」、「台湾総督府文書」等の文献を中心に、メンバーおよび研究協力者による分析を試み、研究データベースの構築に向けた研究活動を持続的に続けた。

j) 北東アジア（満族関係資料）【東ア-7】

1980年代より中国東北部、新疆ウイグル自治区、モンゴル、ロシア極東等の地で調査を実施した際に撮影・収集した、主として満族（清朝）関係の資料（写真、地図、パンフレット、文書等）について、継続してデジタル化を行うとともに、資料全体のデータベース化と目録化を進めた。

k) 北東アジア（清代東アジア・北アジア諸領域 歴史的構造分析）【東ア-8】

清代東アジア・北アジア諸領域における歴史的構造の全容を総合的に捉える研究体制を構築するべく、写真で蒐集した史料の一部を既に公開したことに続き、清代政治・経済・民族・文化の各専門研究領域をもとに、

海外における図書館・檔案館・研究機関等に所蔵されている檔案文献史料類のマイクロ＝フィルム方式や新たなデジタル化方式による整理・分析作業を進めた。

l) 朝鮮（近世 資料研究）【東ア -6】

研究データベース構築のための基礎作業として、『日本所在朝鮮戸籍関係資料解題』（2003年）および『日本所在近世朝鮮記録類解題』（2010年）に記載されている各種文献の書誌情報を再点検した。

m) 中央アジア（古ウイグル語文献）【内陸 -1】

1996年に東洋文庫とロシア・サンクトペテルブルグのロシア科学アカデミー（RAS）東洋写本研究所（IOM）（当時の科学アカデミー東洋学研究所）との間で締結した契約に基づいて東洋文庫にもたらされたセリンディア・コレクション（SIC）中の古文獻のマイクロフィルム資料によって、2002年には印刷版のカタログ（仮目録第1稿）を作成し、つづいて2014年までにデータベース「IOM所蔵ウイグル文書目録—東洋文庫蔵マイクロフィルムより—」（カタログの第2稿に相当するデジタル版カタログ）を作成した。2016年度はデータベースの内容改訂を、一点ずつ着実に推進した。

このデータベース構築にあたって、研究グループメンバーが、IOMでの現物調査の機会に、IOMのSIC研究スタッフと面会し、東洋文庫との協力態勢構築の方策について話し合った。その後の通信連絡によって、共同作業の可能性および成果のウェブ上での公開の可能性について協議を継続した。東洋文庫側からはウェブ上への全体像公開に向けた提案をしているが、当面は、学術研究の発展のため最も有効な公開方法として、デジタル版ファクシミリ付きのカタログを東洋文庫内部のネットワークにアップして研究者の利用に備えている。

n) 中央アジア（敦煌・吐魯番 漢語文献）【内陸 -3】

長年当研究グループの柱であった、「サンクトペテルブルク東洋学研究所所蔵内陸アジア出土漢語文献マイクロフィルム目録のデータベース化」計画における漢語文献の整理・把握は、非仏典漢語文献の集約が完了し、2016年度に『敦煌・吐魯番文書の世界とその時代』を刊行して、その成果を報告できた。整理が終わった漢語文献のデータの公開等をめぐって、今後検討を進めることとした。

総合アジア圏域研究班の研究データベース共同研究として、氣賀澤保規研究員を中心に進めてきた『新版唐代墓誌所在総合目録（増補版）』デー

データベースが、東洋文庫内で利用検索できる態勢が整った。約9千点の唐代墓誌所載データが盛り込まれ、石刻研究への貢献が期待される。当研究グループとして、今後これらの資料研究の発信を強化することも検討している。

o) 中央ユーラシア（近現代 イスラームと民族）【内陸-2】

近現代中央ユーラシア刊行のロシア語を含む中央ユーラシア諸語による定期刊行物のうち、1991年のソ連解体前後期に刊行された *Haqiqati Uzbekiston*、*Javononi Tojikiston* 紙などについて、将来の研究データベース化を見据えてCD化を行い、利用の便をはかった。

p) チベット（チベット語文献）【内陸-4】

チベット人研究協力者の協力のもとに、東洋文庫所蔵河口慧海請来チベット語文献テキスト・データベースの作成を行った。

q) インド（古代・中世史）【南ア】

個々の研究班メンバーがそれぞれの専門のテーマごとに研究データベースの作成を進めた。

r) 東南アジア（近現代 史料研究）【東南】

日本のアジア観形成過程を検討する上で重要な材料となる、明治期から第二次世界大戦前夜までの日本の東南アジア関係の文献を収集整理し、そのデータベース化を進めた。2016年度の作業を通して、東南アジアのなかでも多数が出版されたインドネシアの関係文献のデータベース化は、ほぼ終わりに近づいた。

s) 東アジア（資料研究）【資料】

研究班メンバーが過去において、中国大陸、台湾、ベトナム等で実施した現地調査を通して収集した動画資料を公開した。次の通りである。

中国祭祀演劇動画（田仲一成研究員）

郷民儀礼：河上郷搶花炮、蒲台島搶花炮、龍舟（索罟湾）、龍舟（大埔）、  
水頭村元宵歌台

海陸豊劇：秦雪梅、陳三五娘、五台会兄

潮洲劇：孟麗君、双錯認

北方系地方劇：梁山伯祝英台、白蛇伝、二進宮

広東劇：六国封相、春風吹渡玉門関

中国木偶戲動画（馬場英子研究員）

猪羊戲、粉粧楼

東アジア人類学動画（末成道男研究員）



台湾少数民族儀礼、ベトナム祭祀儀礼

中国祭祀演劇写真資料データベースを改定し、現地調査別の検索リストを附加した。またキーワード中の地名については、Google Map とリンクさせた。

馬場英子研究員によって撮影された写真 3,500 枚を「中国浙江省舟山列島説唱木偶戯写真データベース」として公開した。併せて物語の梗概を付した。

以上の結果、中国祭祀演劇写真データベースのアクセス数は 2016 年度 3 月期において、前年度同期の 634,000 件から 20 % 増加して、763,000 件に到達した。また、中国祭祀演劇動画のアクセス数も 2016 年度 3 月期において、8 月期 87,000 件から 5 倍に急増し、441,000 件に達した。他の 2 種の動画のアクセス数も漸増してきている。総じて 2016 年度における東アジア資料班のデータベース充実計画は著しい成果を上げたものといえる。

## (2) 資料調査・研究の推進と、それによる現地研究機関との共同研究の推進

担当者： 研究部 會谷 佳光、徐 小潔、太田 啓子

アジア諸地域における資料収集と地域研究の蓄積を持ち、内外の研究連携を進めてきた東洋文庫であるからこそ実現可能な特徴ある研究を、アジア全体を視野に入れて多角的に推進する。それとともに、アジアの現状と密接に関連する各民族の個性豊かな歴史と文化の研究に基礎的かつ長期的に取り組むため、地域別・時代別に、あるいは周縁諸地域との地域連関や相互影響関係を視野に入れた研究を推進する。さらに基礎資料研究、現地研究、主題研究など多分野間、かつ国際間の比較研究を行うことで、大きく変動するアジア＝世界情勢に対応する研究を実現すべく取り組む。また、研究成果の検討・研鑽・発表の場として、東洋文庫内外の研究者や異分野の専門家・若手研究者を集めた研究会・講演会を開催する。

### [研究実施概要]

#### a) コディコロジー（文理融合型資料学）研究【超域-1】

東洋文庫の岩崎文庫やモリソンコレクション中のアジア・ヨーロッパ各地の書物に用いられた紙を対象に、光学顕微鏡による紙の分析調査を行い、紙質・時代・産地等のマトリックスを作成するためのデータ収集を行った。

また、その研究成果を発信するため、アジア資料学研究シリーズと題した講習会等を開催した。

b) 古地図研究（中国明代・日本・朝鮮・琉球）【超域 -1】

細谷良夫研究員より寄贈された江戸時代に書写された『大明地理之図』4軸を題材として、外部の古地図研究者等を招いて学際的な研究に着手するための研究会を2016年7月に開催した。

c) 中国（現代）【超域 -2】

政治、経済、社会の大改革を行い、その影響力が東アジアから広く世界に及びつつある現代中国の動態について、歴史・文化の要因をも視野に収めながら総合的に捉えるため、政治、経済、国際関係・文化グループに分かれて、研究会を継続実施した。

東洋文庫の現代中国研究資料室（人間文化研究機構・現代中国地域研究プログラム拠点、2016年度で事業終了）と提携して、系統的な収書を行うとともに、海外の研究機関や資料館との連携を強化する取り組みを進めた。具体的には、中国国民党文化伝播委員会党史館主任の王文隆氏を招聘して、同館の資料収蔵と整理・公開の状況について報告を受けた。東洋文庫と資料の共有など提携を求める王氏の要望に応えるかたちで、村田雄二郎・中村元哉両研究員が2017年3月に台北の党史館を訪問し、未開放の汪精衛関係文書や張群関係文書等を書庫にて閲覧し、将来の協力や提携のありかたについて王氏と意見交換を行った。

国際シンポジウム「アーカイブの内と外—当代中国研究の新展開」の論文集を2017年度に多言語版で刊行すべく、原稿の翻訳・整理などの編集作業を進めた。

d) 中国・東アジア（19世紀後半～20世紀初頭 資料）【超域 -2】

平成28年度科学研究費・基盤研究（B）「『モリソン文庫』時事資料群の国際的な公開と活用による東アジア近現代史像の刷新」（研究代表者：岡本隆司（京都府立大学教授））との共同の下、清仏・日清・日露戦争から北洋軍閥期にいたる中国の政治過程および国際政治・経済・社会動態の詳細記録「モリソンパンフレット」（東洋文庫所蔵）の「英文サマリー」を作成し、〈歴史〉部門全912件中370件の解題作成を終えた。

e) イスラーム諸地域（現代）【超域 -3】

新中東・イスラーム圏（西アジア、北アフリカ、中央アジア）内の諸国を対象として、地域や国別に進展する研究をより深化させるために、「近現代の構造変動」を設定し、3回のセミナーを開催した。2016年度は、

とくに「革命」に焦点をあて、エジプトとイラン・中央アジアの事例をもとに検討し、①社会的・思想的基盤（ナショナリズム）、②過程（街頭行動や議会・集会）、③成果（政治体制、社会的権利など）、④国外への影響、といった共通の論点が明らかとなった。

2016年7月16日「エジプト革命：連続と非連続」

鈴木恵美「エジプト革命におけるナショナリズムの諸展開」、加藤博（一橋大学名誉教授）「エジプト革命における連続と非連続」、三谷博（跡見学園女子大学教授）コメント「革命の比較史」

2017年1月7日「イラン立憲革命前後のイランと中央アジア」

黒田卓「イラン系知識人の近代性認識と立憲革命」、長縄宣博「1905年革命とロシア・ムスリム：公共圏の出現と権威の変転」

2017年3月13日

ユージン・ローガン（英国オックスフォード大学教授）「第一次世界大戦と中東の分割：サイクス・ピコ協定再考」、総合コメント：臼杵陽（日本女子大学教授）

地域研究班の活動としては下記の活動を行った。

①アラブグループ

2016年7月30日「湾岸地域の国際関係史」と「大戦間期中の東史」研究会

佐藤尚平（金沢大学准教授）「イギリス帝国の資料隠蔽工作と反英抵抗運動」、勝沼聡（慶應義塾大学准教授）「国際会議『中東の諸社会 1918年－1939年：課題・変化・移行』に参加して」

[海外調査] 鈴木恵美「エジプトの名望家に関する文献調査と研究交流」（2016年11月25日～12月4日、エジプト（カイロ））

②トルコグループ

2017年2月16日、宇野陽子（東京大学東洋文化研究所特任研究員・津田塾大学国際関係研究所研究員）「トルコ大国民議会における女性参政権審議」、粕谷元「議会議事録の史的価値：トルコ革命史研究の事例から」

③中央アジアグループ

[海外調査] 齋藤竜太（筑波大学大学院人文社会科学研究科博士後期課程）「ウズベキスタンにおける研究機関との連携による「水資源問題と政治構造の変動」調査」（2017年2月25日～3月18日、ウズベキスタン（タシケント他）、受入機関：中央アジア国家間水

利調整委員会学術情報センター)

f) 中国 (古代 地域史) 【東ア-1】

地域史という視点から、中国古代の地域社会の構造を検討してきた。その基礎となるのは『水経注』(原典6世紀、中国最古の地理書)とその諸注の再検討である。これを注文、疏文まで精読し、加えて考古学上の諸発掘成果および衛星地図などと合わせて分析するという歴史地理学的方法による研究に挑んでいる。すでに研究成果に基づき3冊の訳注を刊行してきたが、2016年度もその継続として月2回の研究会を開催し、前年度から取り組んできた巻16穀水編を半ばまで検討し、2018年度の訳注刊行に目途をつけることができた。復旦大学副教授、江蘇省社会科学院研究員、留学生の半年～1年にわたる研究会参加があり、国際的な学術交流に貢献した。2016年度は対象とする地域の調査は実施しなかったが、現地の調査機関とは常時情報を得る関係を構築できている。

『水経注』研究とは別に、中国古代史研究に必須の簡牘研究を行った。月2回の研究会にて、張家山漢簡二年律令を講読し、多方面にわたる意見を交換するとともに、参加者の研究発表とそれに対する批判・検討を加えた。2013年度に『東洋文庫論叢』第77として研究成果を刊行したが、新たな研究成果の刊行を目指し、2016年度も活発な研究活動を行った。簡牘研究には簡牘の実見、発見場所の現地調査が必要である。その観点から2016年12月に湖南省長沙市の湖南省文物考古研究所、簡牘博物館で調査を行い、学術交流を行った。

g) 中国 (前近代 渤海) 【東ア-2】

中国東北地方、沿海州の渤海墓地遺跡について、これまでの研究をまとめる一環として、鄭永振著「高句麗・渤海・靺鞨 墓葬形制比較研究」(『百濟研究』22、1991年)を翻訳した(『青山考古』第35号、2017年5月)。今後、中国の研究者による渤海墓制についての研究論文を精査し、それぞれの研究者の渤海墓制の考え方を比較検討していく方針を定めた。

3月19～20日、ロシア研究者E. I. ゲルマン、E. V. アスタシェンコワ両氏等を帯同して、富山大学大学院理工学部の酒井英男教授を訪問した。酒井氏が考古学資料の自然科学的分析のために活用している遺物・遺構の年代測定機器を使って、ロシア研究者とも協力して、沿海地方出土の渤海資料の分析に関する共同研究を進めることについて相談した。

h) 中国 (前近代 社会経済史) 【東ア-3】

大澤正昭研究員を研究代表とする「宋～明代日用類書の研究」に関連し、

宋、元、明、清の法制、商業、算数、仏教関係の用語の抽出とDB化の作業を進めた。具体的には明代の《日用類書》シリーズに収まる法制・商業・算法・医学・仏教関係の史料と語釈に対し調査・研究を行ってきたが、その中から『新刻天下四民便覧三台万用正宗』巻8〈律例門〉・巻21〈商旅門〉・巻22〈算法門〉についての訓読と語釈をほぼ終えた。

i) 中国（前近代 民事法令の変遷）【東ア-4】

宋代以降の戸婚・田土・錢穀等を扱う「民事」法令を分析し、その変遷を明らかにすることを目的として、研究グループ各メンバーの専門領域である時代やテーマに則して、前近代中国の民事法を中心とする中国法体系の特徴を明らかにする従来の研究を行うと同時に、2016年度より『中国法制史料読解手冊』（仮題）の刊行準備を開始した。後者は学部学生や大学院生が中国の法制史関係史料を用いて中国の「法と社会」の研究を行うための便宜を与える目的で、研究グループ各メンバーがそれぞれ得意とする領域の史料の読解手解きを行う入門ハンドブックである。今年度はその準備のために従来の資料調査・研究に加えて作成原稿を相互検討するための定期的な研究会を実施した。

j) 中国（近代 日本の華中・華南調査）【東ア-5】

2016年度も一昨年度からの作業の延長として、南京大学や中山大学等、現地で戦前・戦中期の日本側史料を活用している中国人研究者・研究機関との学術交流を実施し、「華中」「華南」地域の実態に関して先端的研究内容を踏まえて把握した。また、台湾の中央研究院や国史館等の研究機関や研究者等とも学術交流や現地調査を実施し、20世紀の日本人が持った中国認識の実像を明らかにすることができた。特に日本では研究が手薄であった台湾銀行等民間の機関による「華南」調査に関して、中央研究院の研究者の援助を得て、引き続き資料収集を図ることができた。

k) 北東アジア（満族関係資料）【東ア-7】

いままで清朝満洲語檔案資料に関する研究を実施し、「満文老檔」「旧満洲檔（「満文原檔」）」「鑲紅旗檔」「内国史院檔」等の訳注・出版をはじめとして、世界の満洲語檔案研究をリードする研究成果を公表してきた。2016年度も東洋文庫に所蔵される「鑲紅旗檔」等清代文書資料に関する共同研究を継続して実施した。

1980年代より中国東北部、新疆ウイグル自治区、モンゴル、そしてロシア極東等の地で調査を実施した際に撮影・収集した、主として満族（清朝）関係資料（写真、地図、パンフレット、文書等）について整理・研究を行っ

た。これらは一般図書館においてはほとんど収集されておらず、東洋文庫ならではの調査研究である。

l) 北東アジア（清代東アジア・北アジア諸領域 歴史的構造分析）【東ア-8】

海外の図書館・檔案館・研究機関等からマイクロ＝フィルム方式や新たなデジタル化方式によって新規に蒐集した史料と密接な関係を持つ東洋文庫収蔵の文献資料類を改めて検討し、その研究成果を個別論文・論文集・史料集などの形で公開する計画の一環として、東洋文庫所蔵の祭祀儀礼資料類を総合分析することによって、従来見られた清朝の国家支配構造をめぐる研究アプローチとは全く異なる、デジタル手法の導入による資料検証ならびに清朝宮廷儀礼の復元作業を、新たな長期研究課題として設定するべく、その検討作業を進めた。

2018年度に『清代諸領域の歴史的構造分析1／清朝初期政治史研究(1)』(TBRL)を、2019年度に『清代諸領域の歴史的構造分析2／清朝祭祀儀礼研究(1)『壇廟祭祀節次』』(TBRL)を出版するための準備を進めた。

m) 朝鮮（近世 資料研究）【東ア-6】

近世朝鮮史研究の基盤形成作業の一環として、各種記録類の現存状況を確認し、個々の資料の基本的な情報を収集・整理し、さらにそれらを体系化して解題目録にまとめることを目指し、2016年度は、既刊の解題の再点検を行った他、これまでの調査で得られた冊子体の各種文献記録類の書誌情報を再整理した。また未調査の関連文献所蔵機関等と対象文献記録類のリストアップ作業を行った。日本所在の近世朝鮮古文書や写本の形態で伝存する日記類・紀行文等については、とくに前者について本格的調査のための予備調査を実施した。これらは、『日本所在近世朝鮮記録類解題』（2010年刊）の増補改訂版刊行に向けての準備作業でもある。

n) 日本（岩崎文庫）【東ア-9】

東洋文庫の岩崎文庫には日本の文化・文学・言語を研究する上で重要な典籍が数多く所蔵されているにもかかわらず、その書誌的調査が未だ十分にはなされていない。そこで、これまで『岩崎文庫貴重書書誌解題』Ⅰ～Ⅷを刊行することで、岩崎文庫所蔵の貴重書の研究基盤を整備し、その資料的価値を周知することに努めてきた。これに引き続き、2016年度は『岩崎文庫貴重書書誌解題Ⅸ』の2018年度の公刊を目指して準備作業を行った。岩崎文庫の書籍目録のデータ整備に取り組み、同文庫所蔵の芸能関係の古典籍について書誌調査を開始した。

なお、2015年度末に『岩崎文庫貴重書書誌解題Ⅷ』として絵入り本の解題を公刊し、また、その付随資料集として室町期絵本翻刻集を公刊したが、その解題の一部は、東洋文庫ミュージアムの企画展「本のなかの江戸美術」展（2016年8月17日～12月25日）の展示資料として活用された。

o) 中央アジア（古ウイグル語文献）【内陸-1】

ウイグル語を中心とする古文獻の古文書学的データを確定するために、ロシア科学アカデミー（RAS）東洋写本研究so（IOM）にて研究グループメンバーが現物調査を行って大きな収穫を得た。「IOM 所蔵ウイグル文書目録」データベースの改訂作業にあたっては、裏面の漢文仏典を手がかりにウイグル古文獻の諸断片を接合させることが可能な例を拾い出し、世界のどの機関も達成していない資料価値及びデータベースの先進性を増大させた。

研究グループメンバーは、サンクトペテルブルグ所蔵のものに限定せず、中央アジア（トルファン・敦煌他）出土の非漢文古文獻に関する個別研究を行い、随時公表した。

p) 中央アジア（敦煌・吐魯番 漢語文献）【内陸-3】

2016年度は論集刊行に力を注いだ関係から、内陸アジア古文獻研究会の開催は限られたものとなったが、西安から来訪した中国人研究者に依頼して特別講演会を開催し、中国学界の最新の研究状況を知ることができた（4月杜文玉氏（陝西師範大学教授）、11月周曉薇氏（同前））。また、これに関連して、11月からの1か月間、王其禕（西安碑林博物館研究員）・周曉薇両氏を招聘し、石刻拓本等の調査が行われた。

敦煌・吐魯番文書研究は今日、国内では研究者の関心が必ずしも高くない。そうした中、当研究グループは論集の刊行に力を入れ、すこしでも現状を変え学界に貢献できるように努めた。しかし、そのため他の計画した研究活動に十分踏み込めなかった。次年度からは研究班の体制を強化し、研究項目を整え、当該領域研究の中心としての役割を果たし、着実に研究成果をあげるべく検討した。

q) 中央ユーラシア（近現代 イスラームと民族）【内陸-2】

近現代中央ユーラシアで刊行されたロシア語を含む中央ユーラシア諸語による定期刊行物は、これまでの収集活動によって東洋文庫にも少なからず所蔵されており、これを積極的に活用して研究を進めた。2016年度は、1991年のソ連解体前後期に刊行された *Haqiqati Uzbekiston, Javononi To-*

*jikiston* 紙等の CD 化を行い、利用の便をはかった。これは将来の研究データベースにも貢献するはずである。

東洋文庫を拠点に内外の研究者の参集を得て、下記の研究会を開催し、最新の研究成果を共有しながら研究を推進し、かつ貴重な交流の機会となった。

2016年6月18日 USMANOVA, Diliara Mirkasymovna (カザン連邦大学歴史学部教授)

“Традиции восточной археографии в Казанском университете в XX столетии”

2016年9月29日 Sophie Roche (ハイデルベルク大学 Junior Research Group Leader)

“Knowledge production on Central Asia: Inquiries into how Social Sciences conducted research in and on Central Asia during and after the Soviet Union?”

2017年2月28日 イリヤス・ムスタキモフ (タタールスタン共和国国家文書委員会 文書研究利用・国際関係部長)

「タタールスタン共和国国立文書館所蔵のタタール史に関する文書」

r) チベット (チベット語文献) 【内陸-4】

近年中国・インドなどで新たに刊行されたチベット語写本の影印版、チベット語大蔵経文献、蔵外文献等にもとづき、次の調査・研究を行った。

1. チベット大蔵経目録の調査・研究
2. 中央アジア出土チベット語文献の調査・研究
3. チベット文学作品の調査・研究
4. チベット仏教写本の調査・研究

上記1~4の研究に即して、“*Studia Tibetica*” シリーズの刊行準備を行った。

s) インド (古代・中世史) 【南ア】

東洋文庫に所蔵のない史料について、インド独立後の新しい出版物 (とくに、情報の少ないものや最近の出版物) を国内外において調査・収集・整理した。とくに、2016年度は、北インド・ムガル時代の資料調査を対象として、小名康之研究員がイギリス、ロンドンの大英図書館 (British Library) で、原典の手書き史料について調査を行った。研究班各メンバーはそれぞれの専門ごとに、テーマに沿って研究を進めた。

t) 東南アジア (近現代 史料研究) 【東南】



研究班メンバーによる研究会を開催し、近現代ならびに前近代の東南アジアの都市の成り立ちや構築したネットワーク、社会統合に果たす役割について検討した。植民地期の東南アジアの都市は、新生国家の国民統合の基盤を形成しただけでなく、その後の外来系住民と現地人との確執関係をはじめ、エスニシティ問題や領域帰属などを生み出す背景も醸成した。それまでコスモポリスを形成していた諸都市のハイブリッドな空間が、植民地期においてどのように維持されたか、あるいは変容したかを考察するために、必要な史料収集を行った。

上記の東南アジアの都市をめぐる研究成果を、2018年度にTBRLシリーズより“*The Development of Urban Societies in Southeast Asia from Historical Perspectives*”（仮題）として出版する計画を固めた。また前近代の都市の役割を検討するための重要な資料となる、東洋文庫所蔵の故仲田浩三氏が収集した東南アジア島嶼部を中心とする碑文拓本と関係資料の整理を進めた。2017年度にその目録『東南アジア島嶼部を中心とする碑文拓本と関係資料』を刊行することを確認した。

u) 西アジア（モロッコ 契約文書）【西ア】

2014年度にあらたに購入した皮紙契約文書11点の校訂・研究のため、月例研究会を開催するとともに、8月に集中合宿を行った。また平成28年度科学研究費・基盤研究（C）「モロッコ皮紙契約文書（ヴェラム文書）の国際共同研究」（研究代表者：原山隆広）と連携し、モロッコやチュニジアにおける皮紙文書の調査を行った。

v) 西アジア（寄進制度）【西ア】

平成28年度科学研究費・基盤研究（B）「ワクフの国際共同比較研究」（研究代表者：三浦徹）と連携し、ワークショップ（日独マムルーク研究、11月）、国際研究集会への参加（10月シンガポール、12月ドーハ、2月ベルリン）等の活動を行った。

w) 西アジア（オスマン資料研究）【西ア】

東京外国語大学アジア・アフリカ研究所との共催により、国際セミナーを開催し（2月20～21日）、研究ネットワークの強化をはかった。

Guy Burak（ニューヨーク大学）“Between Istanbul and Gujarat: Descriptions of Mecca in the Sixteenth-Century Indian Ocean”

Linda Darling（アリゾナ大学）“Kanun and Kanunname in the Ottoman Empire”

x) 東アジア（資料研究）【資料】

台湾中央研究院歴史語言研究所との間で、当方のマイクロフィルム資料と先方の漢籍全文資料庫（データベース）との交換を行った（継続）。

中国人民大学副教授呉真氏を招聘し、田仲一成研究員と共に日本の祭祀芸能の調査を実施した。収集した資料は後日データベースとして公開する予定である。

y) 2016年度の各種研究会・講演会については、計231回開催し、参加者は延べ2,277名であった。

### (3) 国際シンポジウム・ワークショップの開催による国際発信と国際交流の推進

担当者： 研究部 山村 義照、徐 小潔、太田 啓子

資料調査・研究のために必要な情報を収集し、国際的な共同研究を推進し、かつその研究成果を対外的に発信することを目的に、年1回共通テーマのもとにアジア諸地域の地域比較・相互影響の解明に焦点を置いた国際シンポジウムを開催する。また、この国際シンポジウムの運営に若手研究員を携わらせることで、最新の研究動向の入手や国際的な人脈形成等を支援し、国際的に活躍可能な人材へと育成することに努める。

#### 〔研究実施概要〕

2016年度は、現代中国研究班のコーディネートにより「アーカイブの内と外—当代中国研究の新展開」（2016年9月24日）と題する国際シンポジウムを開催した。国外から7名、国内から5名の報告者及びコメントーターを招聘し、大陸中国や台湾・香港・日本において近年利用可能になった資料の整理・公開やデータベース化の状況につき報告と討論を行った。海外から招聘した研究者の報告では、『蔣介石日記』（呂芳上）、現代中朝関係文書（沈志華）、胡適記念館檔案（潘光哲）、現代中国民間資料（張濟順）、民間人の書簡（張樂天）、集団化時期の農村基層文書（行龍・馬維強）等の文書群をめぐり、研究の具体的成果や今後の展開の可能性などについて紹介があり、コメントーターも含めて参加者の間で活発な意見交換がなされた。当日は内外の研究者および大学院生62名の参加者を得た。【超域-1】【超域-2】

また、各研究班の主導により、下記の国際シンポジウム・ワークショップを開催した。

a) コディコロジー（文理融合型資料学）研究【超域 -1】

2017年は、東洋文庫の原点であるモリソン文庫将来100周年に当たる。そこで、毎年度開催している「アジア資料学研究シリーズ」の一つとして、「モリソンコレクション将来100周年記念—紙料調査の意義と課題：コディコロジーの未来をみつめて—「紙」・「印刷」・「出版」を科学する」と題し、2017年1月27日（金）に特別講演会、翌28日（土）に講習会を開催した。内外の書誌学者や図書館司書等104名（特別講演会49名、講習会55名）の参加を得、東洋文庫のコディコロジー（文理融合型資料学）研究の成果を発信し、活発な議論が行われた。

b) 中央アジア（敦煌・吐魯番 漢語文献）【内陸 -3】

平成28年度に採択された科学研究費・基盤研究（B）「隋唐「仏教社会」の多元的構造の解明と東アジア文化論の構築」（研究代表者：氣賀澤保規（明治大学元教授・客員研究員））の研究テーマの中心に、敦煌吐魯番文書研究と仏教の問題を設定した。これと協力して、2017年度に東洋文庫で敦煌吐魯番文書国際シンポジウムを開催することを計画した。

(4) 研究成果の刊行・発信の強化

担当者： 研究部 中村 威也、小澤 一郎

資料調査・研究の検討過程や研究成果、および国際シンポジウム・ワークショップの内容を紙媒体・電子媒体によって発信する。特に国際シンポジウムはその速報性を重視して、開催年度にオンラインジャーナル“*Modern Asian Studies Review New Series*”（<http://www.toyo-bunko.or.jp/research/MASR.html>）で概要を発信し、翌年度以降に紙媒体で報告論文集を刊行するための準備を進める。また、従来の和文・欧文による発信を一層推進するとともに、新たに中国語による発信を加えることで、多言語による研究成果の国際発信力を強化し、資料交流・人的交流・国際交流に資すべく取り組む。

長期的・計画的にアジア研究の基礎的な成果を出版していくと同時に、最新の研究成果ばかりでなく、原典的な研究書を系統的に翻訳してオンラインジャーナルで公開することについても検討を開始する。

東洋文庫リポジトリ「ERNEST」は、2015年度より、国際情報学研究所（NII）が運営する学術機関リポジトリデータベース（IRDB）に参加することでCiNii Articles（<http://ci.nii.ac.jp/en>）で検索できるようになり、その発信力

を高めているが、登録論文の一層の充実に取り組む。

編集業務に習熟した嘱託職員を採用して、研究成果の発信に際し、紙媒体・電子媒体の別なく、ハイレベルな校閲を行い、研究成果の質的向上をはかる。

[研究実施概要]

a) 中国（現代）【超域 -2】

国際関係・文化グループの研究成果として、清朝末期から満洲事変前夜の時期に、政治の中心であった北京において継続的に発行された日本人経営の中国語新聞である『順天時報』の論説・社論の目録づくりを完了し、論文二篇を付し、『『順天時報』社論・論説目録』（村田雄二郎監修、青山治世・関智英編）を刊行した。

2016年度開催の国際シンポジウム「アーカイブの内と外—当代中国研究の新展開」の報告要旨を、英文・中文・日文の三ヶ国語版で東洋文庫ホームページ上のオンラインジャーナル“*Modern Asian Studies Review New Series*”に掲載した。

b) イスラーム諸地域（現代）【超域 -3】

『モロッコ議会議事録解説』“*Le Guide des travaux du parlement marocain (1963-2011)*”（中川恵編・著）と題して、東洋文庫現代イスラーム研究班において収集したモロッコ議会（上院、下院）の議事録の解説と研究をフランス語で刊行した。日本で初めてのもので、現代モロッコの政治の研究に広く資するものである。当該資料は、東洋文庫閲覧室にてデジタル化資料（CD-ROM）として閲覧・公開され、本書はその利用の手引きとなる。

『オスマン民法典（メジェッレ）の研究』（大河原知樹・堀井聡江編）を刊行した。本書は、昨年度終了したNIHU イスラーム地域研究東洋文庫拠点「シャリーアと近代研究会」を継承するもので、同『序説』『売買編』に続く3作目であり、賃約編（404-611条）の日本語訳および研究である。オスマン民法典は、中東・イスラーム諸国の近現代民法に大きな影響を与えており、比較法の観点から、歴史・法の研究者による学際研究として注目される。

c) 中国（近代）【東ア -5】

東洋文庫を中心に近現代中国の研究を推進するため、内外の研究動向・論説・図書の批評と紹介・各種目録を掲載する学術雑誌『近代中国研究彙報』第39号を刊行し、近代中国研究班メンバーが収集した資料の紹介

と同時に、戦前戦中期の日本人の中国認識の現状と問題点を整理した。さらに2015年6月20日に開催したシンポジウム「戦後中国近代史研究と東洋文庫―市古先生のお仕事を偲ぶ」をもとに、近代中国研究班が編集した『近代中国研究と市古宙三』を汲古書院から出版した。

d) 中央アジア（敦煌・吐魯番 漢語文献）【内陸-3】

中国人研究者4名を含む20名の敦煌吐魯番文書研究者の協力を得て、『敦煌・吐魯番文書の世界とその時代』を刊行した。本書は以前刊行した『敦煌吐魯番出土漢文文書の新研究』（2009年刊、2013年修訂）を継ぐ、5年間の成果であり、当該領域の専門書として内外から注目されるものである。当論集には中国語論文の翻訳者を含めて中堅若手研究者が7名、日本史研究者が2名加わり、また時代は唐代を中心にして上は五胡・高昌国期から下はモンゴル期の吐魯番まで、地域的には西はコータンから日本にまで及ぶ。扱う内容は「制度・行政文書」「地域・社会」「文化・思想」と大別される。これら執筆者の年齢的構成、内容面での多様さは、今後この領域の基盤を強化・発展させていく上で大きな意味を持つ。

これとは別に、当研究グループで長年研究をリードしてきた土肥義和研究員が、研究班の協力の下、『八世紀末～十一世紀初期敦煌氏族人名集成』「氏族人名篇・人名篇」「索引篇」全2冊の大部な労作を完成させ、汲古書院から刊行した。敦煌吐魯番研究を大きく前進させる意義は大きい。

e) インド・東南アジア 【南ア】【東南】

2013年度に開催した第2回総合アジア圏域研究国際シンポジウムの報告集“*State Formation and Social Integration in Pre-modern South and Southeast Asia: A Comparative Study of Asian Society*” (TBRL16) を刊行した。

f) 西アジア（寄進制度）【西ア】

ワクフ研究の成果として、イランのマシュハドにあるイマーム・レザー廟のワクフ台帳（ペルシア語）の校訂と研究を、MORIKAWA Tomoko and Christoph WERNER eds. “*Vestiges of the Razavi Shrine Āthār al-Razavīya: a Catalogue of Endowments and Deeds to the Shrine of Imam Riza in Mashhad*” (TBRL17) と題して刊行した。シーア派第8代イマームの聖廟があり、重要な参詣地となっている同所に寄進されたワクフ財の全容を示す資料の校訂と英文による研究であり、国内外でのイラン史およびワクフ研究に資するものである。

## (5) 若手研究者の育成

担当者： 研究部 山村 義照

東洋文庫における資料調査・研究、国際交流、国際発信などの基本事業に不可欠な若手人材の育成に取り組む。

英語・中国語等の外国語に堪能な若手研究者を嘱託職員として採用し、総合アジア圏域研究班の研究活動・国際シンポジウムの運営・国際交流事業に携わらせることで、最新の研究動向の入手や国際的な人脈形成等を促し、国際的に活躍できる人材の育成に努める。

内外の若手研究者が国際的に活躍できるスキルを身につけることを支援するため、外国人講師ポール・クラトスカ氏（シンガポール国立大学出版局編集長）による英文での研究成果発信に関するセミナーの開催を検討する（2016年度は実現に至らず）。

東洋文庫には、かつて首都圏在住の大学院生・若手研究者の史料読解能力を養成するという重要な役割があった。専門研究領域が多様化し、各大学で個々の研究者が指導するには少なからず限界がある現在にあっては、東洋文庫におけるインターカレッジ的な育成の必要性がいよいよ増大している。そこで、各研究班が主催する研究会・セミナー・講演会等において、大学生・大学院生や若手研究者の積極的な参加を促す。

上記の諸活動により、アジア研究の国際的な発信拠点・交流拠点として、国際的に活躍できる若手研究者を養成し、それによって東洋文庫の研究活動を将来に渡って継承・発展させるべく努める。それと同時に、積極的な普及・啓蒙活動によって研究成果を社会に還元すべく取り組む。

### 〔研究実施概要〕

#### a) 中国（現代）【超域-2】

国際シンポジウム「アーカイブの内と外—当代中国研究の新展開」に若手研究者が積極的に関わり、傍聴記を執筆した。また『『順天時報』社論・論説目録』の作成にあたっては、日本学術振興会特別研究員PD（東洋文庫受入）の関智英氏が中心となって関わった。

#### b) 中国（古代 地域史）【東ア-1】

月2回の研究会には研究員のほか、大学教員の参加を得ているが、他にも、10名を超える若手研究者（助教・非常勤講師・大学院生）が参加した。

研究会での基礎的な報告は若手研究者に委ねられており、さらに地図や電子媒体によるデータベースの活用や、研究員の討議が加わることで、若手研究者の育成という面でも効果を発揮した。

c) 中国（前近代 渤海）【東ア-2】

遺物・遺構の年代測定機器による沿海地方出土の渤海資料の分析に関する共同研究について、富山大学大学院理工学部の酒井英男教授を訪問した際、若手研究者育成の一助とすべく、新進の研究者菅頭明日香氏（青山学院大学文学部准教授）を帯同した。

d) 中国（前近代 社会経済史）【東ア-3】

毎月の定例研究会における中国社会経済史及び《日用類書》関連テキストの研究には、若手研究者も参加して、適宜各世代の研究者を交えた研究報告も行われ、活発な議論が交わされてきた。なかでも若手の一人、小林晃氏（熊本大学准教授）により訓読と語釈を終えた、『蜀訟批案』、『三台万用正宗』巻8律例門附載「招擬指南」（清代官僚の作成した訴訟関係文書）については、2016年度に補訂作業を終え、2017年度のデータベース化を目指している。

e) 中国（前近代 民事法令の変遷）【東ア-4】

2016年度に刊行準備を開始した『中国法制史料読解手冊』（仮題）は、学部学生や大学院生が中国の法制史関係史料を用いて中国の「法と社会」を研究する際の入門ハンドブックであり、本書の刊行は中国法制史研究に携わる若手研究者の育成につながる。

f) 中国（近代 日本の華中・華南調査）【東ア-5】

例年通り、必要に応じて複数の若手研究者に研究会への参加を呼びかけ、近代中国研究班が続いている戦前戦中期の日本の研究機関による調査資料の収集と分析に協力してもらった。また複数のメンバーが特別研究員PDとして東洋文庫で受け入れた若手研究者の指導に積極的にあたった。

g) 北東アジア（清代東アジア・北アジア諸領域 歴史的構造分析）【東ア-8】

清朝史研究を進めるに際しては、漢語文献は無論のこと、満洲語・モンゴル語・チベット語・ウイグル語・朝鮮語・ベトナム語等で記載された文献の読解が不可欠となる。これらのうち、東洋文庫における他の研究班で対応できる言語を除き、特に満洲語ならびにモンゴル語による文献読解能力を若手研究者に教授できる機会を用意すべく、2016年度にはその実施計画案の作成と実施準備を行った。

- h) 中央ユーラシア（近現代 イスラームと民族）【内陸 -2】  
 近現代中央ユーラシアを専門とする海外の研究者（ロシア連邦タタリスタン共和国から2名、ドイツおよび米国から各1名）を招聘して開催した特別講演会を通して、当該領域を専攻する若手研究者に大きな刺激を与えるとともに、貴重な交流の機会とした。
- i) チベット（チベット語文献）【内陸 -4】  
 資料調査・研究の諸活動において、若手研究者を参加させ、協同作業を行いながら若手研究者の育成に努めた。
- j) インド（古代・中世史）【南ア】  
 大学院生を中心に、若手研究者の育成を進めるため、史料講読研究会の立ち上げを検討した。
- k) 東南アジア（近現代 史料研究）【東南】  
 2018年度出版予定の英文刊行物の寄稿者として、2015年度に研究班の研究会で報告した3名の若手研究者を加えることを確認した。また次年度以降の研究班の活動のために、新たに1名の若手研究者を加えることについて協議した。
- l) 西アジア 【西ア】  
 科学研究費・基盤研究（C）「新疆イスラーム法廷文書資料体の構築と研究」（研究代表者：菅原純）、基盤研究（B）「19～20世紀中央ユーラシアにおける越境と新疆ムスリム社会の文化変容に関する研究」（研究代表者：新免康）と連携し、東洋文庫中央アジア研究班との共催により、「新疆文書史料研究セミナー」を開催した（2016年6月4日）。また、京都外国語大学国際平和研究所と連携して、第15回中央アジア古文書セミナー（2016年3月11～12日）を開催した。いずれも次代を担う若手研究者（大学院生）の文書資料講読の導きとなるものである。

## C. 地域研究プログラム

### 現代中国研究資料室

「日本における現代中国資料の情報・研究センターの構築：資料の長期的分析による現代中国変容の解明」

室 長      土田哲夫\*



高田幸男\*、内田知行、大澤 肇\*、貴志俊彦\*、久保 亨\*、  
小浜正子、田中 仁、中村元哉\*、内山雅生\*、瀧下彩子◎\*、  
相原佳之

東洋文庫所蔵の現代中国関係資料につき、解題・目録やデータベースの作成、資料のデジタル化などの形で利用の促進を図るほか、内外諸機関との連携を強化し、関係資料に関わる情報交換を行う。また、5つの研究班（①江南地域社会班、②図画像資料班、③ジェンダー資料班、④政治史資料班、⑤1950年代資料班）による資料分析と研究活動を引き続き進める。各研究班を軸に内外の研究者の幅広いネットワークを作り、定期的に研究会、ワークショップ等を開き、共同研究を進めるほか、これまでの研究活動をとりまとめる成果の公表に重点を置く。

[研究実施概要]

- a) 資料利用環境の整備および国内外諸機関との連携については、国立情報学研究所との連携により NACSIS-CAT への書誌登録を継続して行った。本年度は約 4,000 タイトルの東洋文庫近代中国研究委員会（現近代中国研究班）収集資料および現代中国資料が登録され、登録タイトル数は 65,000 件あまりとなった。
- b) 電子図書館についても引き続き拡充に努め、画像をインターネットで完全公開している資料は 725 タイトル、63,000 画像あまりに増加した。また、利用環境の向上を継続した。
- c) 資料研究活動については、5つの研究班のもとで活発に行った。事業最終年度にあたる今年度は成果の公表に重点を置いたため回数は少ないものの、他機関・他大学との共催も含めて計7回の研究会・シンポジウムが開催された（江南地域社会班5回、図画像資料班1回、ジェンダー資料班1回）。また東洋文庫主催の国際シンポジウム「アーカイブの内と外—当代中国研究の新展開」を後援した。
- d) 活動の成果として、①戦前期の写真資料を集成した『京都大学人文科学研究所所蔵 華北交通写真資料集成』、②ジェンダー観点から現代中国の課題を論じた論文集『現代中国のジェンダー・ポリティクス』、③「歴史の語り」をめぐる論文集『21世紀の東アジアと歴史問題—思索と対話のための政治史論』、④戦前期モンゴル語新聞『フフ・トグ』の影印版と記事索引、⑤20世紀中国政治に関する資料解題とデジタルリソース・リン

ク集『20世紀中国政治研究案内』、⑥1950年代中国史を中心とした史料案内『現代中国の源流を探る一史料ガイドブック』、⑦近代中国の知識人が残した手書き日記の一部を活字化し注釈をつけた「王清穆『農隱廬日記』(6)」(『近代中国研究彙報』所載)を公刊した。また2015年度公開の「『重細亜大観』データベース」を人間文化研究機構の統合検索データベースと連携させることで検索方法を多様化し、利便性を向上した。

#### D. 日本学術振興会科学研究費による調査研究

##### (1) 研究成果公開促進費（データベース等）

###### ①「東洋学電子図書館情報システム」

[東洋文庫電算化委員会委員長：斯波 義信]

本プロジェクトは、東洋学に関する世界5大機関の一つに数えられる研究所・図書館である(公財)東洋文庫が90年にわたり収蔵してきた言語種類50数種、部数500,000件、冊数1,000,000冊におよぶ大量の多言語資料を、書誌データのみならず、図像・地図などの画像資料、Video・DVDなど動画資料をふくむマルチメディア・データのレベルまで拡大してデータベース化し、これをインターネットを通じて、内外の研究者が自由に検索できるようにすることを目指している。書誌データは1994年度に入力を開始して以来、約20年を経て、1,066,023件に到達し、完成の目途がついてきた状態にあり、これを踏まえて、2004年度以降はデジタル撮影の手法によるマルチメディア・データの構築に重点を移した。従来、岩崎文庫・モリソン文庫・梅原考古器物などは、マイクロフィルムによる複製保存を行ってきたため、現在まで約6,000件、1,000,000コマを越える貴重書フィルム(35mm)を所蔵している。これをスキャナーにより画像にとりこみ、全頁データベースとして公開してきた。また、地図・絵画・貴重書全頁データについては、最新技術によるデジタル撮影により精度の高い画像データベースを構築してきた。さらに1970年代以来、中国の現地調査で得られた「農村の祭祀と演劇」に関する写真やVideo資料をデータベースとして公開する計画も一部実行して来ている。これらの努力の結果、訪問者数については、公開を開始した2002年度において、毎月2,000件であったものが、2016年3月末の段階では、その246倍の492,000件に達した。これは7年前の2009年3月末における

毎月 98,000 件にくらべても、5 倍の伸び率を示している。また、訪問者数に検索数を加えたアクセス数は、統計を取り始めた 2009 年 1 月において、489,000 件であったが、2016 年 3 月末では、その 6 倍の 3,000,000 件に達している。これらのアクセス数の増加は、主に画像資料の公開によるところが大きい。これを踏まえて、本年度も、文献資料のデジタル画像、現地での撮影写真、及び動画の拡大に重点を置いて、電子図書館のバランスと充実に務め、一層のアクセス数の増加に務めたい。

[研究実施概要]

a) 全頁画像データ

- ・モリソンパンフレット 618 点
- ・岩崎善本（彩色画像・索引付） 174 点
- ・名品画像 80 選 80 点
- ・中国木偶戯写真資料庫附録 物語資料庫 (database) 1,055 点

b) 動画データ

- ・中国祭祀演劇資料 19 種
- ・中国浙江省木偶戯資料 2 種
- ・東アジア人類学資料 6 種

②「宋代南海貿易史の研究」

[研究代表者：土肥 祐子]

宋代になると、北方民族の台頭により陸上交通が阻害されたため、西アジア、東南アジアなどの交易は南海を媒介として急速に発展した。その発展状況、流通の物品、多国籍の商人の活躍、各国からの朝貢などを、宋代という時代の特色を生かしながら成果を示すことを目的とする。

南海貿易の発展と共に、市舶制度が充実され、貿易の利益も増加していったが、これらは政府の貿易の積極的な政策と一致する。提举市舶に就任した約 120 人の調査からも、同様なことが言える。中国に入った交易品（輸入品）約 500 品は植物が 8 割、動・鉱物が 2 割であるが、その殆どが香薬であることから南海ルートは香薬ロードといえる。世界的なレベルで高級品が集積され、それを消化する高い文化が生まれ、周辺諸国にその影響を及ぼした。一方、乳香を政府が重要視しているのは、焚香以外に医薬として使用したからであろう。また乳香を 14 等級に分けていることは、庶民にも買えるように

したからであろう。東南アジアとの交流をみると、内乱を統一すると中国に朝貢を出す。チャンパ（占城）の場合、中国商人が朝貢のすべてを手配し、自ら実行する。現地の王室と商人との密接な関係が見られ、王室貿易が行われたことを知る。現地生まれの二世の活躍は華僑の始まりといえる。南海をめぐる多国籍の商人の活動が多くみられ、アラブ商人蒲亜里の例のごとく国境を超えての活躍は、宋代が海に向かって門戸を開き、富を齎すものとして商人、外国人を迎え入れるという開放性があったからであり、それが南海貿易の発展の要因になったといえよう。

[研究実施概要]

土肥祐子著『宋代南海貿易史の研究』（汲古叢書 138）1冊 汲古書院刊

(2) 基盤研究B

① 「ワクフ（イスラーム寄進制度）の国際共同比較研究」

[研究代表者：三浦 徹]（2013年度採用、4ヶ年間・最終年度）

本研究は、フランス国立科学研究院（CNRS）国際共同研究「ワクフ」（2011-15年、研究代表者 Randi Deguilhem エクサンプロヴァンス・地中海人文科学研究所教授）と連携し、イスラーム地域（中東・中央アジア）において、ワクフ（イスラーム寄進制度）によって形成される社会経済関係を分析し、寄進財に関わる国家・集団・個人の3者の社会関係を明らかにする。CNRSの国際共同研究にはアラブ諸国を中心に10機関が連携し、（公財）東洋文庫研究部を中心に、トルコ・イラン・中央アジアの研究者、さらにはヨーロッパ・中国・日本の寄進制度の研究者を組織した本研究計画を実施することによって、国際的なワクフ・寄進制度の社会機能に関する比較研究を行い、宗教と経済が結びついた社会のあり方を分析する。

[研究実施概要]

- a) 国際ワークショップ：German-Japanese Workshop on Mamulukology（2016年11月5～6日 東洋文庫）を、マムルーク時代（1250～1517）の総合研究プロジェクトを行うボン大学と連携して開催し、「ワクフと経済」「知識と文化」など4つのセッションを設け、ドイツから5名、日本から10名が発表した。

- b) 国際研究集会：国立シンガポール大学アジア研究所主催「Muslim Endowments in Asia: Waqf, Charity and Circulations」(10月19～20日)、ジョージタウン大学カタル校主催「Waqf Workshop」(12月4～5日)に研究代表者が参加。前者は、中国・東南アジア・南アジアに力点がおかれ、後者はアラブ諸国を中心とするが、日本中世の寄進をワクフとの異同の観点から報告をおこない注目を集めた。2017年2月に、ベルリン・フンボルト大学において、「Stiftung in der Weltgeschichte (世界史における寄進)」が開催。これは5年間の研究プログラム Foundations in Medieval Societies: Cross-cultural comparisons の最終成果報告会で、『中世社会における寄進百科事典』(ドイツ語、全3巻)を刊行中である。いずれの集会でも、本ワクフ研究の成果物(2015年度国際シンポジウム英文報告集 *Modern Asian Studies Review*, vol.7)を配布した。
- c) イランおよびインドの宗教施設と寄進の海外調査を行い、現地研究者(イスファハーン大学、デリー大学)と交流した。
- d) ワクフ調査台帳(シリア、16世紀)のデータベース構築の作業を継続した。
- e) マシュハド(イラン)のワクフ台帳の校訂・研究(ペルシア語、英語)を東洋文庫欧文論叢17として刊行した。

②「戦前・戦中期における華中・華南調査と日本の中国認識」

[研究代表者：本庄 比佐子](2015年度採用、5ヶ年間・第2年度)

戦前・戦中期の中国において、日本の様々な研究調査機関が実施した調査活動資料は、戦後に至ると個別分散的にしか分析されてこなかった。本研究では、戦前・戦中期の中国での調査活動報告等を整理するとともに、その調査内容の実態を究明し、同時期の中国側資料や、近年の中国での研究成果などを比較検討し、当該時期における中国全体の政治・経済・社会文化、ならびに日中関係の特質を、歴史的総合的に考察する。特に、研究対象地域としては、従来の研究では個別にしか取り上げられてこなかった華中・華南地域を中心に、華北に関する研究成果も加えて、中国全土に関する日本の調査研究の全体像を明らかにする。

[研究実施概要]

- a) 国内における資料調査としては、前年度に引き続き、東洋文庫のほか国立国会図書館、東京大学東洋文化研究所、外務省外交史料館などで行っ

たほか、新たに一橋大学、早稲田大学でもおこなった。

- b) 前年度に予定されていて実施できなかった台南市立図書館における文献調査を行った。同図書館は、日本統治期の図書を約2万点所蔵しており、それらは台湾総督府文書ではなく、民間の出版物が多いことが分かった。日本の台湾認識を観るうえで有益な資料であろう。
- c) 本研究の対象の一、華南に関しては、その対岸にあった台湾総督府など諸機関の調査資料が多い点に鑑み、史料としての総督府文書に詳しい檜山幸夫氏（中京大学）から教唆を得た。
- d) 前年度に引き続き政治的経済的資料の検討に加え、社会文化関係の資料として都市案内、旅行記などの検討にも着手した。

### ③「イスラーム地域における物質文化史の比較研究～イベリア半島から中央アジアまで～」

[研究代表者：真道 洋子]（2016年度採用、5ヶ年間・初年度）

本研究では、イスラーム史の中で生活文化の基層にある物質文化に着目し、文字資料を介した文献史学と歴史学、考古学、美術史、建築史、文化財科学などモノを介した諸学の研究の融合を推進し、新たな物質文化史理論の確立を目指す。

イスラーム地域はイベリア半島からアジアに及ぶ広大な地域、時代は7世紀から現代にまで及んでいる。そこで本課題研究では緻密な基礎研究を含む実証的な共同研究を国際的な連携のもとに進め、イスラームが成立する7世紀からモンゴル征西が起きる13世紀までを主な対象として、エジプト・シリア・イラクの東アラブ圏を軸に、イラン～中央アジアとマグリブ・アンダルスの東西両地域を対比させ、イスラームの共通性と土地に根差した地域性の二元性を明らかとすることを目的とする。

#### [研究実施概要]

- a) 海外調査：ルーブル美術館・ウズベキスタン共同調査隊によるブハラ・オアシス発掘調査に真道が参加。調査隊における研究分担の出土ガラス研究に関してパイケンド遺跡等の出土遺物の実測と撮影を完了し、様式分類を行った。1月にはパリ・ルーヴル美術館で化学分析用資料の受け取り、今後の研究およびセミナー開催などの打ち合わせを行った。12月から1月にかけて、イスラーム考古学の現状把握と文献資料の収集のため、

真道と文献班の研究協力者野口がモロッコ及びスペイン調査を実施し、現地で考古学的発掘調査に従事している研究者と面会して最新成果の情報・意見交換を行った。また、カスル・サギール遺跡博物館やラバト、フェズ、タンジェなどの旧市街の博物館資料、歴史的建造物、市場内製造行調査を実施した。また、初期のイスラーム征服期のルートであるタンジェから対岸のイベリア半島に船で渡り、モロッコとアンダルシア地域の物質文化の類似性を検討し、マラガおよびマドリードでは史跡および国立考古学博物館にてイスラーム期の遺物の実見や観察を行った。

- b) 国内調査：研究協力者とともに、早稲田大学考古学資料館に保管されているエジプト、フスタート遺跡出土遺物の全体を閲覧し、特にガラス器全般とイスラーム陶器の中で黄釉陶器と土鍋について、実測、撮影、資料観察、データ化などの作業及び研究を実施した。
- c) 資料収集：国内外で発掘報告書や文献資料の収集を行った。
- d) 研究会の開催：コプト・イスラーム物質文化研究会や横浜ユーラシア文化館など主催・共催で、考古学、文化財科学、天文学などの分野に関わる5回の研究会の開催を実施した。成果の一部は、各種研究会やオリエント学会発行の *Orient* 52 や陶磁器関連書籍等で発表した。

### (3) 基盤研究C

#### ①「宋～明代日用類書の基礎的研究」

[研究代表者：大澤 正昭] (2015年度採用、4ヶ年間・第2年度)

宋代から明代までの日用類書を調査して整理し、そこに記載された、項目に関する一覧および記事についての語彙解・訳注の作成など、日用類書研究の環境を整備するための条件を整える。そのうえで歴史学研究への利用方法を検討する。具体的には次のような調査および研究を行う。

- a) 日用類書の国内所在目録、項目一覧および関連研究の文献目録を作成する。
- b) 研究対象とする日用類書について詳細な解読を試みる。そのために、1. 古今の辞書・辞典類及び索引・語彙解などの工具書類を調査し、収集する。2. 中国文学研究など関連分野の研究成果を調査・収集する。3. 当面の研究対象とすべき日用類書の記事に即して、語彙・用例の収集をおこない、文意の解釈について検討する。

### 〔研究実施概要〕

本課題については、ほぼ毎月1回、3時間余りのペースで研究会を開催し（於東洋文庫会議室）、6～8名の参加によって報告、討論をおこなってきた。本年度の主な研究成果は以下の通りである。

- a) 宋～明代日用類書のうち、『新刻天下四民便覧三台万宗正宗』（略称『三台万用正宗』）の訳注を重点的に進めた。巻八（下層）律例門所収「鳴情均化録」訳注稿および同「鳴情均化録」未収録条文訳注稿の二篇を（公財）東洋文庫のホームページに公開した。文責は大澤正昭である。
- b) 同じく巻二一（下層）商旅門（斯波義信担当）、巻二二（下層）算法門訳注稿（渡辺紘良担当）の作業も進めており、前者の成果はまもなく公開できる予定である。この他、関連する法制史・仏教史・環境史分野などの研究報告も行われ、討論された。
- c) 大澤は2016年11月13日に中国杭州・浙江大学で開催された Confucian Entrepreneur Discourse 2016（「儒商論域2016」）に宣読論文「客商たちの告訴状」を提出した。主催者からの連絡では論文集などは発行しないとのことだったので、本年度中に日本語版の論文を公表する予定である（『上智史学』に掲載予定）。
- d) 「明代日用類書所在目録」（国内版）を作成中であったが、間もなく完成する見通しが立った。近いうちに東洋文庫ホームページ上に公開できる予定である。
- e) 「明代日用類書関連著作目録」を作成中であるが、近年の中国における急激な研究増加により著作類の収集が追いつかない状況である。完成までにはさらに時間を要すると思われる。

### ②「モロッコ皮紙契約文書（ヴェラム文書）の国際共同研究」

〔研究代表者：原山 隆広〕（2016年度採用、3ヶ年間・初年度）

（公財）東洋文庫が所蔵する皮紙契約文書（ヴェラム文書）について、モロッコなど関連地域での現地調査と連携研究をおこなう。とくに、①皮紙という材質の特徴と、関連契約を一枚にまとめた形態の特徴、所有権移転に伴い引き継がれていく機能的特徴に注目して類似文書の所蔵状況を把握・分析し、②社会経済史の視点から、各文書に登場する物件や人物について実地調査に基づき検討する。これらを通じて、東洋文庫ヴェラム文書の研究を深化させ、皮紙による文書作成を促した社会的背景を考察する。さらに皮紙契約文書の



全容解明を進め、イスラーム法廷における契約手続きと権利保証の制度研究、ヨーロッパや日本・中国など諸地域・文化圏における契約文書の比較研究と繋げていくことを目指す。

#### 〔研究実施概要〕

初年度にあたる平成 28 年度には、モロッコおよび周辺諸国（チュニジア）の図書館や文書館等において、皮紙契約文書の所蔵状況調査を開始した。

モロッコでは、連携研究者の亀谷学氏が 2016 年 12 月 19 日～12 月 29 日に海外出張へ赴き、ラバトの国立図書館においてベンスーダ家旧蔵コレクション（フェスの名家旧蔵の寄贈写本・文書資料）の調査を行った。同館写本部門長の N. Bensaadoun 氏の協力を得てその全体像を把握し、同コレクション収蔵文書について、サンプル調査をもとに来歴・内容等の特徴を明らかにすることができた。

また、海外共同研究者の L. Bouchentouf 氏（ムハンマド 5 世大学教授）とこの調査結果について検討を重ね、平成 29 年度に同地で予定している研究セミナーを含めて今後の研究実施計画について打合せを行ったほか、フェス・メクネス実地調査に向けた予備作業を進めた。

周辺諸国については、連携研究者の吉村武典氏が 2017 年 3 月 1 日～3 月 13 日にかけてチュニジアを訪れ、海外共同研究者の S. Bargaoui 氏（マヌーバ大学教授）および M. Chapoutot-Remadi 氏（チュニジア科学・文学・芸術アカデミー人文社会学部長／チュニス大学名誉教授）と共同でチュニスの国立図書館および文書館にて調査を実施した。とくに同文書館所蔵のワクフ（寄進）文書コレクション内に、東洋文庫所蔵文書と共通する形態的特徴を持った皮紙文書群を発見できたのは大きな成果である。

チュニジアではこの他、カイラワーンとスースの両都市も訪問調査した。カイラワーンのラッカーダ博物館に同種文書が所蔵されているとの有益な情報を得たことに加え、スースでは私家文書の存在を確認した。

### ③ 「渭河流域における秦文化成立の考古学的研究」

〔研究代表者：飯島 武次〕（2016 年度採用、3ヶ年間・初年度）

中国甘肅省東部から陝西省の渭河流域に分布する早期秦文化の遺跡・遺物および春秋戦国時代秦国の遺跡・遺物、統一秦時代の遺跡・遺物に関する考古学的調査と研究を行う。その中で第一の研究目的は、早期秦文化の遺跡・

遺物の実態を踏査によって明らかにすることである。第二の研究目的は、中国側の発掘に参加する機会を持ち、秦文化遺跡の地下の内容を遺構として理解する。

該当地域における早期秦時代から秦滅亡にいたる秦文化の考古学的な分析を行い、秦漢帝国として成立する中華文明の基礎が秦文化の中に芽生えていく過程について都市遺跡を中心に分析する。甘肅省天水市清水県に遺跡の存在が想定される秦邑（秦亭）時代、陝西省宝鶏市内に遺跡の存在が想定される平陽時代、鳳翔県の雍城時代、咸陽市の咸陽時代に関して研究を進め、秦の都市遺跡の実態を明らかにしたい。あわせて都城に付随する秦陵も踏査し、都城と秦陵からなる秦の遺跡の変遷を研究する。

#### [研究実施概要]

中国陝西省渭河兩岸に分布する西周時代併存早期秦文化および東周時代秦文化の遺跡・遺物の考古学調査と研究を行うことを目的として1年間の研究活動を行ってきた。基礎作業として、『史記』『漢書』『水経注』など文献史料に記載された早期秦・東周時代秦に関わる史料を考古学の日で再確認を行った。

2016年5月20日～23日の間、研究代表者飯島武次は、中国鄭州市で開催された「中国考古学大会」に参加し、講演および研究発表を行い、あわせて秦文化成立にかかわる研究連絡を陝西省考古研究院の王偉林院長・焦南峰教授と行い、その後、24・25日には、北京大学考古文博学院を訪問し、徐天進教授と9・10月の遺跡発掘に関して打ち合わせを行った。2016年8月29日～9月1日の間、研究代表者飯島は、北海道にある東京大学大学院人文社会系研究科付属北海文化常呂実習施設において行われた北京大学考古文博学院の発掘実習に出向き、発掘技術交流を行った。

2016年9月26日～10月5日の間、研究代表者飯島、研究分担者角道亮介、研究協力者大日方一郎・于術は、北京大学考古文博学院・陝西省考古研究院が行った中国宝鶏市岐山賀家村の発掘調査に参加した。早期秦文化に併存する西周時代遺構が主体であったが、西周遺構を切る東周時代秦文化の土器窯の存在を確認し、土器や瓦の出土があった。発掘期間を利用して、秦漢時代遺跡の大発見である鳳翔県血池の北畤祭祀遺跡の発掘を視察した。又この期間に宝鶏市青銅器博物館、秦公一号墓、秦雍城の見学、雍城遺跡発掘工作站的訪問を行った。研究協力者大日方は、発掘終了後、飯島の指示で10月6日～9日の間、甘肅省礼県の前秦文化の大堡子山遺跡・圓頂山遺跡の踏査

を行った。研究協力者于術が中国へ帰国したため、2017年度から山本堯（東京大学大学院人文社会系研究科博士課程考古学）に研究協力者を頼むことにした。

#### (4) 若手研究B

##### ①「多文化共生の危機：仙台・神戸朝鮮学校の再建比較研究」

[研究代表者：加藤 恵美]（2015年度採用、2ヶ年間・最終年度）

2011年の東日本大震災で被災した東北朝鮮初中級学校は、再建の目途が立っていない。本研究の目的は、1995年の阪神・淡路大震災被災後直ちに再建された神戸の朝鮮学校の再建過程を対照事例として、仙台の朝鮮学校が再建されない原因を「多文化共生の危機」として、1. 朝鮮学校（民族コミュニティ）に内在する原因、2. 地方自治体（地域社会）と日本政府（日本社会）との関係の中に存する原因という2つの観点から明らかにすることである。

本研究は、2年で完結させることを目指す。各年の中心目的は、平成27年度については再建過程の前史（被災前）の分析、平成28年度については再建過程（被災後）の分析である。研究成果として、2年の間に1本の日本語論文と1本の英語論文を発表することを目指す。更に公開研究会を主催し、朝鮮学校関係者らと共に「多文化共生の危機」をどう乗り越えうるのかを広く考える。

##### [研究実施概要]

本研究は、東日本大震災（2011年）で被災した仙台の朝鮮学校（東北朝鮮学校）が再建されない原因についての考察を、阪神・淡路大震災（1995年）の被災後直ちに再建された神戸の朝鮮学校を対照事例として、(1) 朝鮮学校／民族コミュニティに内在する原因と、(2) 朝鮮学校と地方自治体及び日本政府との関係に存する原因、という2つの観点から深めることを目的としている。本研究は2年で完結させることを目指し、1年目（平成27年度）の焦点は、再建過程の前史、すなわち神戸・仙台朝鮮学校の設立以降、被災までの歴史の検討であり、その一方で、2年目（平成28年度）は、再建過程それ自体を検討の焦点とする計画であった。これまでの研究は、概ねこのような計画に則り進められてきたが、後で詳しく述べるように、社会への成果の発信を目的として、本研究は全体として3年で完結させる研究に変更され

た。

本年度（2年目）の研究実績としては、次の4点を挙げる事ができる。第一に、朝鮮学校の再建に関するフィールドワークの遂行である。神戸と仙台の両地域で、関係者へのインタビューを実施し、現地の公立図書館等での資料収集も行った。第二に、日本社会学会大会での研究成果の報告である。そこでは、論文執筆に向けて大変有意義なフィードバックを得ることができた。第三に、論文執筆の着手である。フィードバックを踏まえて、まずは一つの論文を、在日朝鮮人の「少数居住地域」に位置する東北朝鮮学校の独特の経験に焦点を絞った歴史研究として完成させることを目指し始めている。それは、1年目の研究の気づき（東北の朝鮮人コミュニティに関する歴史研究の不在）を踏まえたものでもある。第四に、そうした狙いに基づいて、東北朝鮮学校創設当時（1965年前後）の「朝鮮新報（エスニック・メディア）」及び「河北新報（地方紙）」の記事を網羅的に調査した。

## ②「近世・近代の中国におけるジェンダーイメージの構築と変容：メディアと裁判に着目して」

[研究代表者：五味 知子（奨励研究員）]（2016年度採用、3ヶ年間・第1年度）

研究目的は16～20世紀初頭の中国において、ジェンダーをめぐるイメージがどのように構築され、変容したかを明らかにすることである。特に、メディアと裁判に着目する。メディアについては、前近代の伝統的メディアである書物と、近代になって現れた新聞や雑誌といった新しいメディアの中で、ジェンダーに関する言説がいかに変化したか、あるいは変化しなかったかを分析する。裁判は一般庶民が王朝の法秩序と相対する場であり、そこからは法規範や社会規範の中のジェンダーと、庶民のジェンダー観念の共通点や相違点を読み取れる。本研究は、史料中の言説を史実の直接の反映とは捉えず、むしろイメージを構築することによって、現実に働きかける作用を有したものと捉えるところに特徴がある。

### [研究実施概要]

本年度は、二本の学術論文を発表した。論文「清代における殺人事件の裁判と女性—楊乃武案を手掛かりに」（『歴史学研究』946号）は、夫殺し冤罪事件を事例として、清代の殺人事件の裁判における女性の立場について論じた。楊乃武の姉や妻は代理人を立てて、冤罪を訴えた。誣告とされても、代

理人が処罰されるため、彼女たちは処罰を恐れる必要はなかった。彼女たちの訴えは、新聞に大きく報道され、実際に解決へとつながった。論文「纏足・大脚・赤脚—明清時代における婢のイメージとメディア」（『中国のメディア・表象とジェンダー』研文出版）では、明清時代の小説、新聞、画報などのメディアにおいて、婢のイメージと足・鞋がどのように結び付いていたかについて論じた。『申報』の広告に見る失踪した婢の足を分析すると、四分之三が纏足をしていなかった。明清時代の漢民族の中にも、纏足をしていなかった女性は数多くいたが、それは身分や地域と関連していた。身分的流動は、婢の足に象徴的に表れており、『申報』の広告にみる婢の「半小脚」、「半大脚」、「中脚」、「圓脚」は、婢の人生の流転を示しているといえると結論づけた。

口頭発表「清代の告示文にみる庶民生活と地方官」（歴史学会第41回大会自由論題報告）では、清代の告示文に描かれた庶民生活、すなわち地方官から見た庶民生活の特徴について分析するとともに、告示を庶民層まで伝達するためにはどのような工夫が見られたのか、また、民間社会において、告示はどのように受け止められていたのかについて検討した。口頭発表「清代官媒初探」（東洋文庫談話会）では、清代の地方行政において「官媒」と称された下役人が歴史的にどのような変遷をたどったかについて論じた。

#### E. 東洋文庫研究員・研究課題一覧

研究員名	研究課題
會谷 佳光	和刻本を中心とした仏典の書誌学的研究
相原 佳之	中国明清時代環境史
青木 敦	宋代の法と経済
青山 亨	古代ジャワ史・ジャワ文学研究
青山 瑠妙	現代中国政治・外交の研究
秋葉 淳	オスマン帝国末期の社会および制度
浅田 進史	独中関係史
浅野 秀剛	日本版画美術の研究
天見 慧	現代中国の政治体制及び国際関係
新井 政美	トルコ近代史
荒川 正晴	中央アジア古代史
飯尾 秀幸	中国古代国家史
飯島 明子	東南アジア大陸部北部の歴史

研究員名	研究課題
飯島 武次	殷周時代の考古学研究
飯島 渉	医療社会史
池田 温	中国中古史、前近代東亜文化交流史
池田美佐子	エジプト近現代史
池田 雄一	中国古代社会史
石川 寛	南アジア史
石川 重雄	中国巡礼社会史の研究
石塚 晴通	日本語の歴史的研究、古代漢字文献学
石橋 崇雄	清朝政治史
磯貝 健一	イスラーム期中央アジア古文書研究
井上 和枝	朝鮮時代郷村社会史研究・朝鮮女性史研究
井上 和人	東アジア古代都城制度の比較研究
今西祐一郎	源氏物語を中心とした平安時代文学の研究
上田 望	中国長編小説
上野 英二	平安朝文学の研究
内田 知行	中華民国社会史
内山 雅生	近代中国華北農村経済史
梅原 郁	宋元時代の法制制度の研究
梅村 坦	ウイグル民族誌、内陸アジア史
宇山 智彦	中央アジア近代史・現代政治
江川ひかり	トルコ社会経済史
江南 和幸	金属材料学、里山学、文化財科学
遠藤 光暁	中国語音韻史・方言学
大江 孝男	現代朝鮮語及び中期朝鮮語の研究
大河原知樹	19-20世紀シリアの社会史・政治史
大里 浩秋	清代末期の革命思想、日中関係史
大澤 肇	近現代中国における学校教育史
大澤 正昭	唐宋時代社会史
太田 啓子	アラビア半島・紅海文化圏の歴史
太田 信宏	南インド近世史
太田 幸男	秦墓竹簡の研究
大谷 俊太	室町・江戸時代文学の研究
岡崎 礼奈	日本近代美術史

研究員名	研究課題
尾形 洋一	近現代中国政治外交史
岡野 誠	前近代中国の王権・国家・法／敦煌吐魯番文献
岡本 隆司	近現代中国外交史
丘山 新	中国仏教資料研究
小川 裕充	中国絵画資料研究
小川 快之	中国宋代から清代の社会史、社会生活史、法制史
奥村 哲	中国近現代史
尾崎 文昭	20-21 世紀中国の文学
小田 壽典	古トルコ語仏教文献の研究
小名 康之	インド近世、ムガル政治史
小沼 孝博	中央ユーラシア史、17-19 世紀の新疆史
梶谷 懐	中国の財政金融改革
粕谷 元	トルコ現代史
糟谷 憲一	18-19 世紀朝鮮政治史
片桐 一男	日蘭文化交渉史の研究
片山 章雄	中央アジア古代史
片山 剛	広東農村社会史研究
加藤 恵美	在日韓国・朝鮮人社会の史的考察と国際比較—文化間関係の観点から
加藤 直人	清朝の民族統治政策・清代檔案史料の研究
金沢 陽	中国陶磁器研究
金子 修一	中国古代史
金丸 裕一	中国政治経済史・日中関係史
亀谷 学	初期イスラーム史
川井 伸一	中国企業研究
川合 安	六朝貴族制の研究
川崎 信定	チベット仏教の研究
川島 真	近代中国外交史
貴志 俊彦	東アジアの通信メディアとめぐる比較史的研究
岸本 美緒	明清時代地方社会史
北川 香子	カンボジア史
北村 文夫	現代中東問題の研究
北本 朝展	デジタル・アーカイブ

研究員名

橘堂 晃一  
金 鳳珍  
楠木 賢道  
久保 亨  
窪添 慶文  
久保田 淳  
熊本 裕  
黒田 卓  
氣賀澤保規  
巖 善平  
黄 東蘭  
高野 太輔  
興梠 一郎  
小嶋 芳孝  
小杉 泰  
後藤 明  
小浜 正子  
小松 久男  
小南 一郎  
近藤 信彰  
齋藤真麻理  
早乙女雅博  
櫻井 徹  
佐々木 紳  
佐藤健太郎  
佐藤 慎一  
佐藤 宏  
佐藤 仁史  
澤江 史子  
塩沢 裕仁  
設楽 國廣  
蒨 勇造  
篠木 由喜

研究課題

ウイグル仏教史の研究  
東アジアの歴史・思想・国際関係  
清代東北史、清朝史  
中国近現代史  
魏晉南北朝時代史  
日本中世文学、和歌文学  
イラン語史の研究  
近現代イラン史  
隋唐政治社会文化史  
中国の三農問題  
近代日中関係史  
初期イスラーム史  
現代中国論・中国現代史  
渤海文化の考古学的研究  
現代イスラーム政治の研究  
イスラム社会と政治の研究  
中国ジェンダー史・中国近現代社会史  
中央アジア近代史  
中国藝能史研究  
イラン史・ペルシア語文化圏史  
中世日本文学の研究  
東アジア考古学の研究  
在留外国人コミュニケーション誌の現況について  
オスマン帝国近代史  
マグリブ・アンダルス史  
中国近代政治資料研究  
農村経済社会の長期変動  
近現代江南農村社会史研究  
現代トルコ政治  
中国古代歴史地理研究  
オスマン帝国末期政治史  
南アラビア古代史  
博物館展示・教育論



研究員名	研究課題
篠崎 陽子	前近代中国文化史
斯波 義信	中国社会経済史
嶋尾 稔	ベトナム史
島田 竜登	東南アジア経済史、海域アジア貿易史
清水 宏祐	セルジューク朝時代イランの研究
清水 信行	古代の日本・大陸交流史
志茂 碩敏	13・4世紀モンゴル政権中枢・中核の研究
徐 小潔	近代日中関係史、コディコロジー
城山 智子	近現代中国の通貨・金融システム
真道 洋子	イスラーム・ガラス文化史
新免 康	中央アジア史
末成 道男	東アジア社会人類学
須川 英徳	高麗・朝鮮時代の商業
杉山 清彦	大清帝国史
鈴木 恵美	近現代エジプト政治史
鈴木 董	トルコ史
鈴木 均	イランおよびアフガニスタンの地域研究
鈴木 博之	徽州民間祭祀の研究
鈴木 立子	元朝社会経済史
砂山 幸雄	現代中国思想・文化・政治体制
妹尾 達彦	中国古代・中世都市史
關尾 史郎	敦煌・トルファン文書研究
関本 照夫	東南アジア伝統工芸業の研究
曾田 三郎	中国近代政治・社会史
高田 幸男	中国近代教育社会史、近代東アジア教育交流史
高遠 拓児	清代における刑罰制度の研究
高橋 英海	西洋古典学
高松 洋一	オスマン朝史、古文書学、アーカイブズ学
瀧下 彩子	近現代中国社会文化史
武内 紹人	古代チベット語の歴史言語学的研究
武内 房司	中国近代宗教社会史、近代中国・ベトナム関係史
武田 幸男	朝鮮古代・近世史
田島 俊雄	東アジア経済

研究員名	研究課題
多田 狷介	漢魏晋史
立川 武蔵	チベット密教教理の研究
田中 明彦	現代東アジア国際政治の研究
田仲 一成	中国演劇史
田中 時彦	日本の政治的近代化の研究
田中 仁	中国近代政治史—初期中国共産党史
田中比呂志	近現代中国の社会統合の研究
C. A. ダニエルズ	清代社会経済史、中国技術史
ペーター・ツィーメ	古ウイグル文献学
塚原 東吾	科学史・科学哲学、S T S
辻本 裕成	中古・中世日本文学の研究
土田 哲夫	中国近現代史、国際関係史
坪井 祐司	マレーシア近代史
鶴見 尚弘	明・清時代社会経済史
寺田 浩明	中国明清法制史
唐 成	現代中国金融の研究
唐 亮	現代中国政治史の研究
東條 哲郎	マレーシア近代社会経済史
徳永 洋介	中国近世史
戸倉 英美	中国古典文学資料研究
朽尾 武	和漢比較文学の研究及び日本に伝来した漢籍の研究
土肥 祐子	宋代海外貿易史
土肥 義和	西域出土漢文文書の研究
富澤 芳亜	中国近代経済史
鳥海 靖	日本近現代史
中兼和津次	現代中国経済・移行経済の研究
長沢 栄治	近代エジプト社会経済史
永田 雄三	オスマン帝国社会経済史
中谷 英明	インド仏教学
長縄 宣博	帝政ロシアのムスリム社会と国家
中見 立夫	清代モンゴル史・清代文書の史料的研究
中村 元哉	中国近現代政治史・思想史
新村 容子	近代中国におけるアヘン問題

研究員名	研究課題
西 英昭	中国・台湾の近現代法制史
西尾 寛治	マレーシア・インドネシア近世史
延廣 眞治	江戸・明治の文芸
萩田 博	ウルドゥー語学・文学の研究
馬場 英子	中国の説唱文学（語り物）
濱下 武志	中国近現代史
濱島 敦俊	中国近世社会経済史
濱田 正美	中央アジアにおけるイスラーム研究
林 佳世子	オスマン朝期中東社会史
林 俊雄	中央ユーラシア史・草原考古学の研究
原 實	インド古代文学の研究
原山 隆広	アッバース朝末期政治史
平勢 隆郎	中国考古資料研究
平野健一郎	近代東アジア国際関係論
平野 聡	中国党支配（国民党・共産党）の史的研究
弘末 雅士	インドネシア宗教社会史
廣瀬 紳一	漢字文化圏電子情報学の研究
深沢 眞二	連歌・俳諧の研究
藤井 昇三	現代日中関係史の研究
藤田 忠	中国古代政治・社会史
藤本 幸夫	朝鮮本研究
古田 和子	情報・流通ネットワークの歴史的分析
古屋 昭弘	中国語史
弁納 オ一	近現代中国農村経済史
寶劍 久俊	現代中国の農村社会経済変動の研究
星 泉	チベット言語学
細谷 良夫	清朝政治史
堀井 聡江	イスラーム法史
堀川 徹	中央アジア文書研究
本庄比佐子	近現代日中関係史
牧野 元紀	ベトナムのキリスト教
松井 太	中央アジア出土ウイグル語・モンゴル語文献の歴史学的研究
松重 充浩	近現代中国政治・社会史及び東北アジア地域史

研究員名	研究課題
松永 泰行	現代イランの政治・宗教及びシーア派研究
松丸 道雄	殷周金文の研究
松村 潤	東北アジア民族史
松本 弘	イエメン地域研究、エジプト近代史、現代中東政治
丸川 知雄	中国の産業集積および日中経済関係
三浦 徹	イスラム都市社会史
水野 善文	古典サンスクリット文学と中世ヒンディー文学
三田 昌彦	北インド中世史
御牧 克己	チベット宗義書の研究
宮崎 修多	近世近代漢詩文の研究
宮脇 淳子	アジア史
村井 章介	日本中世を中心とする東アジア文化交流史
村上 衛	清末沿海経済史の研究
村田雄二郎	中国近代史、中国地域研究
毛里 和子	現代中国政治・外交及び東アジア国際関係
本野 英一	清末民初における対外経済関係
靱山 明	中国古代法制史・辺境論・資料論
守川 知子	イラン・イスラーム史
森平 雅彦	朝鮮中世・近世史
森安 孝夫	古代ウイグル文書の研究、中央ユーラシア古代中世史
矢島 洋一	中央アジア史
柳澤 明	清代外交史・民族関係史
柳田 征司	日本語の歴史的研究
柳谷あゆみ	中世アラブ政治史、イスラーム地域資料研究
矢吹 晋	近現代中国経済
山内 弘一	李朝史、朝鮮儒教研究
山内 民博	朝鮮後期郷村社会史研究
山口 瑞鳳	チベット学、仏教哲学
山村 義照	日本近現代史
山本 英史	17～19世紀中国社会構造の研究
山本 真	中国・台湾近現代農村社会史
山本 毅雄	デジタル人文学
湯浅 剛	中央アジア政治史

研究員名	研究課題
吉澤誠一郎	中国近現代史
吉田 伸之	日本近世都市社会史
吉田 光男	朝鮮近世史
吉田 豊	ソグド語及びソグド語文献の研究
吉水 清孝	ミーマーンサー（聖典解釈学）派研究
吉水千鶴子	インド・チベット仏教思想史の研究
吉村慎太郎	イラン近現代史
吉村 武典	エジプト史
六反田 豊	朝鮮中世・近世史
和田 恭幸	日本近世出版文化史および通俗仏書の研究
渡辺 紘良	宋代社会史

(全 254 人)

## 2. 研究資料出版

超域アジア研究と歴史・文化研究に関する一次資料の解析と研究の成果は、総合アジア圏域研究との連携の下に継続してきた和文および欧文の紀要・雑誌・叢書として刊行され、順次オンライン公開を進めた。さらに総合アジア圏域研究に伴う成果を、アジア研究に関する欧文の電子ジャーナルとして編集発行することにより発信力を高めた。これらの出版物ならびに電子ジャーナルは、研究情報ネットワークと結びつくことにより、日本・アジア・欧米を結ぶアジア研究の国際交流をさらに促進するものとなろう。

### A. 定期出版物刊行

- (1) 『東洋文庫和文紀要』（東洋学報） 第 98 巻第 1～4 号  
A5 判 4 冊（刊行済）
- (2) 『東洋文庫欧文紀要』  
(*Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko*) No.74  
B5 判 1 冊（刊行済）
- (3) 『近代中国研究彙報』 39 号  
A5 判 1 冊（刊行済）
- (4) 『東洋文庫書報』 第 48 号  
A5 判 1 冊（刊行済）

- (5) *Modern Asian Studies Review* (新たなアジア研究に向けて) Vol. 8  
 オンラインジャーナル (公開)
- (6) *Asian Research Trends New Series* No. 11 A5判 1冊 (刊行済)

## B. 論叢等出版

- (1) 『『順天時報』社論・論説目録』 A4判 1冊 (刊行済)
- (2) 『敦煌・吐魯番文書の世界とその時代』 B5判 1冊 (刊行済)
- (3) *State Formation and Social Integration in Pre-modern South and Southeast Asia: A Comparative Study of Asian Society* (TBRL16)  
 B5判 1冊 (刊行済)
- (4) *Vestiges of the Razavi Shrine Āthār al-Raḏavīya: a Catalogue of Endowments and Deeds to the Shrine of Imam Riza in Mashhad* (TBRL17) B5判 1冊  
 (刊行済)
- (5) 第5回総合アジア圏域研究国際シンポジウム要旨集『アーカイブの内  
 と外—当代中国研究の新展開』 A4判 1冊 (刊行済)
- (6) *Le Guide des travaux du parlement marocain* (1963-2011)  
 A4判 1冊 (刊行済)
- (7) 『オスマン民法典 (メジェッレ) の研究 賃約編』  
 B5判 1冊 (刊行済)
- (8) 唐宋編年史料語彙索引データベース I データベース (公開)
- (9) 中国木偶戯関係写真資料データ・ベース データベース (公開)

## C. 研究資料の全文オンライン公開

以下の研究部ホームページにおいて、順次研究資料の全文公開を行った。  
<http://www.toyo-bunko.or.jp/research/results.html>

## 3. 研究情報普及

### A. 講演会

- (1) 東洋学講座

春秋2期、年6回実施した。

(前期) 共通テーマ「医学・衛生学的中国事情」

第554回 2016年7月15日(金)

「青蒿素(アーテミスニン)の物語

—ノーベル賞学者屠呦呦のマラリア研究—

東洋文庫研究員

青山学院大学教授

飯島 渉 氏

第555回 2016年7月22日(金)

「公衆衛生学の転換—一人は一人では生きていけない—」

長崎大学教授

山本 太郎 氏

第556回 2016年7月29日(金)

「ローカルな知識から実験医学へ—香港における中医の変遷を中心に—」

沖縄県教育庁文化財課史料編集班主任

帆刈 浩之 氏

(後期) 共通テーマ「江戸の書物文化」

第557回 2016年11月22日(火)

「活字印刷の選択—キリシタン版を例として—」

上智大学教授

豊島 正之 氏

第558回 2016年11月29日(火)

「ヨーロッパの人びとを魅了した日本の園芸

—江戸の植物絵本と名所図会にその源を見る—」

東洋文庫研究員

龍谷大学名誉教授

江南 和幸 氏

第559回 2016年12月6日(火)

「近世出版文化のなかの絵図・地図—海洋把握の変容と「日本」—」

東京大学教授

杉本 史子 氏

(2) 特別講演会

主として来日中の著名な外国人研究者を招いて実施した。

2016年4月7日(木)

「唐大明宮朝堂の功能(淵源と機能)をめぐる新考察」〔中国語・通訳あり〕  
陝西師範大学教授 杜 文玉 氏

2016年4月13日(水)

「協力構築東亞醫療史的經驗與展望」〔中国語・通訳なし〕  
中央研究院近代史研究所 張 哲嘉 氏  
「近代史所数位資料庫 (Modern History Databases) ; 内容和運作」〔中国語・通訳なし〕  
中央研究院近代史研究所 陳 建安 氏

2016年5月3日(火)

「マムルーク朝における筆耕と図書館」〔英語・通訳なし〕  
ロンドン大学東洋アフリカ研究学院名誉教授  
D・ベーレンス・アブーセイフ 氏

2016年6月18日(土)

“Традиции восточной археологии в Казанском университете в XX столетии”〔ロシア語・通訳あり〕  
カザン連邦大学歴史学部教授  
USMANOVA, Diliara Mirkasymovna 氏

2016年7月4日(月)

「ハーバード・イェンチン・インスティテュートの創立とヨーロッパの中央アジア探検家」〔中国語・通訳あり〕  
ハーバード・イェンチン研究所副所長  
李 若虹 氏



2016年7月30日(土)

「兩漢之際三公制演生小論」〔中国語・通訳なし〕

復旦大学歴史学系副教授

徐 冲 氏

2016年9月29日(木)

「康熙帝の第一回南巡の再検討」〔英語・通訳なし〕

コレージュ・ド・フランス名誉教授

Pierre-Étienne WILL 氏

2016年9月29日(木)

“Knowledge production on Central Asia: Inquiries into how Social Sciences conducted research in and on Central Asia during and after the Soviet Union?”〔英語・通訳なし〕

ハイデルベルク大学 Junior Research Group Leader

Sophie Roche 氏

2016年11月22日(火)

「礼遇と懐柔：隋朝における江南士人の文教貢献—新出の大業十三年「包愷墓誌」を中心に—」〔中国語・通訳あり〕

陝西師範大学歴史文化学院教授

周 曉薇 氏

2016年12月4日(日)

公開シンポジウム「近現代中国農村社会の特質と変容」〔中国語・通訳なし〕

開会の挨拶：弁納 才一 氏（東洋文庫研究員・金沢大学教授）

〈報告〉

「村の権力と宗教」

東洋文庫研究員

東京学芸大学教授

田中比呂志 氏

「蘇南農民の衣着消費—無錫洛社農戸賬本透視之二」

元無錫市政协協商委員会研究室主任

湯 可可 氏

「新農村建設中的“煤因素”」

山西大学外語学院教師

毛 来靈 氏

総括討論

閉会の挨拶

司会：祁 建民 氏（長崎県立大学教授）

2017年1月27日（金）

“The historical significance of researching European paper with and without watermarks and its technological development”〔英語・通訳あり〕

デンマーク国立博物館名誉研究員  
紙の歴史研究者国際協会会長

Anna-Grethe Rischel 氏

2017年2月19日（日）

「近現代中国農村社会の変遷と特質—華北と華中の比較」〔中国語・通訳なし〕

開会の挨拶：弁納 才一 氏（東洋文庫研究員・金沢大学教授）

「中国国家治理体系の内在緊張と自我調適—基于湖北省L鎮綜合扶貧改革的個案研究」

華中師範大学教授 劉 義強 氏

「ト凱視闕下的20世紀20年代的日本農業—兼与其塩山、平郷調査の比較」

河北大学副校長 楊 学新 氏

「清末直隸戒煙活動論析」

河北大学教授 肖 紅松 氏

「集体化時期大型水利工程中の民工用糧—以河北省根治海河工程為例」

河北大学副教授 呂 志茹 氏

「“男女平等”的異化与誤讀—以集体化時期太行山区婦女参加社会生產為例」

河北大学副教授 劉 潔 氏

閉会の挨拶：田中比呂志 氏（東洋文庫研究員・東京学芸大学教授）

司会：祁 建民 氏（長崎県立大学教授）

2017年2月20日（月）

“Between Istanbul and Gujarat: Descriptions of Mecca in the Sixteenth-Century Indian Ocean”〔英語・通訳なし〕

ニューヨーク大学

Librarian for Middle Eastern & Islamic Studies

Guy Burak 氏

2017年2月21日(火)

国際ワークショップ “Kanun and Taxation in the Ottoman Empire” [英語・通訳なし]

“Transformation of the Ottoman Auxiliary Unit: Yörüks and Müsellems in the Balkans as Tax-payers”

東京外国語大学 アジア・アフリカ言語文化研究所

日本学術振興会特別研究員(PD) 岩本 佳子 氏

“Kanun and Kanunname in the Ottoman Empire”

アリゾナ大学教授

Linda Darling 氏

2017年2月28日(火)

「タタールスタン共和国国立文書館所蔵のタタール史に関する文書」[ロシア語・通訳あり]

タタールスタン共和国国家文書委員会

文書研究利用・国際関係部長

イリヤス・ムスタキモフ 氏

2017年3月3日(金)

「西漢長安的城与郊」[中国語・通訳あり]

中国社会科学院考古研究所教授

劉 振東 氏

### (3) 東洋文庫談話会

専門分野の若手研究者による成果報告会を実施した。

2017年3月15日(水)

「清代官媒初探」

東洋文庫奨励研究員

五味 知子 氏

2017年3月15日(水)

「清末民初の北京旗人社会と新聞メディア

—北京の白話報と旗人ジャーナリストを中心に—

日本学術振興会特別研究員（P D） 阿部由美子 氏

2017年3月30日（木）

「ロシア・中央アジア・新疆間におけるタタール商人の活動」

日本学術振興会特別研究員（R P D）濱本 真実 氏

2017年3月31日（金）

「中国農村社会再考

—中華人民共和国初期、華北地域における変化／不変化—」

日本学術振興会特別研究員（P D） 河野 正 氏

#### (4) 公開講座

様々な分野の著名研究者を国内外より招いて実施した。

2016年5月15日（日）

「儒教と日本人」

大阪大学名誉教授 加地 伸行 氏

「江戸儒教から学ぶこと—「模倣」と身体知」

国際基督教大学教授 小島 康敬 氏

2016年9月11日（日）

「もっと知りたい！江戸絵画の世界」

東洋文庫研究員 岡崎 礼奈 氏

2016年9月24日（土）

《第5回総合アジア圏域研究国際シンポジウム》

「アーカイブの内と外—当代中国研究の新展開」〔使用言語：中国語〕

開会あいさつ：濱下 武志 氏（東洋文庫研究部長）

趣旨説明：村田雄二郎 氏（東洋文庫研究員・東京大学教授）

基調報告「アーカイブ・記録・記憶」

「民間史料与中国当代史研究之人文取向—華東師範大学当代文献史料中心  
収蔵所見」

華東師範大学教授 張 濟順 氏

「日記与中国近代史研究—以「蒋介石日記」為例的討論」

台湾中央研究院兼任研究員

国史館前館長

呂 芳上 氏

特別講演会：

「東洋文庫所蔵の中国農村祭祀関係視覚資料」

東洋文庫図書部長

田仲 一成 氏

第1セッション「戦後東アジアの国際関係と檔案（アーカイブ）」

司会：毛里 和子 氏（東洋文庫研究員・早稲田大学名誉教授）

「日中平和友好条約と福田外交」

成蹊大学准教授

井上 正也 氏

「中朝関係新起点—労働党八月事件及其結果」

華東師範大学教授

沈 志華 氏

コメンテーター：下斗米伸夫 氏（法政大学教授）

第2セッション「大衆・集団・国家」

司会：中兼 和津次 氏（東洋文庫研究員・東京大学名誉教授）

「当代中国人的集体記憶与個人記憶」

復旦大学教授

張 樂天 氏

「集体化時代農村基層檔案与山西社会研究」

山西大学副学長

行 龍 氏

山西大学副教授

馬 維強 氏

コメンテーター：内山 雅生 氏（東洋文庫研究員・宇都宮大学名誉教授）

祁 建民 氏（長崎県立大学教授）

第3セッション「檔案資料から見る“中国”の内と外」

司会：石川 禎浩 氏（京都大学教授）

「研究胡適与現代中国知識人群体的新工具—簡介「胡適檔案檢索系統」与『胡適藏書目錄』」

台湾中央研究院研究員兼胡適記念館主任

潘 光哲 氏

「檔案資料的内与外—以「五四」、「香港」為中心的探討」

香港城市大学副教授

陳 学然 氏

コメンテーター：菅野 敦志 氏（名桜大学上級准教授）

総括発言・討論：村田雄二郎 氏（東洋文庫研究員・東京大学教授）

2016年10月23日(日)

「ドナルド・キーンさんと親しむ古浄瑠璃の世界」

コロンビア大学名誉教授      ドナルド・キーン 氏  
浄瑠璃演奏者                      越後角太夫 氏

2016年11月3日(木)

「落語で入門！江戸の暮らしと言葉」

落語家                                      三遊亭好吉 氏

2016年12月10日(土)、12月11日(日)

《国際シンポジウム2016》

「絵入り本と日本文化」(絵入本ワークショップⅨ)

第1日

開会のごあいさつ

(午前の部)

総合司会：日比谷孟俊 氏(慶應義塾大学顧問)

「奈良絵本の彩色分析」

東洋文庫研究員

龍谷大学名誉教授                      江南 和幸 氏

「料紙から見た絵入本出版事情」

学習院女子大学ほか非常勤              戸満 喜子 氏

(午後の部Ⅰ)

総合司会：佐藤 悟 氏(実践女子大学教授)

「江戸時代の「三国志」物における『絵本通俗三国志』の位置づけ  
—挿絵を手がかりに—」

(台湾)元智大学助理教授              梁 蘊嫻 氏

「虎狩・退治図から見られる日中韓の図柄の交流」

(韓国)明知大学教授                      崔 京国 氏

(午後の部Ⅱ)

総合司会：牧野 元紀 氏(東洋文庫主幹研究員)

「ベトナムの漢籍における挿絵本について

—『如来応驗図』と『農事全図』を中心に—

ベトナム社会科学院准教授

グエン・ティ・オワイン 氏

ベトナム社会科学院漢喃研究所  
 「漢喃雑誌」総編集副長 ヴオン・ティ・フォン 氏  
 「パリに渡ったフィッセルとシーボルト旧蔵の和本  
 —十九世紀の日蘭仏における書物交流を考える—」  
 フランス国立東洋言語文化大学教授  
 クリストフ・マルケ 氏

第2日

ごあいさつ

(午前の部)

総合司会：岡崎 礼奈 氏 (東洋文庫研究員)

「絵入百科事典の系譜と展開—『訓蒙図彙』を中心に—」

国際日本文化研究センター特任研究員

石上 阿希 氏

「津田青楓の図案作品—京都の年代—」

関西大学名誉教授

コット・ジョンソン 氏

(午後の部)

総合司会：山本 登朗 氏 (関西大学教授)

「住吉如慶筆『伊勢物語絵巻』の図様について」

神戸松蔭女子学院大学教授

田中 まき 氏

「伊勢物語絵に描かれた建築空間

—住吉如慶にみる復古表現と同時代表現—」

岩手県立大学短期大学部講師

赤澤 真理 氏

「葛岡宣慶と『伊勢物語』」

国文学研究資料館研究員

藤島 綾 氏

「『異本伊勢物語絵巻』のモチーフについて」

霞会館学芸員

大口 裕子 氏

2017年1月8日(日)

「古儀式派が変えたロシアの歴史」

法政大学教授

下斗米伸夫 氏

2017年1月22日(日)

「ロシア文学と近代日本」

名古屋外国語大学学長

亀山 郁夫 氏

2017年1月27日(金)、28日(土)

《東洋文庫アジア資料科学研究シリーズ 2016年度》

「モリソンコレクション将来100周年記念：紙料調査の意義と課題」コディ  
コロジーの未来をみつめて—「紙」・「印刷」・「出版」を科学する」

第1部 特別講演会

司会：江南 和幸 氏（東洋文庫研究員、龍谷大学名誉教授）

“The historical significance of researching European paper with and  
without watermarks and its technological development”

デンマーク国立博物館名誉研究員

紙の歴史研究者国際協会会長

Anna-Grethe Rischel 氏

第2部 講習会

趣旨説明：濱下 武志 氏（東洋文庫研究部長）

「料紙の質と典籍の位相—中国及び日本の写本・版本を例として」

東洋文庫研究員

北海道大学名誉教授

石塚 晴通 氏

「アジア・ヨーロッパ刊本用紙の比較研究」

東洋文庫研究員

龍谷大学名誉教授

江南 和幸 氏

「なぜ活版印刷はメディア革命を起こせたのか」

印刷博物館学芸員

中西 保仁 氏

パネルディスカッション・総合討論

パネラー：Anna-Grethe Rischel 氏、石塚 晴通 氏、江南 和幸 氏、  
中西 保仁 氏

司会：濱下 武志 氏

2017年1月29日(日)

《トークショー》

「わが心のロシア」

名古屋外国語大学学長

声優

亀山 郁夫 氏

上坂すみれ 氏



2017年2月5日（日）

「ロマノフ王朝時代の日露交流」

大阪大学名誉教授

生田美智子 氏

「トルストイに初めて会った日本人、小西増太郎」

大阪大学非常勤講師

有宗 昌子 氏

2017年3月10日（金）

《モリソン文庫渡来100周年記念プロジェクト》

「モリソンパンフレットの世界」

開会の挨拶：斯波 義信 氏（東洋文庫文庫長）

趣旨説明： 岡本 隆司 氏（東洋文庫研究員）

講演者： 後藤 春美 氏（東京大学教授）

中見 立夫 氏（東洋文庫研究員）

司会： 平野健一郎 氏（東洋文庫普及展示部長）

2017年3月19日（日）

「ロマノフ王朝時代の料理とファッション」

東京外国語大学教授

沼野 恭子 氏

・以下のワークショップを開催した。

2016年5月1日（日）・8日（日）

「三国志と『論語』」

早稲田大学教授

渡邊 義浩 氏

2016年6月19日（日）

「フジテレビ KIDS 親子論語ワークショップ vol.3 孔子と子路「義」「知」について」

東京大学教授

小島 毅 氏

2016年7月17日（日）

「フジテレビ KIDS 子どものための礼儀作法ワークショップ vol.1 ご挨拶と物の受け渡し」

小笠原流礼法総師範

前田 菱紀 氏

2016年8月20日(土)

「製本体験シリーズ第3弾 巻物をつくろう！」

東洋文庫研究員

篠木 由喜 氏

2016年9月15日(木)、10月6日(木)・20日(木)、11月10日(木)・24日(木)、12月8日(木)

《東洋文庫ジュニア研究員プログラム》

「ひろくて深〜い、地図と歴史」

株式会社 HUMI コンサルティング代表取締役

中村 佳史 氏

東洋文庫文庫長

斯波 義信 氏

東洋文庫研究員

篠木 由喜 氏

以下のミュージアムコンサートを開催した。

2016年8月9日(火)

「大地図展ミニコンサート」

リユート奏者

佐藤亜紀子 氏

2017年3月25日(土)

「ロマノフ王朝展ミュージアムコンサート」

バラライカ奏者

マキシム・クリコフ 氏

#### (5) 各種研究会・講演会開催

数量/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
研究会数	17	20	19	24	17	23	18	23	9	15	22	24	231
参加人数	151	197	201	288	95	202	117	267	131	231	170	227	2,277

#### B. データベース公開

2016年4月1日～2017年3月31日までの期間における、東洋文庫の図書・資料のデータ(日本語・英語)に対するオンライン検索アクセス状況については、II 図書事業のグラフ(p.28)に示す通りである。

C. 研究者の交流および便宜供与のサービス

〈長期受入〉

(1) 外来研究員の受入

フランソワ・ラシヨール（フランス国立極東学院 東京支部長）

「近世日本の美術史・宗教（蒐集家と文人のネットワーク、黄檗文化等）」

「近世期の東アジアの交流史（日本・中国・ロシア・西欧）」

（2017年3月18日～2019年3月14日）

徐 冲（復旦大学歴史学系副教授）

「歴史叙述よりみた漢晋間における官僚秩序の変革」

（2015年9月10日～2016年9月9日）

[受入担当：窪添 慶文]

USMANOVA, Diliara Mirkasymovna（カザン連邦大学歴史学部）

「極東における亡命タタール人の文化現象としての刊行物」

（2016年4月2日～2016年7月1日）

[受入担当：小松 久男]

蘇 基朗（香港科技大学教授）

「近代化のための実業・法律・教育：金港堂と商務印書館の比較」

（2016年5月20日～2016年7月31日）

[受入担当：斯波 義信]

蘇 寿富美（ジョージ・メイソン大学副教授）

「近代化のための実業・法律・教育」

（2016年5月20日～2016年7月31日）

[受入担当：斯波 義信]

Pierre-Étienne WILL（コレージュ・ド・フランス名誉教授）

「明清時代官僚制度の社会経済的、政治史的研究」

(2016年9月4日～2016年10月1日)

[受入担当：斯波 義信]

馬 軍 (上海社会科学院歴史研究所研究員)

「東洋文庫と近代中日学術交流について」

(2016年10月1日～2017年5月31日)

[受入担当：小浜 正子]

王 其禱 (西安碑林博物館研究員)

「新出隋代墓誌銘の整理と研究」

(2016年11月7日～2016年12月6日)

[受入担当：氣賀澤保規]

周 曉薇 (陝西師範大学歴史文化学院教授)

「新出隋代墓誌銘の整理と研究」

(2016年11月7日～2016年12月6日)

[受入担当：氣賀澤保規]

呉 真 (人民大学中文系副教授)

「中国古代戯曲演劇史」

(2017年1月7日～2017年2月18日)

[受入担当：田仲 一成]

(2) 2016年度日本学術振興会特別研究員P D・R P Dの受入

阿部由美子 (東京大学大学院P D)

「旗人から満洲族へ—20世紀中国理解への新たな視座」

(2014年度採用、15・16年度・3カ年間)

[受入指導者：松重 充浩]

河野 正 (東京大学大学院P D)

「1950～60年代、多地域比較による華北農村社会の変容に関する研究」

(2014年度採用、15・16年度・3カ年間)

[受入指導者：内山 雅生]

関 智英（東京大学大学院P D）

「戦時期中国人対日協力者（和平陣営）の戦後の活動と思想」

（2015年度採用、16・17年度・3カ年間）

[受入指導者：久保 亨]

濱本 真実（東洋文庫研究員）

「近代ユーラシア陸上貿易におけるタタール商人の活動とその文化的影響」

（2014年度採用、15・16年度・3カ年間、R P D）

[受入指導者：小松 久男]

（3）2016年度東洋文庫奨励研究員の受入

五味 知子（2016年度採用）

〈外国人研究者への便宜供与〉

Australia

Narangoa Li [Professor, The Australian National University]（ほか1名）

China

杜 文玉 [陝西師範大学教授]（ほか1名）

鄭 威副 [武漢大学歴史学院教授]（ほか1名）

李 婉琚 [広東外語外貿大学マレー語科講師]（ほか1名）

張 濟順 [華東師範大学教授]（ほか5名）

荊 紹福 [瀋陽市公文書館館長]（ほか5名）

呉 義雄 [中山大學歴史学部主任教授]（ほか8名）

陳 松長 [湖南大学教授]（ほか8名）

劉 曉南 [復旦大学教授]（ほか1名）

劉 振東 [中国社会科学院考古研究所教授]（ほか3名）

Denmark

Anna-Grethe Rischel [Scientist Emeritus, National Museum of Denmark]

Iran

Nahid Pourrostami [Professor, Tehran University] (ほか8名)

Singapore

Farish A. Noor [Associate Professor, S・Rajaratnam School of International Studies, Nanyang Technological University]

USA

Christopher Atwood [Professor, University of Pennsylvania] (ほか1名)

Matisoff Susan [Professor Emeritus, University of California] (ほか1名)

#### D. 国際交流

以前より研究協力協定を締結しているフランス極東学院、台湾中央研究院、ハーバード・エンチン図書館、ハーバード・エンチン財団、アレキサンドリア図書館、イラン議会図書館、ロンドン大学東洋アフリカ学院（SOAS）、ベトナム社会科学院漢喃研究所との学術交流を進め、資料・情報の交換と研究者の相互訪問を継続的に実施した。

また、2016年9月24日（土）に《総合アジア圏域研究国際シンポジウム》として、「アーカイブの内と外—当代中国研究の新展開」を開催した。

#### 4. 研究員等の研究業績

期間：2016年4月1日～2017年3月31日まで

略号：①…雑誌論文 ②…図書 ③…学会発表

相原 佳之

③「貴州東南部清水江流域の林業関係史料を用いた研究とその現状」(2016年度第1回「中国雲南におけるテキスト研究の新展開」共同利用・共同研究課題研究会、於：東京外国語大学、2016年6月19日)。

③「生存資源供給源としての山野の役割：清代中国を事例とした考察」(第2回「中国の山区社会と流域史」シンポジウム、於：慶應義塾大学、2016

年7月2日).

③「錦屏文書（清水江文書）与刑科題本」（第三屆錦屏文書国際學術研討会暨錦屏文書与法文化研究高端論壇，於：錦屏文書特藏館（貴州省錦屏県），2016年10月2日）.

青山 亨

① “Social Integration in Majapahit as Seen in an Old Javanese Court Narrative”, Karashima Noboru, and Hirose Masashi (eds.), *State Formation and Social Integration in Pre-modern South and Southeast Asia: A Comparative Study of Asian Society* (Toyo Bunko Research Library 16), pp. 165-177, The Toyo Bunko, 2017.

青山 治世

②『『順天時報』社論・論説目録』（村田雄二郎監修／関智英編），（公財）東洋文庫，2017年，382頁）.

浅田 進史

① “The Siege of Qingdao: Mobilization and War Experiences in a German Leasehold in China during World War I”, *Monde(s)*, 9, pp. 75-92, Presses Universitaires de Rennes, May 2016.

①書評「福岡万里子著『プロイセン東アジア遠征と幕末外交』（『史学雑誌』，第125編第6号，95～104頁，史学会，2016年6月）.

①書評「小池求著『20世紀初頭の清朝とドイツ：多元的国際環境下の双方向性』（『東洋史研究』，第75巻第2号，87～98頁，東洋史研究会，2016年9月）.

①「1920年代における中国市場調査：市場の再獲得を目指して」（田嶋信雄・工藤章編『ドイツと東アジア：1890 - 1945』，451～486頁，東京大学出版会，2017年2月）.

浅野 秀剛

①「浮世絵研究の現在と未来」「明治十年の小林清親と松木平吉」「表紙解説」（『美術フォーラム21』，34，40～41，117～120，170～171頁，醍醐書房，2016年11月）.

①「ジョルジュ・レスコビッツ氏の浮世絵コレクション」（『江戸への旅：

ジョルジュ・レスコビッツ浮世絵名品展 (図録)』, 24～39 頁, ジョルジュ・レスコビッツ財団, 2017 年 2 月).

②『歌麿決定版 (別冊太陽: 日本のこころ 245)』(平凡社, 2016 年, 168 頁, [監修]).

③「北斎の創作における発想」(AHRC 北斎研究プロジェクト, 於: 立命館大学アート・リサーチセンター, 2016 年 11 月 20 日).

③「北斎の初摺・後摺, 署名, 包紙, 刊年」(AHRC 北斎研究プロジェクト, 於: 学習院大学, 2016 年 11 月 25 日).

#### 荒川 正晴

① “The Silk Road Trade and Traders”, *Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko*, 74, pp. 29-59, The Toyo Bunko, Dec. 2016.

①「通行証としての公験と牒式文書」(土肥義和・氣賀澤保規編『敦煌・吐魯番文書の世界とその時代 (東洋文庫論叢第 80)』, 101～114 頁, (公財) 東洋文庫, 2017 年 3 月).

#### 飯島 明子

③「シェンケーン文書: 西北ラオスにおけるタム文字の使用」(愛知学院大学国際センターラオス研究所主催第 7 回ラオス懇話会, 於: 愛知学院大学楠本キャンパス, 2016 年 7 月 23 日).

#### 飯島 武次

③「關於先商文化的類型区分和地域問題」(首屆中国考古学大会, 於: 中国考古学会 (河南省鄭州市), 2016 年 5 月 21 日).

③「中華文明和日本古代文化」(首屆中国考古学大会, 於: 中国考古学会 (河南省鄭州市), 2016 年 5 月 22 日, [招待講演]).

③「日本中国考古学會創立的歴史」(扶風周原博物館講演會, 於: 扶風周原博物館 (陝西省寶鷄市), 2016 年 9 月 29 日, [招待講演]).

#### 飯島 涉

①「“歴史疫学”の世界: 日本におけるマラリア, 日本住血吸虫症, フィラリアの制圧とその経験の歴史化」(『医学のあゆみ』, 258 巻 4 号, 330～338 頁, 医歯薬出版, 2016 年 7 月).

③「青蒿素 (アーテミスニン) の物語: ノーベル賞学者屠呦呦のマラリア



研究] ((公財) 東洋文庫 2016 年度前期東洋学講座, 於: (公財) 東洋文庫, 2016 年 7 月 15 日, [『東洋学報』, 98-2, 123 ~ 125 頁, (公財) 東洋文庫, 2016 年 9 月]).

池田 美佐子

②『ナセル：アラブ民族主義の隆盛と終焉』(山川出版社, 2016 年, 107 頁).

石川 寛

①「デカン諸王朝の地方統治：ベルヴォラ・300 およびプリゲレ・300 の統治を中心に」(太田信宏編『前近代南アジア社会におけるまとまりとつながり』, 33 ~ 54 頁, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 2017 年 2 月).

③「インド考古調査局 150 年の歩み」(インド考古研究会 50 周年記念シンポジウム, 於: 東京大学東洋文化研究所, 2016 年 5 月 7 日).

③「インド考古調査局 150 年の歩みとカンナダ語刻文研究」(東洋大学・東洋学研究所研究発表例会, 於: 東洋大学白山キャンパス, 2017 年 1 月 7 日, [『東洋学研究』, 第 54 号, 253 ~ 254 頁, 東洋大学・東洋学研究所, 2017 年 3 月]).

石川 重雄

①「伝統中国における朝山進香：研究の現状と課題」(『四国遍路と世界の巡礼』, 第 2 号, 64 ~ 72 頁, 愛媛大学法文学部附属四国遍路・世界の巡礼研究センター, 2017 年 3 月).

③「伝統中国における朝山進香：研究の現状と課題」(愛媛大学法文学部附属四国遍路・世界の巡礼研究センター第 3 回公開研究会, 於: 愛媛大学法文学部大会議室, 2016 年 7 月 30 日).

石塚 晴通

①「高山寺本義天録と高山寺経蔵」(『東アジア佛教章疏と大覚国師義天の諸宗教蔵』, 195 ~ 213 頁, 高麗大蔵経研究所, 2017 年 1 月).

①「訓点解題」(古典研究会叢書『論語集解(一)』(小助川貞次), 左 1 ~ 57 頁, 汲古書院, 2017 年 3 月).

②『漢字字体史研究 二 字体と漢字情報』(勉誠出版, 2016 年, 440 頁, [監修]).

③「Codicology より見た訓点資料（二）：東洋文庫本を中心として」（第115回訓点語学会，於：東京大学山上会館，2016年11月13日）。

③「料紙の質と典籍の位相：中国及び日本の写本・版本を例として」（東洋文庫アジア資料科学研究シリーズ 2016年度「モリソンコレクション将来100周年記念：紙料調査の意義と課題：コディコロジーの未来をみつめて：「紙」・「印刷」・「出版」を科学する」，於：（公財）東洋文庫，2017年1月28日，[*Modern Asian Studies Review*, Vol. 8, pp. 34-41, Tokyo: The Toyo Bunko, Mar. 2017]）。

### 石橋 崇雄

①「『御製人臣徹心録』：「好名論」・「營私論」・「徇利論」」（『国士館人文学』，第7号（通巻49号），75～93頁，国士館大学文学部，2017年3月）。

③「雍正帝『御製朋党論』考・序説：清代文献史料研究上の問題点を中心に」（満族史研究会第31回大会，於：神戸大学六甲台第2キャンパス・瀧川記念学術交流会館，2016年5月28日）。

### 井上 和人

①「唐長安城（隋大興城）形制規格復元試論」（『条里制・古代都市研究』，第32号，51～72頁，条里制・古代都市研究会，2017年3月）。

①「日本列島古代山城の軍略と王宮・都城」（『日本古代学』，9号，1～33頁，明治大学日本古代学研究所，2017年3月）。

③「日本列島の王宮・都城と中華帝国・朝鮮半島三国との関係性」（明治大学・中国社会科学院・北京大学学術研究会，於：中国社会科学院近代史研究所（北京），2016年11月30日）。

③「古代山城の真実：鞠智城はなんのためにつくられたのか」（明治大学・熊本県教育委員会共催：鞠智城・東京シンポジウム，於：明治大学アカデミーホール，2017年1月28日）。

### 今西 祐一郎

②『死を想え：『九相詩』と『一休骸骨』』（平凡社，2016年，92頁）。

③「日本古典籍における画像データベースの効用」（2016年中国図書館年会，於：銅陵市体育中心体育場一層，2016年10月26日）。

上田 望

- ① 「魯迅の『藤野先生』を読む」(『グローバル時代の文学 (GS 科目 2C)』, 15～35 頁, 金沢大学人間社会研究域, 2016 年 4 月, [解説]).
- ① 「『梁山伯と祝英台』物語の文化空間」(西村聡編『言語文化の越境, 接触による変容と普遍性に関する比較研究』, 45～54 頁, 金沢大学人間社会学域人文学類, 2017 年 1 月).
- ③ 「なぜ中国文学史を学ぶのか?」(金沢大学人文学類公開研究会「文学史は誰のものか」, 於: 金沢大学, 2017 年 3 月 13 日).

内山 雅生

- ① 書評「座間紘一編著『変貌する中国農村: 湖北, 四川両省の「三農」問題と近代化』」(『中国研究所月報』, 70 卷 9 号 (823 号), 33～35 頁, 中国研究所, 2016 年 9 月).
- ③ 「従戦前戦中期的調査資料看日本人的華北農村研究」(華中師範大学農村研究学院, 於: 華中師範大学 (武漢), 2016 年 10 月 28 日).

梅村 坦

- ① 「日本の人文系分野における新疆現地調査研究 (1970 年代～) の回顧について (附 1: 小島康誉氏の訪問実績, 附 2: 華立氏「清代回民の新疆移住史をめぐる現地調査について」)」(『研究報告書 日本とユーラシア社会: 調査の現場から (中央大学政策文化総合研究所「日本とユーラシア社会: 海洋と大陸の歴史・文化」プロジェクト)』, 95～153 頁, 中央大学政策文化総合研究所, 2017 年 3 月).
- ③ 「シルクロードの成り立ち方: 天山ウイグル王国時代朝貢貿易の分析から」(国際交流基金主催『中央アジアシンポジウム「ひもとく, つなぐ～中央アジアの文化遺産～」』, 於: 国際文化会館岩崎小彌太記念ホール, 2016 年 6 月 22 日).

宇山 智彦

- ① 「頑健な権威主義体制の行方: ウズベキスタン・カリモフ大統領の死」(『世界』, 2016 年 11 月号, 29～32 頁, 岩波書店, 2016 年 10 月).
- ① “Восстание, рожденное в войне: влияние Первой мировой войны на катаклизм в Центральной Азии в международном контексте”, Туркестанское восстание 1916 г.: факты и интерпретации:

материалы Международной научной конференции С. 77–86, М.: ИРИ РАН, 2016.

① “Почему крупное восстание произошло только в Центральной Азии? Административно-институциональные предпосылки восстания 1916 года”, Международное научное совещание «Переосмысление восстания 1916 года в Центральной Азии»: сборник статей, С. 104–112, Бишкек: Нео Принт, 2017.

江川 ひかり

① “Cemeteries and gravestones of nomads in their sedentarization process: Focusing on the Yağcı Bedir group in North-western Anatolia during the nineteenth and early twentieth centuries”, György Hazai ed., *Archivum Ottomanicum*, 33, pp. 107-118, Wiesbaden: Harrassowitz Verlag, Oct. 2016.

① 「西北アナトリア，バルケスイルにおける毛織物製造史序説：遊牧民の経済活動に注視して」(『駿台史学』，第160号，149～177頁，明治大学文学部駿台史学会，2017年3月)。

③ 「19世紀末20世紀初頭イスタンブール都市社会の変容：オスマン演劇ポスターを読み解く」(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所主催／地域研究コンソーシアム協賛「平成28年度 中東☆イスラーム教育セミナー (第12回)」，於：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所，2016年9月19日)。

③ “The Economic Activities of the Nomads as the Spinner: from the point of the production of the carpet and the Aba (wool textile) in Bahkesir”, in the *CIÉPO – 22*, Karadeniz Teknik Üniversitesi, Karadeniz Teknik Üniversitesi, Trabzon, Turkey, 5 Oct. 2016.

③ “Japonya’da Osmanlı Tarihi Araştırmaları”, İstanbul Aydın Üniversitesi, İstanbul Aydın Üniversitesi, İstanbul, Turkey, 21 Mar. 2017.

江南 和幸

③ “Chinese Paper used for European Books published in the 16th to 18th centuries”, International Association of Paper Historians, The 33rd Congress, 〈OKADA Yoshihiro, ISHIZUKA Harumichi, XU Xiaojie, SHINOZAKI Yoko, YAMAMURA Yoshiteru〉, Universitat de València, Va-

lencia, Spain, 23 Sep. 2016, 〈BR〉).

③ Characteristics of Korean Print Books, International Association of Paper Historians, The 33rd Congress, 〈KIM Heakyong, OKADA Yoshihiro〉, Universitat de València, Valencia, Spain, 23 Sept. 2016.

③ 「ヨーロッパの人びとを魅了した日本の園芸：江戸の植物絵本と名所図会にその源を見る」 ((公財) 東洋文庫 2016 年度前期東洋学講座, 於: (公財) 東洋文庫, 2016 年 11 月 29 日, [『東洋学報』, 98-4, 43~45 頁, (公財) 東洋文庫, 2017 年 3 月]).

③ 「奈良絵本の彩色分析」 (ポーラ美術振興財団助成事業「国際シンポジウム 2016『絵入り本と日本文化』(絵入本ワークショップⅨ)」, 於: (公財) 東洋文庫, 2016 年 12 月 10 日, [『絵入本ワークショップ: 資料集』, 9, 6~18 頁, 実践女子大学文芸資料研究所, 2016 年 12 月]).

③ 「近世東西刊本に使われた用紙の比較研究 (Comparative Study of Paper used for Books published in Asia and Europe during the Premodern Era)」 (東洋文庫アジア資料学研究シリーズ 2016 年度「モリソンコレクション将来 100 周年記念: 紙料調査の意義と課題: コディコロジーの未来をみつめて: 「紙」・「印刷」・「出版」を科学する」, 於: (公財) 東洋文庫, 2017 年 1 月 28 日, [Modern Asian Studies Review, Vol. 8, pp. 41-45, Tokyo: The Toyo Bunko, Mar. 2017]).

#### 大河原 知樹

② 『オスマン民法典 (メジェッレ) の研究: 賃約編』 (〈堀井聡江, シャリーアと近代研究会〉, (公財) 東洋文庫現代イスラーム研究班, イスラーム地域研究資料室, 2017 年, 73 頁).

#### 大里 浩秋

① 「所内報から見る中研の活動状況 (3)」 (『中国研究月報』, 70 巻 5 号 (819 号), 36~49 頁, 中国研究所, 2016 年 5 月).

① 「光陰似箭 旧日本租界を訪ねて」 (『中国研究月報』, 70 巻 9 号 (823 号), 45~47 頁, 中国研究所, 2016 年 9 月).

① 「石川伍一日記を読む (一)」 (『人文研究』, 第 191 号, 39~59 頁, 神奈川大学人文学会, 2017 年 3 月).

① 「宗方小太郎日記, 大正 7~8 年」 (『人文学研究所報』, No. 57, 53~104 頁, 神奈川大学人文学研究所, 2017 年 3 月.).

- ③「租界史研究における非文字資料利用の意味」(神奈川県立非文字資料センター・台湾大学共催 シンポジウム「歴史研究と非文字資料研究の対話(2):日本と台湾を事例に」, 53~104頁, 於:神奈川県立大学, 2017年3月4日).

#### 大澤 肇

- ①「ハーバードの中国研究」(『アリーナ』, 19号, 393~399頁, 中部大学, 2016年12月).
- ①「現代中国における大学と政治権力」(『史潮』, 新80号, 68~92頁, 歴史学会, 2016年12月).
- ①「初等教育の普及と「戦後」中国社会」(『中国21』, Vol. 45, 43~62頁, 愛知大学現代中国学会, 2017年2月).
- ②『現代中国の起源を探る:史料ハンドブック』(中村元哉, 久保亨), 東方書店, 2016年, 237頁).
- ②『変容する中華世界の教育とアイデンティティ』(国際書院, 2017年, 306頁).

#### 大澤 正昭

- ①『農言著実』試積:現地調査を踏まえて」(『上智史学』, 村上陽子, 大川裕子), 61号, 85~117頁, 上智大学史学会, 2016年11月).
- ①「明清時代の二つの農書:中国の食糧問題を考えるために」(『2016年度大学研究助成 アジア歴史研究報告書』, 村上陽子, 大川裕子), 67~93頁, JFE21世紀財団, 2017年3月).
- ②『新刻天下四民便覧三台万用正宗』卷八下層所収『鳴情均化録』未収録条文訳注((公財)東洋文庫研究部ホームページ, (公財)東洋文庫研究部, 2017年, 54頁).
- ②『新刻天下四民便覧三台万用正宗』卷八(下層)律例門訳注稿((公財)東洋文庫研究部ホームページ, (公財)東洋文庫, 2017年, 78頁).

#### 太田 啓子

- ③“Coffee as a Global Beverage before 1700”, in Workshop “Globalization and Coffee in Asia: Three aspects towards Global History”, Hosei University, Tokyo, Japan, 11 Oct. 2016.
- ③“The Meccan Scholars from the 14th to the 16th Century: The Case

of the Banū Fahd Family”, in “German-Japanese Workshop on Mamlukology,” supported by Grants-in-Aid for Scientific Research (B) “International Joint Study of the Waqf from a Comparative Viewpoint” by Japan Society for the Promotion of Science (JSPS KAKENHI Grant Number 25284141, headed by Miura Toru, 2013–2017), Toyo Bunko, Tokyo, Japan, 6 Nov. 2016.

#### 大谷 俊太

- ②『京都女子大学図書館蔵 谷山文庫目録（書名索引）』（〈京都女子大学図書館〉，京都女子大学図書館，2016年，233頁）。
- ②『小沢蘆庵自筆 六帖詠藻：本文と研究（研究叢書486）』（〈蘆庵文庫研究会〉，和泉書院，2017年，777頁）。
- ③「宗養・紹巴と近衛前久：近衛家の歌学と連歌」（俳文学会大会，於：日本女子大学，2016年10月30日，[『連歌俳諧研究』，132号，41頁，俳文学会，2017年3月]）。
- ③「三藐院近衛信尹筆渡唐天神像について」（日本近世文学会秋季大会，於：信州大学，2016年11月12日，[『近世文芸』，105号，48頁，日本近世文学会，2017年1月]）。

#### 岡崎 礼奈

- ②『もっと知ろうよ！儒教』（（公財）東洋文庫，2016年，28頁，[項目執筆：「儒教の世界観にふれる」，「儒教と社会」，6，15]）。
- ②『本のなかの江戸美術展』（（公財）東洋文庫，2016年，28頁，[項目執筆：2～5，8，10上，12，13，15，16，18，19上，21～23]）。
- ②『ロマノフ王朝展』（（公財）東洋文庫，2017年，36頁，[項目執筆：1，2，3，10，12，13，15，16，17，19，21]）。

#### 岡田 英弘

- ①「『岡田英弘著作集』（全八巻）「完結」に際して思うこと」（『機』，No. 291，6～9頁，藤原書店，2016年6月）。
- ②『岡田英弘著作集Ⅷ 世界的ユーラシア研究の六十年』（藤原書店，2016年，687頁）。
- ②『從蒙古到大清 遊牧帝國的崛起與承續』（台湾商務印書館，2016年，495頁，[訳：陳心慧・羅盛吉，繁体字訳]）。

- ②『日本史的誕生 東亞視野下的日本建國史』（台北：八旗文化出版，2016年，335頁，〔訳：陳心慧，繁体字訳〕）。
- ②『モンゴルから世界史を問い直す』（藤原書店，2017年，371頁）。

#### 岡野 誠

- ①「唐代“守法”一例：關於《衛禁律》闖入非御在所条」（楊一凡・寺田浩明主編，岡野誠編『日本学者中国法制史論著選 魏晉隋唐卷』，〈程維榮訳〉，320～338頁，中華書局，2016年4月）。
- ①「唐代の平闕式についての一考察（下）：敦煌写本「唐天宝職官表」の検討を通して」（『法律論叢』，89巻1号，376（1）～318（59）頁，明治大学法律研究所，2016年7月）。
- ①書評「新見まどか著「唐武宗期における劉稹の乱と藩鎮体制の変容」（『法制史研究』，66号，法制史学会，2017年3月）。
- ①「『法史学研究会会報』第20号の刊行に寄せて」（『法史学研究会会報』，20号，法史学研究会，2017年3月）。

#### 岡本 隆司

- ①「新疆と「朝貢」と「保護」：清末対外秩序の一転換」（村上衛編『近現代中国における社会経済制度の再編』，221～239頁，京都大学人文科学研究所附属現代中国研究センター，2016年9月）。
- ①「「東アジア」と「ユーラシア」：「近世」「近代」の研究史をめぐって」（『歴史評論』，799，37～46頁，歴史科学協議会，2016年11月）。
- ②『中国の論理：歴史から解き明かす』（中央公論新社，2016年，249頁）。
- ②『中国の誕生：東アジアの近代外交と国家形成』（名古屋大学出版会，2017年，562頁）。
- ②『清朝の興亡と中華のゆくえ：朝鮮出兵から日露戦争へ』，講談社，2017年，300頁）。

#### 小川 快之

- ①書評「三木聰『伝統中国と福建社会』（『中国研究月報』，70巻7号（821号），12～14頁，中国研究所，2016年7月）。
- ①書評「青木敦『宋代民事法の世界』（『歴史学研究』，952，39～41頁，歴史学研究会，2016年12月）。



奥村 哲

- ① 「文化大革命の起源に関する覚書」(『研究中国』, 第2号, 4～19頁, 日本中国友好協会『研究中国』刊行委員会, 2016年4月).

尾崎 文昭

- ① 「(座談会記録) 先学を語る：丸山昇先生」(『東方学』, 〈竹田晃・佐治俊彦・藤井省三・長堀祐造・及川淳子〉, 133, 96～136頁, 東方学会, 2017年1月).

小田 壽典

- ① “Additional Notes to Varyoki (Paryoki) Sudur”, Osman Fikri Sertkaya, Süer Eker, Hatice Şirin, Erdem Uçar eds., *Prof. Dr. Talat Tekin Hatıra Kitabı*, pp. 725-729, İstanbul: Anka Matbaa, 2017, [ISBN 978-605-9574-05-1, ULUSLARARASI TURK AKADEMISI].

小名 康之

- ① 「アウラングゼーブ時代後半のムガル帝国内の商品税について」(『青山史学』, 第35号, 1～15頁, 青山学院大学文学部史学科研究室, 2017年2月).

小沼 孝博

- ① 「中央アジア・オアシスにおける政治権力と隊商交易：清朝征服前後のカシュガリアを事例に」(『東洋史研究』, 第75巻第1号, 204～171頁, 東洋史研究会, 2016年6月).
- ② 「瓜州トルファン人社会(1733-1756)：清の領域拡大の最前線」(『西南アジア研究』, 第85巻, 18～39頁, 西南アジア研究会, 2016年9月).
- ③ “The 1795 Khoqand Mission and Its Negotiations with the Qing: Political and Diplomatic Space of Qing Kashgaria”, Ildikó Bellér-Hann, Birgit N. Schlyter, and Jun Sugawara (eds.), *Kashgar Revisited: Uyghur Studies in Memory of Ambassador Gunnar Jarring*, (Leiden: Brill Academic Pub.), *Kashgar Revisited: Uyghur Studies in Memory of Ambassador Gunnar Jarring*, pp. 91-115 Leiden: Brill, Nov. 2016.
- ④ “The Turfanis Community in Guazhou (1733-1756) : Immigration and Reclamation during the Process of Qing Expansion”, “Empires of

Water: Water Management and Politics in the Arid Regions of China, Central Eurasia and the Middle East (16th-20th centuries)", Lingnan University & University of Hong Kong, 26 May 2016, <BR>.

③「清の統治と新疆ムスリム社会：研究の傾向と課題」（中国ムスリム研究会 15 周年記念シンポジウム「日本における新疆・ウイグル研究の過去・現在・未来」，於：（公財）東洋文庫，2017 年 3 月 4 日）。

#### 梶谷 懐

① "Spatial analysis of competition among local governments and the price of land: the case of Zhejiang Province", *Journal of Chinese Economic and Business Studies* (online published), <Daisuke Fujii>, Vol. 14, pp. 229-243, The Chinese Economic Association, Sep. 2016.

①「中国の金融政策と人民元国際化」（『国民経済雑誌』，第 214 巻第 4 号，33～49 頁，神戸大学経済経営学会，2016 年 10 月）。

②『日本と中国経済：相互交流と衝突の 100 年（ちくま新書 1223）』（筑摩書房，2016 年，301 頁）。

③「中国社会と自生的秩序：リスクと仲介の視点から」（日本現代中国学会全国大会，於：慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス，2016 年 10 月 28 日）。

#### 糟谷 憲一

①「閔氏政権成立の歴史的背景」（『朝鮮史研究会論文集』，第 54 集，5～32 頁，朝鮮史研究会，2016 年 10 月）。

②『朝鮮現代史』（<並木真人，林雄介>，山川出版社，2016 年，414+40 頁，〔「朝鮮の地理と前近代の歴史」，Ⅰ，Ⅱ，Ⅲなどを分担〕）。

#### 片桐 一男

②『勝海舟の蘭学と海軍伝習』（勉誠出版，2016 年，240 頁）。

#### 片山 剛

②『近代東アジア土地調査事業研究』（大阪大学出版会，2017 年 2 月，446 頁）。

③「農民対“田”（単宗耕地）的所有 村莊対“lang”（小地名）の管轄：以土改前夕広東省高要県金東围為主」（大阪大学大学院文化研究科・文学部海外講演，於：台湾大学歴史学系，2017 年 3 月 17 日）。

加藤 恵美

- ①書評「移動する中国朝鮮族のアイデンティティ：東アジアの人びとの共生に向けて」(『アジア太平洋研究』, No. 41, 179～187頁, 成蹊大学, 2017年, [趙貴花『移動する人びとの教育と言語：中国朝鮮族に関するエスノグラフィー』(三元社, 2016年)の書評]).
- ①「国際文化学としてのヒトの国際移動研究」(『インターカルチュラル』, 15号, 151～161頁, 日本国際文化学会, 2017年3月, [研究ノート]).
- ③「国際文化学としての人の国際移動研究：日本社会の多文化共生から考える」(日本国際文化学会第15回全国大会, 於：早稲田大学, 2016年7月17日, [共通論題(「国際文化学を問い直す：国際関係論の観点から」発表)).
- ③「震災と多文化共生：東北朝鮮学校の経験」, 第89回日本社会学会大会, 於：九州大学伊都キャンパス, 2016年10月9日).

金沢 陽

- ①書評「森達也著『中国青瓷の研究：編年と流通』」(『社会経済史学』, Vol. 82, No. 3, 142～144頁, 社会経済史学会, 2016年11月).
- ①「宋・元時代東アジアの沈没船搭載陶磁器と航路」(佐々木達夫編『中近世陶磁器の考古学』, 第5巻, 231～257頁, 雄山閣, 2017年3月).
- ③「明代隆慶官窯の焼造命令と伝世品の符合について」(東洋陶磁学会第4回研究会, 於：青山学院大学, 2017年3月18日).

金丸 裕一

- ①「賀川豊彦の中国：語られ方／語り方」(『キリスト教文化』, 通巻7号, 39～54頁, かんよう出版, 2016年5月).
- ①「賀川豊彦関係中国語文献目録(初稿)：1920年～1949年」(『立命館経済学』, 第65巻第1号, 93～119頁, 立命館大学経済学会, 2016年8月).
- ①「矢内原忠雄と『帝国主義下の台湾』」(赤松美和子・若松大佑編『台湾を知るための60章』, 6～9頁, 明石書店, 2016年8月).
- ①「中国における賀川豊彦評価をめぐって：1920年から1949年の事例研究」(『立命館経済学』, 第65巻第6号, 189～208頁, 立命館大学経済学会, 2017年3月).
- ③「賀川豊彦在中国」(中原大学基督教与華人文化社会研究中心「歴史系

列演講 29」, 於: 中原大学基督教与華人文化社会研究中心, 2017 年 3 月 29 日).

#### 川合 安

- ① 「『貞観氏族志』における皇族の等級」(『史朋』, 第 49 号, 1~15 頁, 北海道大学東洋史談話会, 2016 年 12 月).
- ② 「『宋書』孝義・郭世道父子伝について」(東北史学会 2016 年度大会, 於: 秋田大学, 2016 年 10 月 2 日).
- ③ 「日本の六朝隋唐貴族制説: 以唐代皇族的等級問題为中心」(中国古代史研究所“求实”講座系列, 於: 浙江大学, 2016 年 12 月 16 日).

#### 川島 真

- ② 『21 世紀の「中華」: 習近平中国と東アジア』(中央公論新社, 2016 年, 344 頁).
- ② 『中国のフロンティア: 揺れ動く境界から考える (岩波新書 1652)』(岩波書店, 2017 年 3 月, 240 頁).
- ③ “Images of World Order in Modern China: From the Late Empire to the Nanjing Government”, ACS, at. St. Petersburg University, St. Petersburg, Russia, 26 Aug. 2016.
- ③ “Rethinking Wang Jingwei Puppet Regime’s Value to Japan: the Case of Overseas Chinese Remittance to Occupied South China”, Reassessing Chinese Collaborationist Regimes under Japanese Wartime Occupation, 1938-1945 (AAS Annual Conference 2017, at Sheraton Centre Toronto, Toronto, Canada, 19 Mar. 2017).

#### 貴志 俊彦

- ① 「1970 年代東アジアにおける広帯域通信ネットワークの形成: 沖縄-台湾間海底ケーブルの建設を契機として」(村上衛編『近現代中国における社会経済制度の再編』, 429~467 頁, 京都大学人文科学研究所附属現代中国研究センター, 2016 年 9 月).
- ① 「東アジア: 相関する地域・交錯する地域像」(羽田正編『地域史と世界史』, 40~62 頁, ミネルヴァ書房, 2016 年 10 月).
- ② 『京都大学人文科学研究所所蔵 華北交通写真資料集成 (論考篇・写真編)』(〈白山真理編〉, 全 2 卷, 国書刊行会, 2016 年, 780 頁).

- ③ “The Yenching Library Manchurian Materials in Global Perspective”, Harvard Yenching Library New Holdings in Manchukuo History: Needs and Opportunities, Harvard University (Cambridge, MA, USA), 19 May 2016.
- ③ “Suggestion from the Manchurian history studies in Japan”, International Workshop “Northeast-Asia from the 19th Century to the Present”, University of Bonn (Bonn, Germany), 15 Oct. 2016, [招待講演].

岸本 美緒

- ① 「土地市場与“找価回贖”問題：宋代至清代的長期動向」（楊一凡・寺田浩明主編『日本学者中国法制史論著選 宋遼金元卷』, 449～479 頁, 中華書局, 2016 年 4 月）.
- ① 「清代中期中国的貨幣使用情況：以東南諸省為中心」（陳慈玉主編『承先啓後：王業鍵 院士紀念論文集』, 195～222 頁, 万卷樓圖書股份有限公司, 2016 年 11 月）.
- ① 「近代東アジアの歴史叙述における『正史』」（『史苑』, 77 卷 1 号, 108～120 頁, 立教大学史学会, 2016 年 12 月）.
- ① 「清代的經濟蕭条和市場結構：以康熙年間和道光年間的比較為中心」（王玉茹他編『經濟發展与市場變遷：吳承明先生百年誕辰紀念文集』, 89～113 頁, 南開大学出版社, 2016 年 12 月）.
- ① 「マシュー・H・ソマー著『清朝中国における一妻多夫と売妻：生存戦略と司法的干渉』」（『東洋学報』, 98-4, 33～40 頁, (公財) 東洋文庫, 2017 年 3 月）.

橘堂 晃一

- ① 「ベゼクリク供養比丘図再考：敦煌莫高窟銘文を手がかりとして」（宮治昭編『ガンダーラ～東西トルキスタン（アジア仏教美術論集 中央アジア I）』, 523～550 頁, 中央公論美術出版社, 2017 年 2 月）.
- ① 「大谷探検隊将来ウイグル文『大乘入道次第』残葉」（入澤崇・橘堂晃一編『大谷探検隊収集西域胡語文献論叢：仏教・マニ教・景教（龍谷大学西域研究叢書 6）』, 87～104 頁, 龍谷大学仏教文化研究所, 2017 年 3 月）.
- ① “New Light on the Huayang jing in Old Uighur from the Krotkov Collection and Yoshikawa Photograph”, T. Irisawa and K. Kitsudo (eds.) 『大谷探検隊収集西域胡語文献論叢：仏教・マニ教・景教（龍谷大学西域

- 研究叢書 6)], 105~154 頁, 龍谷大学仏教文化研究所, 2017 年 3 月).
- ②『大谷探検隊収集西域胡語文献論叢: 仏教・マニ教・景教 (龍谷大学西域研究叢書 6)』(〈入澤崇〉, 龍谷大学仏教文化研究所, 2017 年, iv + 211 頁).
- ③「ウイグル文「金剛經纂」の研究: 西夏文との比較を中心に」(中國中世寫本研究 2016 夏期大会, 於: 京都大学人文科学研究所北白川分館, 2016 年 8 月 6 日).

### 金 鳳珍

- ①書評「朴忠錫著, 飯田泰三監修, 井上厚史・石田徹訳『韓国政治思想史』」(『図書新聞』, 第 3290 号, 3 頁, 図書新聞, 2017 年 2 月 11 日).
- ②『조선왕조의 공공성 담론 (朝鮮王朝公共性談論)』, (〈정순우, 김태창, 정운재, 박현모, 가타오카 류, 고희탁, 야규 마코토〉), 韓國学中央研究院出版部, 2016 年, 201 頁).
- ②『한국과 일본의 공공의식 비교 연구 (韓國と日本の公共意識の比較研究)』(〈김태창, 가타오카 류, 야규 마코토, 정운재, 박현모, 고희탁〉), 韓國学中央研究院出版部, 2016 年, 202 頁).
- ②『사행의 국제정치: 16~19 세기 조천·연행록 분석 (使行의 國際政治: 16~19 世紀의 朝天·燕行錄의 分析)』(〈거자오광, 권민주, 김성배, 김수암, 김준석, 김현철, 쑤웨이귀, 이현미, 전재성, 정연, 하영선〉), 高麗大学亜細亞問題研究所, 2016 年, 420 頁).
- ③「『朝鮮 = 属国, 属邦』論考」(台湾中央研究院學術研討會, 於: 台湾中央研究院, 2016 年 12 月 9 日).

### 久保 亨

- ①「蘇俄在戰時中国: 重慶国民政府經濟專家眼中的蘇聯經濟」(黄自進編『国共關係与中日戰爭』, 89~109 頁, 稻郷出版社, 2016 年 6 月).
- ②『統計でみる中国近現代經濟史』(〈加島潤, 木越義則〉, 東京大学出版会, 2016 年, 204 頁).
- ②『現代中国の起源を探る: 史料ハンドブック』(〈中村元哉, 大澤肇〉, 東方書店, 2016 年, 221 頁).
- ③「金融地域結構的變動和日中關係」(「埠際往来与互動視野下的上海金融業」國際研討會, 於: 復旦大学 (上海), 2016 年 10 月 21 日).

窪添 慶文

- ①「日本における長沙呉簡研究」(平成25年度～平成28年度科学研究費補助金 基盤研究(A)一般, 研究成果報告書『新出簡牘資料による漢魏交替期の地域社会と地方行政システムに関する総合的研究』, 研究代表者: 關尾史郎, 71～84頁, 2017年3月).
- ③「北魏後期の門閥制: 起家官と姓族分定の検討」(共同シンポジウム「中国専制国家と官僚制: 『六典』的世界の形成と変容」, 於: 富山大学, 2016年11月).

黒田 卓

- ①“Closing Remarks in the International Symposium in Florence”, Ch. Craig, E. Fongaro & A. Ozaki, eds., *How to Learn? Nippon/Japan as Object, Nippon/Japan as Method*, pp. 321-323, Mimesis International: Roma, Mar. 2017.
- ③「王子ホスロー・ミールザー訪露謝罪使節団顛末序説」(中東表象研究会, 於: 東北大学国際文化研究科, 2016年5月25日).
- ③「王子ホスロー・ミールザー訪露謝罪使節団顛末序説(第二部)」(中東表象研究会, 於: 東北大学国際文化研究科, 2016年9月14日).
- ③「イラン系知識人の近代性認識と立憲革命」(現代イスラーム研究班第4回構造変動セミナー, 於: (公財) 東洋文庫, 2017年1月7日).

氣賀澤 保規

- ①「内藤湖南の歴史分期論及其現実意義」(『唐史論叢』, 第23輯, 143～160頁, 陝西師範大学, 2016年9月).
- ②『則天武后(講談社学術文庫)』(講談社, 2016年, 349頁).
- ②『雲南の歴史と文化とその風土』(勉誠出版, 2017年, 269頁+図版8頁).
- ②『新編唐代墓誌所在総合目録』(明治大学東アジア石刻文物研究所・汲古書院, 2017年, 560頁).
- ②『敦煌・吐魯番文書の世界とその時代(東洋文庫論叢第80)』(〈土肥義和〉, (公財) 東洋文庫, 2017年, ix+493頁).

巖 善平

- ①「中国城郷就業率的变化与決定要素」(『労働経済研究』, 第4巻第3期, 83～102頁, 中国社会科学院人口与労働経済研究所, 2016年6月).

①「中国における共産党員のプロフィールおよび党員身分の機能：1988-2002年」(『アジア経済』, 第57巻第2号, 2～34頁, 日本貿易振興機構アジア経済研究所, 2016年6月).

②「『新常态』の中国と改革の意味：『100年目標』へ避けられぬ構造転換」, 「人口問題, 少子高齢化への挑戦：カギ握る戸籍・定年制度改革の成否」(巖善平・湯浅健司・日本経済研究センター編『2020年に挑む中国：超大国のゆくえ』, 1～22, 109～127頁, 文眞堂, 2016年7月).

③「中国の格差」(『国際問題』, 2016年12月号, 36～46頁, 日本国際問題研究所, 2016年12月).

④「中国農村における労働力資源の利用状況と展望：中国所得分配調査2013に基づいて」(『統計』, 平成29年2月号, 21～26頁, 日本統計協会, 2017年2月).

#### 小杉 泰

①「グローバル化以降の世界」(『世界史のしおり』, 2016年度1学期号, 6～8頁, 帝国書院, 2016年4月).

②“Islamic Revival and the Majority Trend of Moderation: Personal Reflections on a Half-Century of Japanese Studies”, *Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies*, 10, pp. 1-18, Center for Islamic Area Studies at Kyoto University, Mar. 2017.

③「21世紀型イスラーム学の拡充と活用へ向けて：5項目の戦略的提言」(『イスラーム世界研究』, 10巻, 124～130頁, 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科附属イスラーム地域研究センター, 2017年3月).

④『イスラームを読む：クルアーンと生きるムスリムたち』(大修館書店, 2016年, 242+xiv頁).

⑤“Civilizational Islam and Global Hadhari Network: The Mission Statement”, International Symposium on Islam, Civilization and Science (ISICAS 2016), Kyoto University, 24 Oct. 2016.

#### 小浜 正子

①「中国農村計画生育の普及：圍繞生殖的技術与権力」(郭瑩・唐仕春主編『社会文化与近代中国社会转型』, 542～561頁, 中国社会科学出版社, 2016年7月).

②「序」(中国女性史研究会編『中国のメディア・表象とジェンダー』, 7



～15頁，研文出版，2016年9月）。

- ①「ジェンダー史：家族・動員・身体」（中村元哉・大澤肇・久保亨編『現代中国の起源を探る：史料ハンドブック』，149～158頁，東方書店，2016年10月）。
- ①「ある中国農村における計画出産の展開：湖南省B村の場合」（松岡悦子編『子どもを産む・家族をつくる人類学：オールターナティブへの誘い』，3～33頁，勉誠出版，2017年2月）。
- ②『現代中国のジェンダー・ポリティクス：格差・性売買・「慰安婦」』（秋山洋子），勉誠出版，2016年，247頁）。

小松 久男

- ②『テュルクを知るための61章（エリア・スタディーズ148）』（明石書店，2016年，384頁，〔執筆担当部分：3～6，262～266頁〕）。
- ② *Kazakhstan, Kyrgyzstan and Uzbekistan: Life and Politics during the Soviet Era*, 〈Timur Dadabaev〉, Palgrave Macmillan: New York, 2017, 147p.
- ③ “Yeni Kaynaklar Işığında Abdürreşid İbrahim Efendi ve Japonya”, Tokyo Cami ve Külliyesinin Kuruluşu'nun 80. Yılı Anısına IV. Uluslararası Abdürreşid İbrahim Sempozyumu, Ankara Üniversitesi, Türkiye, 7 Mar. 2017.

小南 一郎

- ①「竈神をめぐる習俗と信仰」（『説話・伝承学』，23，80～93頁，説話・伝承学会，2016年4月）。
- ①「《楚辞》的時間観念」（『復旦大学学报』，2016年第6期，72～79頁，復旦大学，2016年11月）。
- ①「『東京夢華録』と都人たち」（『孫昌武教授八十華誕紀念論文集』，1～17頁，百花文芸出版社，2016年11月）。
- ①「中国古代の王朝始祖神話：高禰儀礼との関係を中心に」（『泉屋博古館紀要』，32，27～54頁，泉屋博古館，2016年11月）。
- ①「中国近世の宗教文芸」（『國學院雑誌』，第117巻11号，158～172頁，國學院大學総合企画部，2016年11月）。

近藤 信彰

- ①「18世紀スインド地方におけるペルシア語文化と地方社会：詩人伝『詩

人たちの諸論攷』を中心に」(太田信宏編『前近代南アジア社会におけるままとまりとつながり』, 317～329頁, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 2017年2月).

① “Making a Persianate Society: Literati Migration to Mughal India”, *Crossing the Boundaries: Asians and Africans on the Move: Proceedings of the Papers Presented at Consortium for Asian and African Studies (CAAS) 7th International Conference*, pp. 67-73, Tokyo University of Foreign Studies 2017.

③ 「19世紀後半テヘランの宗教的少数派：シャリーア法廷記録より」(日本中東学会第32回年次大会, 於：慶應義塾大学三田キャンパス, 2016年5月15日).

③ “State and Shari’a in Early Modern Iran”, International Workshop “State and Shari’a in the Pre-20th Century Middle East.”, ILCAA, 18 Feb. 2017.

#### 佐々木 紳

① 「2015年の歴史学界：回顧と展望(西アジア・北アフリカ：近現代)」(『史学雑誌』, 125-5, 301～306頁, 史学会, 2016年5月).

① 書評「永田雄三・江川ひかり著『世紀末イスタンブールの演劇空間：比較都市社会史の視点から』」(『イスラム世界』, 86, 61～68頁, 日本イスラム協会, 2016年10月).

① 「トルコ近現代史のなかの立憲主義：歴史の復元ポイントとして」(歴史学研究会総合部会2017年例会, 於：立教大学, 2017年1月21日).

① 「近代トルコの諷刺と戯画」(成蹊大学文学部学会編『人文学の沃野』, 69～98頁, 風間書房, 2017年3月).

#### 佐藤 健太郎

① 「古文書から見る過去の都市空間：モロッコの古都フェスとその郊外」(田山忠行編『空間に遊ぶ：人文科学の空間論(北大文学研究科ライブラリ13)』, 53～86頁, 北海道大学出版会, 2016年6月).

#### 塩沢 裕仁

③ 「城壁・烽火台遺構よりみた潼関城址」(国際シンポジウム「前近代中国における交通路と関津の環境史学的研究」, 於：京都外国語大学, 2017

年1月8日).

設樂 國廣

- ②『ケマル・アタテュルク トルコ国民の父 (世界史リブレット人86)』(山川出版社, 2016年, 108頁).
- ③「アブデュルハミト二世」(創価大学人文学会講演, 於: 創価大学, 2016年6月16日).

薮 勇造

- ②訳註『エリュトララー海案内記 (東洋文庫870)』(第1巻, 平凡社, 2016年, 424頁).

篠木 由喜

- ②『もっと知ろうよ! 儒教』((公財) 東洋文庫, 2016年, 28頁, [項目執筆: 「儒教の最重要テキスト」, 12]).
- ②『本のなかの江戸美術展』((公財) 東洋文庫, 2016年, 28頁, [項目執筆: 6, 7, 9, 14, 17, 24~26]).

篠崎 陽子

- ③「16-18世紀のヨーロッパ刊本に用いられた中国の紙」(日本文化財科学会第33回大会, 〈江南和幸, 岡田至弘, 石塚晴道, 徐小潔, 山村義照〉, 於: 奈良大学, 2016年6月4~5日, [ポスター発表]).

斯波 義信

- ①「中国商業・華僑研究と社会学」(『日中社会学研究』, 第24号, 1~13頁, 日中社会学会, 2016年11月).
- ①『東方見聞録 (世界の記述)』(『東洋文庫善本叢書 第二期欧文貴重書2』, 163~176頁, 勉誠出版, 2016年12月, [解題]).

島田 竜登

- ①書評「金澤周作編『海のイギリス史: 闘争と共生の世界史』」(『西洋史学』, 261, 78~80頁, 日本西洋史学会, 2016年6月).
- ①「モノに問う歴史学: グローバル・ヒストリーの一つの方法」(『比較文明』, 第32号, 39~55頁, 比較文明学会, 2016年11月).

②『歴史に刻印されたメガシティ』（〈村松伸，籠谷直人〉，東京大学出版会，2016年，272頁）。

③「グローバル・ヒストリー研究におけるアフリカ」（日本アフリカ学会第53回学術大会，於：日本大学，2016年6月5日）。

③“American Shipping at Batavia from the Late Eighteenth Century to the Mid-Nineteenth Century”，Seventh International Congress of Maritime History Conference, Murdoch University, Perth, Australia, 30 June 16.

### 真道 洋子

①「エジプト，フスタート遺跡出土の施釉陶器：都市生活の中で使用された陶器」（佐々木達夫編『中近世陶磁器の考古学』，第4巻，253～275頁，雄山閣，2016年10月）。

③「ブハラ・オアシス，パイケンド遺跡出土のガラス器について」（第23回ヘレニズム～イスラーム考古学研究会，於：金沢大学，2016年7月2日）。

③「アンダルシア地域のガラスをめぐって」（フェニキア・カルタゴ研究会 第3回公開報告会，於：放送大学東京文教学習センター，2017年3月12日）。

### 徐 小潔

①「華僑・華人」（中国研究所編『中国年鑑2016』，106～107頁，明石書店，2016年6月）。

③「16-18世紀のヨーロッパ刊本に用いられた中国の紙」（日本文化財科学会第33回大会，〈江南和幸，岡田至弘，石塚晴道，篠崎陽子，山村義照〉，於：奈良大学，2016年6月4～5日，[ポスター発表]）。

### 杉山 清彦

①「中央ユーラシア世界：方法から地域へ」（羽田正編『地域史と世界史（MINERVA世界史叢書①）』，97～125頁，ミネルヴァ書房，2016年10月）。

①「[師事]なお遠くとも：私淑から親炙」（『岡田英弘著作集8 世界的ユーラシア研究の六十年 月報8』，4～6頁，藤原書店，2016年6月，[再録：岡田英弘編『モンゴルから世界史を問い直す』，351～354頁，藤原書店，2017年1月]）。

③「高校世界史教育の動向と中央ユーラシア史研究」（第53回日本アルタ

イ学会，於：長野県信濃町，2016年7月17日）。

③「清露接触下の東北ユーラシアと八旗制：軍事体制の展開と人の移動」（第60回ロシア史研究会年次大会パネルB「ロシア・ユーラシア世界と大西洋・太平洋世界における移動」，於：東北大学，2016年10月9日）。

#### 鈴木 恵美

①「フィールドから Photo Essay 政変後のエジプトの諸風景」（『ワセダアジアレビュー』，19号，4～7頁，明石書店，2016年11月）。

①「エジプトにおける急進派の連携と分裂」（山内昌之編『中東とISの地政学』，147～166頁，朝日新聞社，2017年2月）。

#### 鈴木 均

①「トランプ政権の発足とイラン・米国関係の今後」（『中東レビュー』，第4号，35～41頁，日本貿易振興機構アジア経済研究所，2017年3月）。

①「政治経済レポート総論：2016年の中東地域」（『中東レビュー』，第4号，2～4頁，日本貿易振興機構アジア経済研究所，2017年3月）。

①「叱られた事」（原隆一・南里浩子編『大野盛雄 フィールドワークの軌跡Ⅰ：50年の研究成果と背景』，31～32頁，大東文化大学東洋研究所，2017年3月）。

①「中東政治経済レポート：イランの地方社会とイラン人のトランプ観」（『中東レビュー』，第4号，12～14頁，日本貿易振興機構アジア経済研究所，2017年3月）。

②『尾崎三雄日記：アフガニスタン編（日本経済外交史プロジェクト・オーラル資料編別冊）』（日本貿易振興機構アジア経済研究所，2017年，253頁）。

#### 鈴木 立子

①「元雑劇に見る家族像」（中国女性史研究会編『中国メディア・表象とジェンダー』，17～52頁，研文出版，2016年9月）。

#### 砂山 幸雄

①「惲代英の「安那其主義」の特質とその歴史的意義」（『人民日報海外版・日本月刊（特刊「五・四運動と中国共産党の初期指導者：中国共産党創立95周年記念国際学術シンポジウム」）』，42～49頁，日本新華僑通信社，2016年6月）。

①「惲代英をめぐる最近の研究動向について」(『愛知大学国際問題研究所紀要』, 第149号, 33～52頁, 愛知大学, 2017年2月).

#### 妹尾 達彦

①「世界史の中の平泉」(『歴史評論』, 2016年7月号(795号), 57～69頁, 校倉書房, 2016年7月).

①「生前の空間, 死後の世界: 隋唐長安の官人居住地と埋葬地」(『中央大学文学部紀要 史学』, 第62号(通巻第266号), 69～134頁, 中央大学文学部, 2017年3月).

①「唐長安の都市核と進奏院: 進奏院状(P3547・S1156)をてがかりに」(土肥義和・氣賀澤保規編『敦煌・吐魯番文書の世界とその時代(東洋文庫論叢第80)』, 157～186頁+図版475～479頁, (公財)東洋文庫, 2017年3月).

②『特集都市史と環境史の交わる場(都市と環境の歴史学 第1集[増補版])』(中央大学文学部東洋史学研究室, 2016年, 口絵8頁+本文475頁).

③「中原水都: 隋唐洛陽城的社会構造与宗教空間」(国際シンポジウム「唐代仏教社会的諸問題」, 於: 浙江大学東亜宗教文化研究センター, 2017年3月11日).

#### 關尾 史郎

①「『貨簿』の周辺: 北涼時代の簿籍と税制」(土肥義和・氣賀澤保規編『敦煌・吐魯番文書の世界とその時代(東洋文庫論叢第80)』, 39～57頁, (公財)東洋文庫, 2017年3月).

③「出土史料からみた「教」」(韓国木簡学会特別講演会, 於: 東国大学校(ソウル), 2016年4月8日).

③「五胡時代西北地域之伝播与遷徙: 以出土資料做一試論」(陝西師範大学歴史文化学院・陝西歴史博物館主弁「考古与芸術 文本与歴史: 絲綢之路研究新視野国際學術研討会」, 於: 陝西師範大学, 2016年7月21, 22日).

③「長沙走馬楼出土吳簡所見臨湘地域社会的特質」, 故宫博物院・湖南省文化庁・長沙市人民政府主弁「紀念走馬楼三国吳簡發現二十周年長沙簡牘研究国際學術研討会」(於: 中国共産党湖南省委員会招待所, 2016年8月27, 28日).

③「從逸真讚看敦煌居民的本貫意識: 以張氏為中心」(中山大学歴史系主弁「紀念岑仲勉先生誕辰130周年国際學術研討会」, 於: 中山大学, 2016

年11月26, 27日).

高田 幸男

③「アジア留学生と明大文化」(明治大学リバティアカデミー「明治大学文化人論：明治がはぐくんだ文化」, 於：明治大学駿河台キャンパスリバティタワー, 2016年10月23日).

③「洪憲皇帝袁世凱」(明治大学リバティアカデミー「アジア史悪人列伝」, 於：明治大学駿河台キャンパスアカデミーコモン, 2016年11月22日).

③「中国近現代史研究における史料の最新状況」(駿台史学会シンポジウム「史料から広がる世界：文化を跨いで」, 於：明治大学駿河台キャンパス, 2016年12月10日).

高橋 英海

① “The Dunhuang Jingjiao Documents in Japan: A Report on Their Reappearance”, Li Tang & Dietmar W. Winkler (eds.), *Winds of Jingjiao: Studies on Syriac Christianity in China and Central Asia*, (Matteo Nicolini-Zani), pp. 15-26, LIT Verlag, 16 July 2016.

①「大谷探検隊将来資料中のシリア語断片」(入澤崇・橘堂晃一編『大谷探検隊収集西域胡語文献論叢：仏教・マニ教・景教(龍谷大学西域研究叢書6)』, 181～211頁, 龍谷大学仏教研究所西域研究会, 龍谷大学世界仏教文化研究センター, 2017年3月).

③ “Why and When to Write in Garshuni: Observations Based on Some Mainstream and Peripheral Cases”, “Allographic Traditions” among Arabic-Speaking Christians, Jews and Samaritans: Workshop on the Writing Systems of Garshuni, Judeo-Arabic and Samaritan Arabi, Institute for Advanced Study, Princeton, 10 June 2016.

③ “Notes on Prince George of the Önggüt and His Family in the Light of the Newly-Discovered Inscriptions at Ulaan Tolgoi and Some Chinese Sources”, 5th Salzburg International Conference: Syriac Christianity in China and Central Asia, Conference Hotel St. Virgil, Salzburg, 22 June 2016.

③ “The Syriac Marginal Notes in the Arabic Euclid Manuscript Chester Beatty Arabic 3035 and Some Related Matters”, XII Symposium Syriacum, Collegio Internazionale San Lorenzo da Brindisi, Rome, 19 Aug. 2016.

高松 洋一

① 「オスマン朝のハットゥ・ヒュマーユーン（宸筆）」（『歴史と地理（世界史の研究 249）』, 699, 26～33 頁, 山川出版社, 2016 年 11 月）.

瀧下 彩子

① 「支那」観光イメージの希求と発信」（貴志俊彦・白山真理編『京都大学人文科学研究所蔵 華北交通写真資料集成（論考編）』, 195～214 頁, 国書刊行会, 2016 年 11 月）.

① 「魯少飛漫画人生指南：戦後中国と漫画作家たち」（北海道大学連環画研究会編『連環画研究』, 6 号, 51～70 頁, 北海道大学連環画研究会, 2017 年 3 月）.

③ 「支那」観光イメージの希求と発信」（「華北交通写真資料シンポジウム」, 於：日本カメラ博物館（東京）, 2016 年 12 月 18 日, [日本学術振興会 科研費 25244027 助成事業, NIHU 現代中国地域研究東洋文庫拠点]).

武内 紹人

① Bookreview “András Róna-Tas : Tibeto-Mongolica Revisited. With a New Introduction and Selected Papers on Tibetan Linguistics. xxviii, 465 pp. Leiden and Boston: Global Oriental, 2014. ISBN 978 90 04 25118 2”, *Bulletin of the School of Oriental and African Studies*, Vol. 79, 3, pp. 675-677, Cambridge University Press, Oct. 2016.

① “Varieties of Tibetan Texts from Khara-khoto and Etsin-gol: An Introductory Remark”, In Orna Almogi (ed.), *Tibetan Manuscript and Xylograph Traditions The Written Word and Its Media within the Tibetan Culture Sphere*. INDIAN AND TIBETAN STUDIES, 4, 〈Maho Iuchi〉, pp. 321-346, Department of Indian and Tibetan Studies, Hamburg: Universität Hamburg, 2016.

③ “Formation of the Tibetan Civilization: Its relation with West Asia”, Workshop “Old Tibetan Studies V”. The 13th Seminar of the International Association of Tibetan Studies, Bergen, Norway, 20 June 2016.



武内 房司

- ①「大南公司与戦時期ベトナムの民族運動：仏領インドシナに生まれたアジア主義企業」(『東洋文化研究』, 19号, 31～72頁, 学習院大学東洋文化研究所, 2017年3月).
- ②“Archival Documents on DAINAN KOOSI or Modern Vietnam born Japanese Trading Company”, In the International Conference “Archival documents about Vietnam in modern and contemporary history-values and accessible possibilities”, The University of Social Science and Humanities, VNU-Hanoi and Aix Marseille University (France), University of Social Science and Humanities, Hanoi, Vietnam, 27 Oct. 2016.
- ③「従河口看近代中国：越南関係史」(国立仁川大学中国学術院主宰“環黄海地域の境界与移動”国際学術会議, 於：国立仁川大学, 2016年11月11日).

多田 狷介

- ①「歴史学会と私」(『史潮』, 新80号, 155～157頁, 歴史学会, 2016年12月).

立川 武蔵

- ①「人と神のあいだ：ブッディスト・セオロジーの試み(1)」(『春秋』, No. 584, 5～8頁, 春秋社, 2016年12月).
- ② *Mandala Deities in the Niṣpanṇayogāvalī*, (Makiko Ito, Takeshi Kameyama), Kathmandu, Nepal: Vajra Books, Apr. 2016, 146p.

田仲 一成

- ①「戯劇文学産生于孤魂祭祀之説」(中国古代戯曲学会編『中国戯劇史新論』, 3～41頁, 上海人民出版社, 2016年7月).
- ①「道教鎮魂儀式視野下の『封神演義』の一側面」(香港浸会大学張宏生主編『人民中国学報』, 第23期, 207～240頁, 上海古籍出版社, 2016年12月).
- ①「『中国農村祭祀関係視覚資料』所看到的旧中国農村社会結構：従農村田野調査所見の現象」(『新たなアジア研究に向けて』, Vol. 8, 18～30頁, (公財)東洋文庫, 2017年3月).
- ③「中国戯曲文学的美感：従元雜劇到潮劇」(韓山師範学院, 於：韓山師

範学院（潮州），2016年5月6日）。

③「目連戲の成立過程」（廈門大学中文系・歴史系，於：廈門大学（廈門），2016年5月10日）。

## 田中 仁

①「戦後七〇年と二一世紀の東アジア：「戦争の語り」と歴史認識」（秋田茂・桃木至朗編『グローバルヒストリーと戦争』，23～53頁，大阪大学出版会，2016年4月）。

①書評「深町英夫編『中国議会100年史：誰が誰を代表してきたのか』（『現代中国』，第90号，116～121頁，日本現代中国学会，2016年9月）。

①「中国共産党史」（中村元哉・久保亨・大澤肇編『現代中国の起源を探る：史料ハンドブック』，13～23頁，東方書店，2016年10月）。

②『大阪大学石濱文庫所蔵『フフ・トグ／青旗』（1941年）（OUFC BOOKLET, vol. 10-1）』（〈大阪大学中国文化フォーラム編〉，大阪大学中国文化フォーラム，2017年，iv+336頁）。

②『20世紀中国政治史文献案内（OUFC BOOKLET, vol. 11）』（〈NIHU 東洋文庫拠点・中国政治史研究班編〉，大阪大学中国文化フォーラム，2017年，64頁）。

## 田中 比呂志

①「村の歴史と個：ある無名の農民の半生（2）」（『東京学芸大学紀要（人文社会科学Ⅱ）』，68集，23～35頁，東京学芸大学，2017年1月）。

③「村の権力と宗教」（シンポジウム「近現代中国農村社会の特質と変容」，於：（公財）東洋文庫，2016年12月4日）。

## C. A. ダニエルズ

①「試論改土帰流後の土官：以雲南蒙化左氏土官為例」（洪涛主編，陳季軍副主編，付蓉・郝玉松『土司制度与土司文化新論』，228～242頁，中央民族大学出版社，2016年9月）。

①「雲南地域住民の天然資源保護・管理：一八世紀後半～一九世紀前半の元江流域・メコン河上流域を事例として」（水島司編『環境に挑む歴史学』，207～218頁，勉誠出版，2016年10月）。

①「土流兼治地区中の土官施政：以滇西蒙化府左氏土官為例」（『清史論叢』，総第32期，40～67頁，中国社会科学歴史研究所清史研究室，2016年12月）。

①「元代八百媳婦宣慰司使是否漢族」(『遵義師範学院学報』, 第19期, 15～19頁, 2017年2月).

③“Mongol-Yuan and Tai Polity-building in Northern Mainland South-east Asia: the Chinese Pacification Commissioner of the Lan Na Polity and the Rise of Mäng2 Maaw2 c. 1260 to c. 1350”, Historical Development of the Plains and Hills Bordering Southwest China and Southeast Asia Zomia Study Group Special International Workshop, 3rd floor in the Inamori Foundation, Kyoto University, 13 Jan. 2017.

P. ツィーメ

①“Altuigurisches Gold”, hrsg. von E. Mańczak-Wohlfeld und B. Podolak, *Words and Dictionaries. A Festschrift for Professor Stanislaw Stahowski on the Occasion of His 85th Birthday*, pp. 397-406, Kraków: Jagiellonian University Press, Apr. 2016.

塚原 東吾

①「ポスト・ノーマル・サイエンスの射程からみた武谷三男と廣重徹 科学者の社会的責任論のなかでの再定位」(『現代思想(特集=日本の物理学者たち)』, 2016年6月号(44巻12号), 172～191頁, 青土社, 2016年6月).

①「シーボルトは何をした人物なのか: 近年の歴史研究の最前線から」(『地理』, 2016年8月号(61巻8号), 4～14頁, 古今書院, 2016年7月).

②金森修・塚原東吾編著『科学技術をめぐる抗争(リーディングス 戦後日本の思想水脈 第2巻)』, 岩波書店, 2016年, 301+ix頁).

土田 哲夫

①「市古宙三先生と中央大学」, 「(自由討論) 報告レジュメ」(〈久保田文次〉, 東洋文庫近代中国研究班編『近代中国研究与市古宙三』, 26～32, 66～69頁, 汲古書院, 2016年6月).

①「抗戦時期的民間団体と国際関係: “世界と平和聯合”中国分会的事例研究」(郭瑩・唐仕春主編『社会文化与近代中国社会转型』, 277～298頁, 中国社会科学出版社, 2016年7月).

①「[台頭] 中国の国際イメージ」(滝田賢治編『21世紀国際政治の展望: 現状分析と予測』, 159～193頁, 中央大学出版部, 2017年3月).

- ①「カイロ会談と日本の対応」(『法学新報』, 123-7, 501～516頁, 中央大学法学会, 2017年1月).
- ②『近現代東アジアと日本: 交流・相剋・共同体』(中央大学出版部, 2016年, 365頁).

坪井 祐司

- ①「1930年代初頭の英領マラヤにおけるマレー人性をめぐる論争: ジャウイ新聞『マジュリス』の分析から」(東南アジア学会編『東南アジア: 歴史と文化』, 45, 5～24頁, 山川出版社, 2016年5月).
- ②『『カラム』の時代 VIII: マレー・ムスリムの越境するネットワーク (CIRAS Discussion Paper No.68)』(山本博之, 京都大学東南アジア地域研究研究所, 2017年, 77頁).
- ③“An alternative vision for Malayan decolonization from the perspective of Muslim intellectuals in Singapore”, International Workshop on Islam and Cultural Diversity in Southeast Asia, Kota Kinabalu, Malaysia, 28 Aug. 2016.
- ③“World View of Malay Muslim Intellectuals in Singapore”, Public Lecture Series “Age of Qalam”, Malay Heritage Centre, Singapore, 18 Feb. 2017.

寺田 浩明

- ②『日本学者中国法制史論著選 全四巻 (先秦秦漢巻・魏晉隋唐巻・宋遼金元巻・明清巻)』(楊一凡, 中華書局 (北京), 2016年, 各546頁・617頁・479頁・502頁).

土肥 祐子

- ②『宋代南海貿易史の研究』(汲古書院, 2017年, 755頁).

土肥 義和

- ①「唐代における均田法施行の史料雑抄」(土肥義和・氣賀澤保規編『敦煌・吐魯番文書の世界とその時代 (東洋文庫論叢第80)』, 115～121頁, (公財)東洋文庫, 2017年3月).
- ②『八世紀末期～十一世紀初期燉煌氏族人名集成: 索引篇』(汲古書院, 2016年, 544頁).

②『敦煌・吐魯番文書の世界とその時代（東洋文庫論叢第80）』（〈氣賀澤保規〉,（公財）東洋文庫, 2017年, ix + 493頁）.

富澤 芳亜

①「占領地の鉱業と華北交通」（貴志俊彦・白山真理編『京都大学人文科学研究所所蔵 華北交通写真資料集成（論考編）』, 87～105頁, 国書刊行会, 2016年11月）.

①「近代中国における工業教育と紡織技術者の養成」（『経済史研究』, 第20号, 47～96頁, 大阪経済大学日本経済史研究所, 2017年1月）.

①「同興紡織上海商務課長の回顧（下）：調虎雄氏（同興紡織）インタビュー」（〈桑原哲也〉, 『近代中国研究彙報』, 39号, 23～53頁,（公財）東洋文庫, 2017年3月）.

③「占領地の鉱工業と華北地方の交通事情」（「華北交通写真資料シンポジウム」, 於：日本カメラ博物館（東京）, 2016年12月18日, [日本学術振興会 科研費 25244027 助成事業, NIHU 現代中国地域研究東洋文庫拠点]）.

③「中国の繊維産業」（経済史シンポジウム「東アジア工業化に関する歴史的研究：中国と日本を中心に」, 於：京都大学経済学部, 2017年3月6日）.

中兼 和津次

①「「曖昧な制度」とその意味について再度考える：加藤弘之著『中国経済学入門』名古屋大学出版会, 2016年を読んで」（『中国経済経営研究』, 第1巻第1号, 4～16頁, 中国経済経営学会, 2017年3月）.

①書評「安達祐子著『現代ロシア経済：資源・国家・企業統治』」（『アジア経済』, 第58巻第1号, 102～107頁, アジア経済研究所, 2017年3月）.

中見 立夫

①「自由討論（中見立夫発言）」（東洋文庫近代中国研究班編『近代中国研究と市古宙三』, 53～57頁, 汲古書院, 2016年6月）.

①「구경과 한국의 만주어 문헌 연구의 요람」, 『알타이학보 **[Altai Hakpo / Journal of the Altaic Society of Korea]**』, no. 26, pp. 2-12, Altaic Society of Korea, 16 June 2016.

③“Орчин үеийн Монголын статистикийн материалыг онцлон анхаарах нь”, The Eleventh International Congress of Mongolists, Ulaanbaatar: The Japan Center, 16 Aug. 2016.

③座談会「G. E. モリソン（1862-1920）と近代東アジア：清末民国初の中国と世界」（〈斯波義信，濱下武志，平野健一郎〉，於：（公財）東洋文庫，2017年2月10日）。

③「『実録』と日本：近代日本皇室による『実録』編修，日本人東洋史学者による『実録』探究と影印事業」（AA 研フォーラム《退職所員記念講演》，於：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所，2017年3月9日）。

#### 中村 元哉

②『現代中国の起源を探る：史料ハンドブック』（〈大澤肇，久保亨〉，東方書店，2016年10月，223頁）。

#### 長沢 栄治

①「アラブ革命を振り返る：背景・展開・遺産」（『日本の科学者』，51，11，574～579頁，日本科学者会議，2016年11月）。

①“Henri Curiel: A Jewish Egyptian Dedicated to Peace and Socialism”, *Mediterranean Review*, Vol. 9. No. 1, pp. 77-96, Institute of Mediterranean Studies, 2016.

②『中東と日本の針路：「安保法制」がもたらすもの』（〈栗田禎子〉，大月書店，2016年，259頁）。

②「現代中東を読み解く：アラブ革命後の政治秩序とイスラーム」（〈後藤晃〉，明石書店，2016年，266頁）。

③“Pacifism for Japan and the Middle East”, Japan-Arab Academic Dialogue towards the Stability in the Middle East, The American University in Cairo, 22 Mar. 2017.

#### 永田 雄三

①文献紹介「三木亘『悪としての世界史（文春ライブラリー 歴史26）』，2016年」（『ニューズレター』，第29号，1～7頁，世界史研究所，2017年1月）。

#### 長縄 宣博

①「タタール人：ロシア人の身近な他者」「クリミア・タタール人：故郷の喪失から生まれた民族」「テュルクかタタールか：民族のかたちをめぐる政治」（小松久男編『テュルクを知るための61章（エリア・スタディー

ズ 148)』, 133～137, 138～142, 277～281 頁, 明石書店, 2016 年 8 月).

③ 「ソ連とイスラーム世界：ある革命家・外交官の軌跡から」(ソビエト史研究会(岩波ロシア革命論集研究会), 於：東京大学本郷キャンパス, 2016 年 4 月 24 日).

③ “A Conservative Adaptation to Modernity? ‘Abd Allāh al-Ma’ādhi Goes to Hajj in 1910”, at Central Eurasian Studies Society Regional Conference, Kazan Federal University, Kazan, Russian Federation, 2 June 2016.

③ 「ロシア連邦のイスラーム教徒の現状：調和と暴力の間で」(国際情勢研究所講演会, 於：国際情勢研究所, 2016 年 10 月 27 日).

③ 「クリミア・タタール人：その過去と現在」(スラブ・ユーラシア研究センター「第 19 回公開講演会」, 於：北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター, 2016 年 12 月 2 日).

#### 西 英昭

① 書評「林文凱「日治初期基隆土地糾紛事件的法律社會史分析(1898-1905)」(『東洋法制史研究会通信』, 第 29 号, 21～24 頁, 東洋法制史研究会, 2016 年 8 月).

① 「北洋政府期法典編纂機関の変遷について：法典編纂会・法律編査会・修訂法律館」(『法政研究』, 83 卷 3 号, 187～217 頁, 九州大学法政学会, 2016 年 12 月).

#### 西尾 寛治

① “Melaka: A Model of Malay Islamic States”, Karashima Noboru, and Hirosue Masashi (eds.), *State Formation and Social Integration in Pre-modern South and Southeast Asia: A Comparative Study of Asian Society* (Toyo Bunko Reseach Library 16), The Toyo Bunko, 2017.

#### 延廣 眞治

① 「「男はつらいよ」を江戸から見れば：第五作『望郷篇』の創作技法」(梁蕙嫻編『東アジアにおけるトランスナショナルな文化の伝播・交流：メディアを中心に』, 17～33 頁, 国立台湾大学出版中心, 2016 年 8 月, [『第四回日台アジア未来フォーラム：東アジアにおけるトランスナショナルな文化の伝播・交流：文学・思想・言語』, 2014 年 6 月 13 日に於ける報告]).

①「京伝、馬琴、種彦そして円朝：『妬湯仇討話』より「お藤松五郎」まで」(『文学』, 17 卷・第 6 号 (2016 年 11, 12 月号), 236～253 頁, 岩波書店, 2016 年 11 月).

#### 濱下 武志

①「海関洋員回顧録和第二代海関史研究」(『国家航海』, 第 16 輯, 200～210 頁, 上海中国航海博物館, 2016 年 8 月).

①“Statistics of Tributary Trade of Ryukyu (Loochoo) at Fuzhou in 1851”, (陳慈玉主編『承前啓後：王業鍵院士紀念論文集』, 267～290 頁, 万卷楼圖書股份有限公司, 2016 年 11 月).

①「近代亞洲貿易圈中の白銀流通：亞洲經濟史面貌的一個構想」(王玉茹, 吳柏均, 劉蘭兮 編《經濟發展与市場變遷：吳承明先生百年誕辰紀念文集》, 南開大学出版社, 2016 年 12 月).

①“Second-generation studies on the Chinese Maritime Customs (CMC): New Research on Miscellaneous Reports and records published by CMC”, *Asian Research Trends, New Series*, No. 11, pp. 59-95, The Toyo Bunko, 2016.

①総序「海関洋員的生活志与第二代海関史研究」(英, 瑪麗 蒂芬 (Mary Tiffen) 著, 戴寧・潘一寧訳『中国歲月：赫德爵士和他的紅顏知己, Friends of Sir Robert Hart, Three Generations of Carrall Women in China』, 広西師範大学出版社, 2017 年 2 月).

#### 林 俊雄

①“Fire-steels in Eastern and Western Eurasia”, *International Journal of Eurasian Studies*, N. S. 4, pp. 1-14, Beijing, 商務印書館, Oct. 2016.

①「欧亚草原游牧政權的出現与成熟」(余太山・李錦繡編『欧亚叢書』, 第二輯, 25～59 頁, 商務印書館, 2016 年 10 月).

①“The Importance of the Steppe Silk Road: Archaeological Findings of the Altai”, *The Eastern Silk Roads Story: 2015 Conference Proceedings*, pp. 63-72, Paris & Bangkok: UNESCO, 2016.

①「ユーラシア草原における遊牧国家の形成と展開」(平成 25 年度～28 年度科学研究費補助金 基盤研究 (B) 『ユーラシア古代遊牧社会形成の比較考古学』, 研究代表者：大沼克彦, 95～105 頁, 2017 年 1 月).

③“The Central Eurasian Steppes from the Archaeological Viewpoint”



(The 8th World Archaeology Congress, 於：同志社大学今出川キャンパス, 2016年8月28日～9月2日).

馬場 英子

- ①「留学生を交えた昔話の聞き取り・新潟県小国を訪ねて」(崔仁鶴・石井正巳編『国境を越える民俗学：日韓の対話によるアカデミズムの再構築』, 74～95頁, 三弥井書店, 2016年5月).
- ③民国時期的中国民俗学成就：活在艾伯華《中国民間故事類型》里的“鐘敬文和曹松葉”其一(第五届中国東海國際論壇, 於：浙江海洋大学(中国), 2016年10月22日).
- ③「中国の教科書と昔話」(東京学芸大学フォーラム「昔話の歴史と現代：教科書を中心に」, 於：東京学芸大学, 2016年11月19日).

平勢 隆郎

- ①「近代山本照像館写真の再検討」(『明日の東洋学』, 1～5頁, 東京大学東洋文化研究所附属東洋学研究情報センター, 2017年3月).
- ②『「仁」の原義と古代の数理：二十四史の「仁」評価「天理」観を基礎として(東京大学東洋文化研究所報告)』(雄山閣, 2016年, 556頁).
- ②『東洋文化研究所蔵山本照像館等撮影中国史跡写真目録』(〈宇都宮美生, 野久保雅嗣〉, 東京大学東洋文化研究所附属東洋学研究情報センター, 2017年, xvi+205頁).

平野 健一郎

- ①『重要文化財 ジョン・セーリス『日本渡航記』』(『東洋文庫善本叢書 第二期欧文貴重書3』, 147～158頁, 勉誠出版, 2016年12月28日, [解題]).
- ③「文化による紛争世界への対抗：カント『永遠平和の為に』を平戸から読み直す」(日本国際文化学会第15回全国大会公開シンポジウム「紛争と融和における文化の役割：国際関係史から学ぶ」, 於：早稲田大学, 2016年7月16日, [基調講演], [『インターカルチュラル』第15号〔特集1〕, 10～21頁, 日本国際文化学会, 2017年3月]).
- ③「国際文化関係史と長崎・平戸」(長崎大学多文化社会研究会主催「グローバル世界をつなぐ長崎・中国：記憶の共同体を目指して」講演会, 於：長崎大学, 2016年10月21日, [『多文化社会研究』第3号, 62～74頁, 長

崎大学多文化社会学部, 2017年3月)].

弘末 雅士

① “The Rise of Muslim Coastal States in North Sumatra: Coastal Rulers and Powers over Hinterland Fertility”, Karashima Noboru, and Hirotsue Masashi (eds.), *State Formation and Social Integration in Pre-modern South and Southeast Asia: A Comparative Study of Asian Society* (Toyo Bunko Research Library 17), pp. 263-284, The Toyo Bunko, 2017.

① 「国民国家における巡礼：インドネシア人と宗教」(『四国遍路と世界の巡礼』, 第2号, 73～78頁, 愛媛大学法文学部附属四国遍路・世界の巡礼研究センター, 2017年3月)。

② *State Formation and Social Integration in Pre-modern South and Southeast Asia: A Comparative Study of Asian Society* (Toyo Bunko Research Library 17), 〈KARASHIMA Noboru〉, The Toyo Bunko, 2017, xix + 343p.

③ 「インド洋海域史研究の現在：東南アジア史の観点から」(日本中東学会, 於：慶應義塾大学三田キャンパス, 2016年5月14日)。

深沢 眞二

① 「『秣負ふ』歌仙成立考」(『近世文学研究』, 新編第1号, 10～25頁, 文学史探究の会, 2016年12月)。

① 「『城西聯句』の諸本(上)」(『かがみ』, 第47号, 26～52頁, 大東急記念文庫, 2017年3月)。

藤本 幸夫

① 「日本古活字版と朝鮮及び西洋印刷術：アーネスト・サトウと新村出の所説を中心に」(『新村出記念財団設立三十五周年記念論文集』, 117～135頁, 臨川書店, 2016年5月)。

古屋 昭弘

① 「近30年『正字通』研究概況」(『早稲田大学大学院文学研究科紀要』第2分冊, 61, 121～134頁, 早稲田大学大学院文学研究科, 2016年4月)。

② 『クラウン中国語単語800』(〈和平〉, 三省堂, 2017年, 223頁)。

弁納 才一

- ① 「消え行く華東地域の農村：江蘇省無錫県の2ヶ村を例として」(『近代中国研究彙報』, 第39号, 1～22頁, (公財)東洋文庫, 2017年3月).
- ③ 「有関近現代中国農村経済発展的新型模式」(於：華中師範大学中国農村研究院(武漢), 2016年10月29日, [招待講演]).

寶劍 久俊

- ① 「発展途上国で契約農業はどのように普及しているか」(『アジア研ワールドトレンド』(連載：途上国研究の最前線 第11回), 2016年12月号(No. 254), 50～51頁, 2016年11月).
- ① “Public Policy and the Long-Term Trend in Inequality in Rural China, 1988-2013”, CIID (*China Institute for Income Distribution, Beijing Normal University*) *Working Paper*, <Hiroshi Sato>, No. 57, CIID (China Institute for Income Distribution, Beijing Normal University), Nov. 2016.
- ① “Development of Off-farm Employment and its Determinants in Rural China,”, *IDE Discussion Paper Series*, No. 633, pp. 1-22, Institute of Developing Economies Japan External Trade Organization (JETRO), Mar. 2017.
- ③ “Public Policy and the Long-Term Trend in Inequality in Rural China, 1988-2013”, 2017 Association for Asian Studies (AAS) Annual Conference, <Hiroshi Sato>, Toronto, Canada, 18 Mar. 2017.

細谷 良夫

- ① 「尚可喜・尚氏一族の旗地所有」(『日中韓周縁域の宗教文化Ⅲ』, 63～101頁, 東北学院大学アジア流域文化研究所, 2017年3月, <BR>).

堀井 聡江

- ① 「シャリーアにおける飲酒の是非：イスラーム的規範の多元性」(『宗教研究』, 第386号, 343～367頁, 日本宗教学会, 2016年9月).
- ② 『現代のイスラーム法』(〈孝忠延夫, 高見澤磨〉, 成文堂, 2016年, 274頁).
- ② 『オスマン民法典(メジェッレ)の研究：賃約編』(〈大河原知樹, シャリーアと近代研究会〉, (公財)東洋文庫現代イスラーム研究班, イスラーム地域研究資料室, 2017年, 73頁).

牧野 元紀

- ②『もっと知ろうよ！ 儒教』（（公財）東洋文庫，2016年，28頁，[項目執筆：「儒教の基本」，「儒教と他宗教・他思想」，「ベトナムの儒教」，19，20]）。
- ②『ロマノフ王朝展』（（公財）東洋文庫，2017年，36頁，[項目執筆：「ロマノフ王朝の幕開け」，「ピョートル大帝のロシアの東方進出」，「エカチェリーナ2世の時代」，「アレクサンドル1世の時代」，「ニコライ1世の時代」，「アレクサンドル2世の時代」，「アレクサンドル3世の時代」，「ニコライ2世の時代：ロマノフ王朝の終焉」，4，5，8，9，14，18]）。
- ③「ベトナムにおける近代的宗教概念の誕生：あるカトリック儒家の言説から」（日仏東洋学会2016年度シンポジウム，於：日仏会館（恵比寿），2017年3月26日）。

松井 太

- ①「大英図書館所蔵対訳語彙集断片 Or. 12380/3948 再考」（『東方学』，132，87～74頁，（財）東方学会，2016年7月）。
- ①「蒙元時代回鶻仏教徒和景教徒的網絡」（徐忠文・栄新江編『馬可・波羅 揚州 絲綢之路』，283～293頁，北京大学出版社，2016年9月）。
- ①“Uigur-Turkic Influence as Seen in the Qara-Qota Mongolian Documents”，N. N. Tenishev & J. N. Shen eds., *Actual Problems of Turkic Studies: Dedicated to the 180th Anniversary of the Department of Turkic Philology at the St. Petersburg State University*, pp. 559-564, St. Petersburg: St. Petersburg State University, Sep. 2016.
- ①「高昌故城寺院址 a のマニ教徒と仏教徒」（入澤崇・橘堂晃一編『大谷探検隊収集西域胡語文献論叢：仏教・マニ教・景教』，71～86頁，龍谷大学仏教文化研究所，2017年3月）。
- ①「トゥルファン＝ウイグル人社会の連保組織」（土肥義和・氣賀澤保規編『敦煌・吐魯番文書の世界とその時代（東洋文庫論叢第80）』，287～310頁，（公財）東洋文庫，2017年3月）。

松重 充浩

- ①「第一次世界大戦後の大連日本人社会における中国認識：総合雑誌『満蒙』を事例として」（田中仁編『21世紀の東アジアと歴史問題』，106～

122 頁，法律文化社，2017 年 3 月）。

③「今振り返る『引揚げ』の検証：満洲」（国際善隣協会主催（台湾協会共催，厚生労働省・東京都・NHK 後援）『引揚げ 70 周年記念の集い：満洲，樺太，朝鮮，台湾，於：銀座プロッサム中央会館，2016 年 10 月 20 日）。

③「『満洲評論』にみる華南」（（公財）東洋文庫中国近代中国研究班主催「戦前・戦中期における華中・華南調査と日本の中国認識」，於：（公財）東洋文庫，2016 年 12 月 17 日）。

#### 松永 泰行

①「イランの核合意・制裁解除：その意義，背景と余波」（歴史学研究会編『歴史学研究』，No. 948（2016 年 9 月号），17～21，54 頁，青木書店，2016 年 8 月）。

①“(Theological and Institutional Soul-searching Aside) Will Re-problematising Iran’s Islamic State à la ‘Religious Secularity’ Require Another Islamic State?”, *Journal of Religious and Political Practice*, Vol. 3, Nos. 1-2, pp. 84-87, Routledge, Mar. 2017, DOI: 10.1080/20566093.2017.1292173.

#### 松本 弘

①「イエメン・ホーシー派の展開」（酒井啓子編『途上国における軍・政治権力・市民社会：21 世紀の「新しい」政軍関係』，112～129 頁，晃洋書房，2016 年 4 月）。

①「イエメンにおける政治と部族」（『中東研究』，526，33～43 頁，中東調査会，2016 年 5 月）。

①「イエメン内戦の背景と特質」（『海外事情』，64（9），18～29 頁，拓殖大学海外事情研究所，2016 年 9 月）。

①「モロッコの多党制：その特質と要因」（『大東アジア学論集』，17，61～85 頁，大東文化大学大学院アジア地域研究科，2017 年 3 月）。

②『ムハンマド・アブドゥフ：イスラームの改革者（世界史リブレット人 84）』（山川出版社，2016 年 6 月，87 頁）。

#### 水野 善文

①「土井久彌先生訳『牛供養』題名寸考」（『インダス会報』，第 24 号，88～92 頁，インダス会，2016 年 11 月）。

①「人と世界：ヒンディー語」（東京外国語大学言語文化学部編『言葉か

ら社会を考える』, 22～24 頁, 白水社, 2016 年 12 月).

③「インドの金毘羅さん」(立正大学公開授業(比較思想論), 於: 立正大学大崎キャンパス, 2016 年 6 月 3 日).

③「世界を食べよう: インド料理: チャナークレー」(朝日カルチャーセンター, 於: 朝日カルチャーセンター・横浜教室, 2017 年 2 月 18 日).

### 三田 昌彦

①「教養教育としての「世界史」講義の試み」(『高大連携歴史教育研究会会報』, 298～103 頁, 高大連携歴史教育研究会, 2016 年 7 月).

①「パンチャクラとマハージャナ: 中世初期ラージャスターン・グジャラートの都市行政と集会組織」(太田信宏編『前近代南アジア社会におけるまとまりとつながり』, 55～95 頁, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 2017 年 2 月).

①“Sanskritized Imperialism and State Integration in Early Medieval North India (c. 950-1200)”, Karashima Noboru, and Hirose Masashi (eds.), *State Formation and Social Integration in Pre-modern South and South-east Asia: A Comparative Study of Asian Society* (Toyo Bunko Research Library 16), pp. 179-200, The Toyo Bunko, 2017.

### 宮脇 淳子

①「出版物紹介『満文老檔』」(『東洋見聞録』, 第 17 号, 4～5 頁, (公財) 東洋文庫, 2016 年 4 月).

①「文革は中華文明の産物である」(『歴史通』, 7 月号, 66～85 頁, ワック出版, 2016 年 7 月, [楊海英と対談]).

②『教科書で教えたかった中国近現代史』(柏艸舎, 2016 年, 281 頁).

②『日本人が教えたかった新しい世界史』(徳間書店, 2016 年, 245 頁).

②『どの教科書にも書かれていない日本人のための世界史』(KADOKAWA, 2017 年, 287 頁).

### 村井 章介

①「古琉球から世界史へ: 琉球はどこまで「日本」か」(羽田正編『地域史と世界史 (MINERVA 世界史叢書①)』, 13～39 頁, ミネルヴァ書房, 2016 年 10 月).

②『分裂から天下統一へ (シリーズ日本中世史 4)』(岩波書店, 2016 年,

260 頁).

③「石見銀山からみたアジア, そして世界」石見銀山シンポジウム「世界を変えた日本銀」(於: ニッショーホール, 2017年3月25日, [基調講演]).

村上 衛

①「清末西江の「海賊」:「緝捕権」問題と貿易・航運」(『史林』, 100-1, 106~140頁, 史学研究会, 2017年1月).

①“The Rise and Fall of the Chinese Pirates: From Initiators to Obstructors of Maritime Trade, 1500–1800”, Christian Buchet and Gérard Le Bouëdec eds., *The Sea in History: The Early Modern World*, pp. 809-824, Woodbridge: Boydell Press, Feb. 2017.

②『近現代中国における社会経済制度の再編』(京都大学人文科学研究所附属現代中国センター, 2016年, 477頁).

②『名著で読む世界史120』(〈池田嘉郎, 上野慎也, 森本一夫〉, 山川出版社, 2016年, 365頁).

③「海洋史上的近代中国」(城市史研究群学術演講, 於: 中央研究院近代史研究所(台北), 2016年8月19日).

村田 雄二郎

①“The Late Qing ‘national language’ issue and monolingual systems: Focusing on political diplomacy”, *Chinese Studies in History*, Volume 49, Issue 3, pp. 108-125, Taylor & Francis, Inc, May 2016.

②『敵か友か 1925-1936 (日中の120年 文芸・評論作品選②)』(〈張競編〉, 岩波書店, 2016年, 315頁).

②『『順天時報』社論・論説目録』(〈青山治世, 関智英編〉, (公財) 東洋文庫, 2017年, 382頁, [監修]).

毛里 和子

①「資料・情報・データベースと分析」(『東方』, 422号, 2~4頁, 東方書店, 2016年4月).

①「当代中国政治研究: 私の挑戦」(『現代中国』, 第90号, 3~14頁, 現代中国学会, 2016年9月).

①「地域研究と国際関係学の緊張 中国研究から」(初瀬龍平・戸田真紀子・松田哲・市川ひろみ編『国際関係論の生成と展開: 日本の先達との対話』,

280～291 頁，ナカニシヤ出版，2017 年 3 月）。

②『中国政治：習近平時代を読み解く』（山川出版社，2016 年，119 頁）。

②翻訳『ニクソン訪中機密会談録【増補決定版】』（〈毛里興三郎〉，名古屋大学出版会，2016 年，336+8 頁）。

#### 榎山 明

①「簡牘文書学与法制史：以里耶秦簡為例」（柳立言主編『史料与法史学』，37～68 頁，中央研究院歴史語言研究所，2016 年 8 月）。

#### 守川 知子

①“Les lieux de commémoration et les funérailles Qājār: Le Transport des Corps dans la société Chiïte”, Anna Caiozzo ed., *Mythes, rites et émotions: Les funérailles le long de la Route de la soie*, Paris: Honoré Champion, May 2016.

② *Vestiges of the Razavi Shrine: Āthār al-Razavīya: a Catalogue of Endowments and Deeds to the Shrine of Imam Riza in Mashhad*, (Toyo Bunko Research Library 17), 〈Christoph Werner〉, The Toyo Bunko, 2017 年，369p.

#### 森平 雅彦

③「事元期高麗における王位継承問題の構図」（朝鮮学会大会第 67 回，於：天理大学，2016 年 10 月 2 日）。

③「仏への祈りでたどる高麗史」（根津美術館「高麗仏画」展講演会，於：根津美術館（東京），2017 年 3 月 26 日）。

#### 森安 孝夫

①「シルクロード研究と世界史教育」（『本』，2016 年 4 月号，52～53 頁，講談社，2016 年 4 月）。

③「日本文化の源流としての朝鮮・中国・シルクロード」（神戸市外国語大学客員教授講演会，於：神戸市外国語大学・三木記念会館，2016 年 10 月 11 日）。

③「ソグド人及びその東方発展」（ソグド研究会，於：奈良県文化会館，2017 年 1 月 21 日）。

③「世界史上における突厥の位置づけ：トルコ民族の原郷からトルキスタンへ」（ソグド研究会，於：奈良県文化会館 2017 年 3 月 12 日）。



矢島 洋一

- ①「葡萄の道」(『月刊大和路ならら』, 19 卷 6 号, 42～43 頁, 地域情報ネットワーク, 2016 年 6 月).
- ①“Russian Supervision over Islamic Courts in Early Twentieth-Century Samargand” (『日本中東学会年報』, 32 卷 2 号, 21～32 頁, 日本中東学会, 2017 年 1 月).
- ①「ナジユムッディーン・クブラーの殉教」(『13-14 世紀モンゴル史研究』, 第 2 号, 13～20 頁, 2017 年 3 月, [科学研究費補助金 基盤研究 (B)「モンゴル国現地収集史料等による 13～14 世紀モンゴル高原史の再構成」, 課題番号: 26284112, 研究代表者: 松田孝一]).
- ③「トルキスタン地方統治規程の改正」(第 8 回近代中央ユーラシア比較法制度史研究会, 於: 静岡市ふしみや, 2016 年 12 月 3 日).
- ③「ムスリム史料におけるモンゴル高原」(モンゴル史研究の新展開 III, 於: 龍谷大学, 2017 年 2 月 11 日).

柳田 征司

- ②『日本語の歴史 6 主格助詞「ガ」の千年紀』(武蔵野書院, 2016 年, 238 頁).

矢吹 晋

- ①「独裁者・習近平」(『中国情報ハンドブック』, 18～28 頁, 蒼蒼社, 2016 年 7 月).
- ①「南シナ海仲裁裁定によって沖ノ鳥島がイワになる」(『情況: 変革のための総合誌』, 第四期 (2016 年 No. 2), 12～23 頁, 情況出版, 2016 年 8 月).
- ①書評「D. グレーバー著『負債論: 貨幣と暴力の 5000 年』が説くパックス・アメリカーナの崩壊 (特集 トランプ・ショック)」(『情況: 変革のための総合誌』, 第四期 (2016 年 No. 3), 111～126 頁, 情況出版, 2016 年 12 月).
- ①“S. Wells Williams’ Contribution to the Opening of Japan: with Special Reference to the Perry’s so-called White Flag Documents”, *The bulletin of Yokohama City University: Social Science*, Vol. 68 No. 3, pp. 123-146, Arts and Science Society of Yokohama City University, Mar. 2017.
- ②『南シナ海領土紛争と日本』(花伝社, 2016 年 6 月, 230+27 頁).

### 山内 民博

- ①「近世朝鮮の周縁的集団と史料：戸籍史料・裁判史料からの接近」（『環東アジア研究』，10，63～76頁，新潟大学環東アジア研究センター，2017年3月）。
- ③「朝鮮後期請願・訴訟のなかの人と集団」（韓国・朝鮮文化研究会第17回研究大会，於：明星大学，2016年10月22日）。

### 山村 義照

- ③「16-18世紀のヨーロッパ刊本に用いられた中国の紙」（日本文化財科学学会第33回大会，〈江南和幸，岡田至弘，石塚晴道，徐小潔，篠崎陽子〉，於：奈良大学，2016年6月4～5日，[ポスター発表]）。

### 山本 英史

- ①「近代中国と溺女認識」（関根謙編『近代中国 その表象と現実：女性・戦争・民俗文化』，17～39頁，平凡社，2016年12月）。
- ①「清代の溺女問題認識」（三木聰編『宋－清代中国の政治と社会』，243～272頁，汲古書院，2017年2月）。
- ①書評「三木聰著『伝統中国と福建社会』」（『史学雑誌』，126編3号，93～98頁，史学会，2017年3月）。
- ②『中国の歴史（増補改訂版）』（河出書房新社，2016年，366頁）。

### 山本 真

- ①「日中戦争前期，サラワク華僑の救国献金運動と祖国の表象」（関根謙編『近代中国その表象と現実 女姓・戦争・民俗』，156～183頁，平凡社，2016年12月）。
- ①「郷里空間の統治と暴力：危機下の農村における共同性の再編と地域自治政権」（小嶋華津子・島田美和編『中国の公共性と国家権力：その歴史と現在』，105～130頁，慶應義塾大学出版会，2017年3月）。
- ②『近現代中国における社会と国家：福建省での革命，行政の制度化，戦時動員』（創土社，2016年，461頁）。

### 湯浅 剛

- ③“Russia, China and Japan’s Role and Strategy in Central Asia”, IFRI Seminar “Assessing the Role of Russia, from Europe to Asia: Japanese

and European Perspectives”, Institut français des relations internationales (IFRI), Paris, France, 15, Sept. 2016.

③「ソ連解体後の変動をどう捉えるか：政治体制と地域秩序の変遷と展望」(国際安全保障学会 2016 年度研究大会部会 5「ロシアの外交・安全保障政策の将来」, 於：大阪大学豊中キャンパス, 2016 年 12 月 3 日).

吉澤 誠一郎

③「白鳥庫吉の東洋史学：史学史的考察として」(第 8 回日中学者中国古代史論壇, 於：日本教育会館, 2016 年 5 月 20 日).

③「武士道の近代命運：晩清中國的尚武理念與性別重構」(第 5 届「漢化・胡化・洋化」傳統社會的挑戰與回應國際學術研討會, 於：國立中正大學, 2016 年 11 月 5 日).

③「民国初年の対日ボイコットにおける東南アジア華僑と孫文」(孫文生誕 150 周年記念国際學術シンポジウム, 於：神戸大学統合研究拠点, 2016 年 11 月 27 日).

吉田 豊

①「唐代におけるマニ教信仰：新出の霞浦資料から見えてくること」(『唐代史研究』, 第 19 号, 22～41 頁, 唐代史研究会, 2016 年 8 月).

①「トルファンおよび中国江南のマニ教絵画について：マニの描いた「絵図」を視野に」(宮治昭編『アジア仏教美術論集 中央アジア I ガンダーラ～東西トルキスタン』, 551～582 頁, 中央公論美術出版, 2017 年 1 月).

①「ソグド語訳『楞伽師資記』と関連する問題について」(『東方学』, 133, 52～31 頁, 東方学会, 2017 年 1 月).

①「中国, トルファンおよびソグディアナのソグド人景教徒：大谷探検隊将来西域文化資料 2497 が提起する問題」(入澤崇・橘堂晃一編『大谷探検隊収集西域胡語文献論叢 仏教・マニ教・景教』, 155～180 頁, 龍谷大学仏教文化研究所, 2017 年 3 月).

①「コータンのユダヤ・ソグド商人？」(土肥義和・氣賀澤保規編『敦煌・吐魯番文書の世界とその時代(東洋文庫論叢第 80)』, 263～285 頁, (公財)東洋文庫, 2017 年 3 月).

吉水 清孝

①「Dignāga によるアポーハ説の再検討：片岡啓への応答」(『インド論理

学研究』, 9, 1~10 頁, インド論理学研究会, 2016 年 11 月).

① 「Brahmasūtra 成立史の再検討: 第 3 卷第 3 章について」(『論集』, 43, 61~75 頁, 印度学宗教学会, 2016 年 12 月).

① “Tolerance and Intolerance in Kumāriḥa’s Views on the Vedic śākhā”, J. E. M. Houben, Julieta Rotaru, Michael Witzel (eds.), *Vedic Śākhās: Past, Present, Future*, pp. 307-326, Harvard University, 2016, [*Harvard Oriental Series, Opera Minora* 9].

吉水 千鶴子

① “Transmission of the Mūlamadhyamakakārikā and Prasannapadā to Tibet from Kashmir”, Eli Franco and Isabelle Ratié (eds.) *Around Abhinavagupta. Aspects of the Intellectual History of Kashmir from the Ninth to the Eleventh Century*, 6, pp. 645-663, Berlin, LIT Verlag, Oct. 2016, [University of Leipzig].

① “How Did Tibetans Learn a New Text from the Text’s Translators and Comment on It? The Case of Zhang Thang sag pa (Twelfth Century)”, Dorji Wangchuk (ed.) *Cross-Cultural Transmission of Buddhist Texts: Theories and Practices of Translation*, pp. 353-372, University of Hamburg, 2016, [*Indian and Tibetan Studies* 5].

① 「ダルマキールティの帰謬論証の再解釈」(『哲学・思想論集』, 42, 33~54 頁, 筑波大学人文社会科学研究所哲学・思想専攻, 2017 年 3 月).

吉村 慎太郎

① 「中東の核問題と紛争」(広島市立大学広島平和研究所監修, 吉川元・水本和実編『なぜ核はなくなるのか II: 「核なき世界」への視座と展望』, 115~129 頁, 法律文化社, 2016 年 8 月).

吉村 武典

① 「14 世紀マムルーク朝時代のエジプトにおける地方行政官: ワーリー, カーシフとその変遷を中心に」(『史滴』, 38, 239~219 頁, 早稲田大学文学部東洋史学専修室, 2016 年 12 月).

③ “The Role of Middle and Lower Rank Military Officers during the Mamluk Dynasty”, in “German-Japanese Workshop on Mamlukology,” supported by Grants-in-Aid for Scientific Research (B) “International

Joint Study of the Waqf from a Comparative Viewpoint” by Japan Society for the Promotion of Science (JSPS KAKENHI Grant Number 25284141, headed by Miura Toru, 2013–2017), The Toyo Bunko, 6 Nov. 2016, [研究発表].

③ “A Historical Overview of Political Culture and Decision Making for Nile Flood Control in Pre modern Egypt”, National Research Institute of Astronomy and Geophysics, Madwar Hall, Helwan, Egypt, 3 Jan. 2017, [講演].

六反田 豊

① 「特集「韓国朝鮮社会と記録・記憶の諸相」に寄せて」(『韓国朝鮮の文化と社会』, 15, 7～15頁, 韓国・朝鮮文化研究会, 風響社, 2016年10月).

③ 「조선초기의 재정제도와 정도전 (朝鮮初期の財政制度と鄭道伝)」(제3회 삼봉학 국제학술대회「정도전과 동아시아 신질서 구축」(第3回三峯学国際学術大会「鄭道伝と東アジア新秩序構築」, 於: プレスセンター (韓国ソウル市), 2016年8月25日).

③ 「15世紀朝鮮の税穀水運」(2016年度第4回東京大学コリア・コロキウム, 於: 東京大学本郷キャンパス法文2号館, 2017年2月23日, [『東京大学コリア・コロキウム講演記録集 (2016年度)』, 近刊収録予定]).